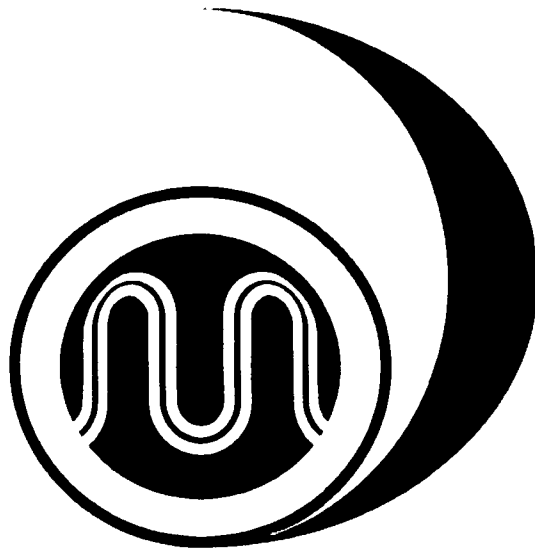


第302回
地震防災対策強化地域判定会

記者レクチャー資料



平成23年6月27日

気象庁

この資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

目次・概況

定例資料

1. 地震活動概況 P. 1-7
2. 注目すべき地震活動 P. 8-11
3. 活動指数 P. 12-16
4. 静穏化・活発化領域の抽出 P. 17-18
5. 領域別地震活動 P. 19-35
6. ひずみ計による地殻変動観測 P. 36-59
7. 天竜船明観測点におけるレーザー式変位計による地殻変動観測（気象研究所）
. P. 60-61

平成 23 年 5 月～6 月 22 日の主な地震活動

(平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した地震については $M \geq 6.0$ のみ記述)

○ 想定震源域およびその周辺； $M \geq 3.0$ または震度 1 以上を観測した地震

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
5/5	3:22	静岡県中部	18	3.6	3	北西－南東に圧力軸を持つ横ずれ断層型
5/17	19:40	山梨県中・西部	19	2.6	2	南北に圧力軸をもつ逆断層型
5/22	12:53	愛知県東部	14	1.8	1	---
5/23	15:10	静岡県東部	9	2.3	1	---
5/30	14:13	静岡県東部	8	2.3	1	---

発震機構は初動発震機構解による。

○ 南関東； $M \geq 4.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
5/1	10:45	埼玉県南部	77	4.2	3	東西に圧力軸を持つ逆断層型
5/3	14:26	千葉県南東沖	33	4.2	2	西北西－東南東に張力軸を持つ正断層型
5/13	5:52	千葉県北西部	70	4.1	2	東北東－西南西に圧力軸を持つ型
5/20	17:53	茨城県南部	64	4.6	4	東西に圧力軸を持つ逆断層型
5/25	9:19	茨城県南部	62	4.5	3	東西に圧力軸を持つ逆断層型
6/3	10:33	茨城県南部	62	4.5	3	東北東－西南西に張力軸を持つ正断層型

発震機構は初動発震機構解による。

○ その他の地域； $M \geq 6.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
5/5	23:58	三陸沖	—	6.1	6.1	6.1	3	西北西－東南東に張力軸を持つ型
6/3	9:05	福島県沖	—	6.1	6.1	6.1	3	北西－南東に張力軸を持つ型
6/14	22:06	三陸沖	—	6.0	6.0	5.8	3	西北西－東南東に張力軸を持つ型
6/18	20:31	福島県沖	28	6.0	6.0	5.8	4	北北東－南南西に張力軸を持つ型

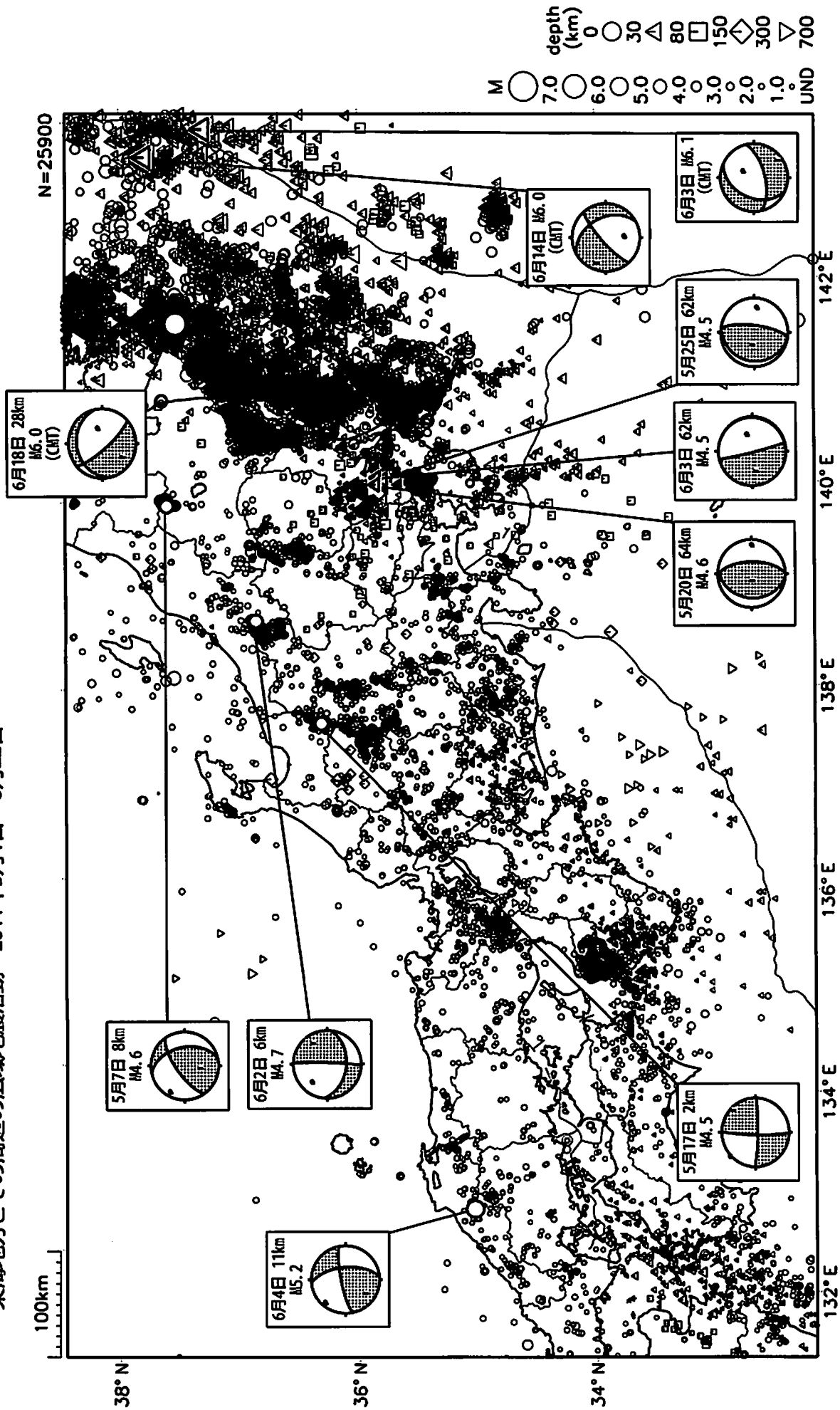
Mj は従来から用いられている気象庁マグニチュード。Mw はモーメントマグニチュード。

発震機構は CMT 解による。

※ 低周波地震活動

特に目立った活動はなかった。

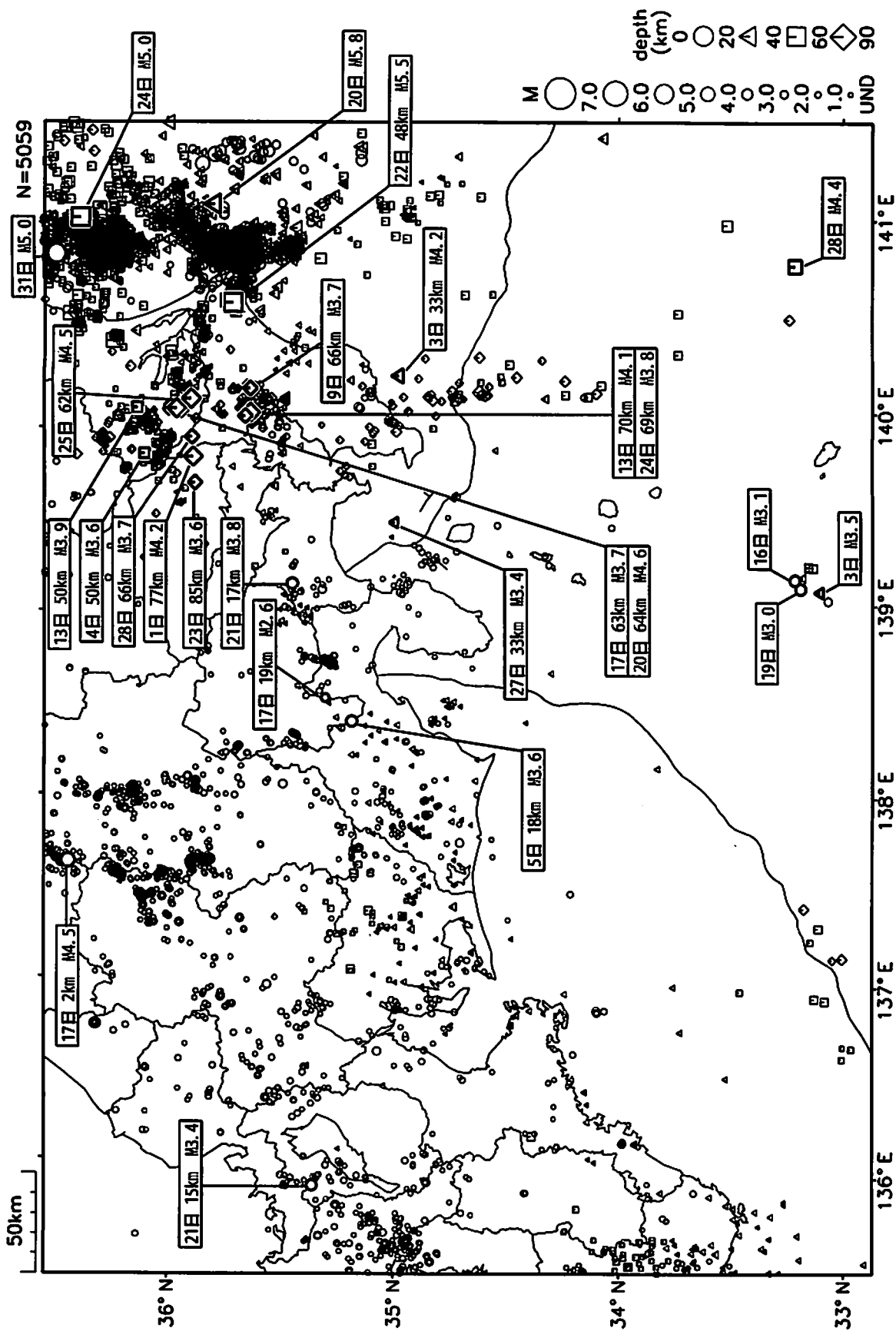
東海地方とその周辺の広域地震活動 2011年5月1日～6月22日



気象庁作成

図中の吹き出しは、陸域M5.0以上とその他の主な地震
ただし、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震域で発生した地震については、M6.0以上の地震

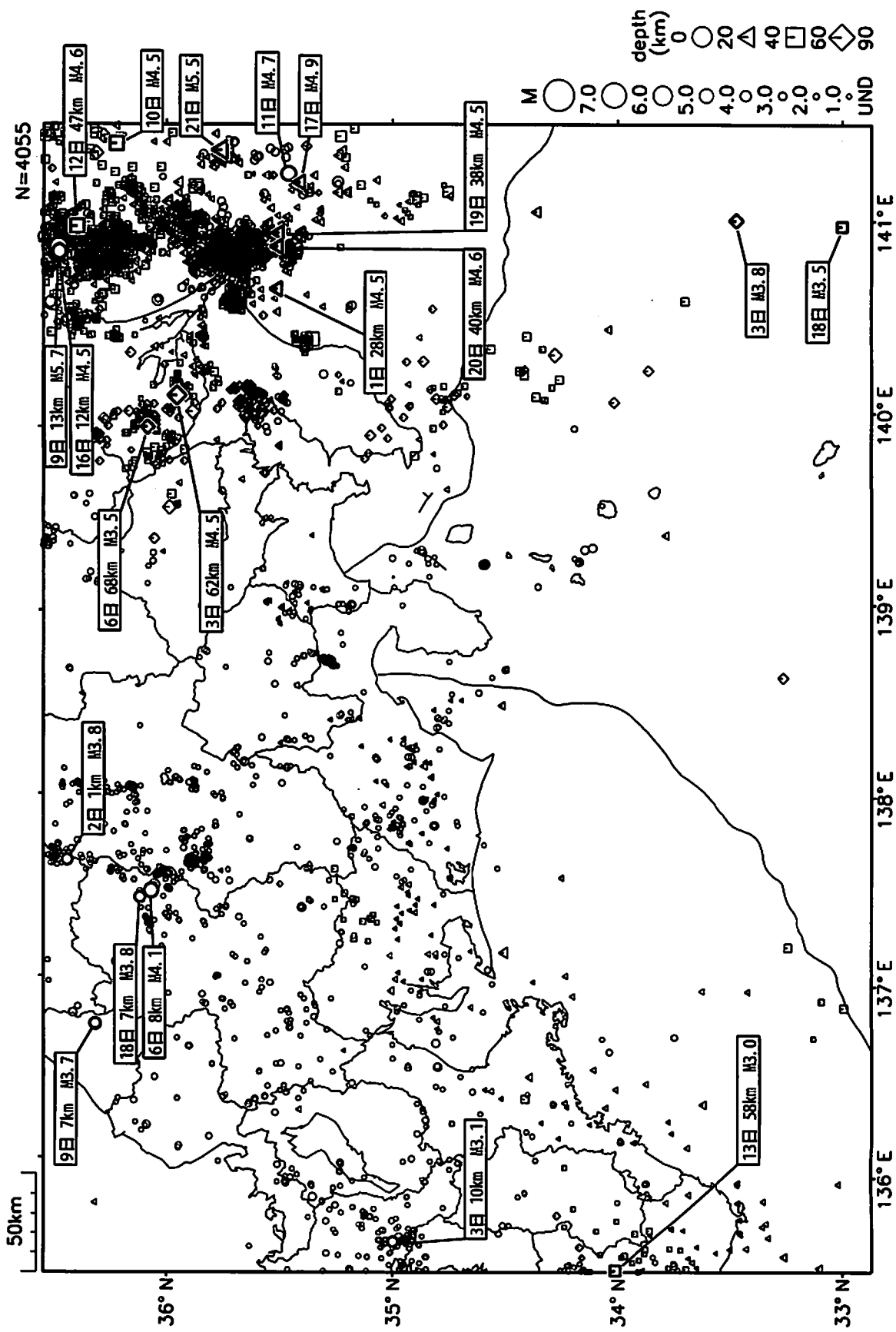
東海・南関東地域の地震活動 2011年5月 (1日～31日)



気象庁作成

精度良く hypocenter が定まった地震のみを表示している。

東海・南関東地域の地震活動 2011年6月 (1日～22日)

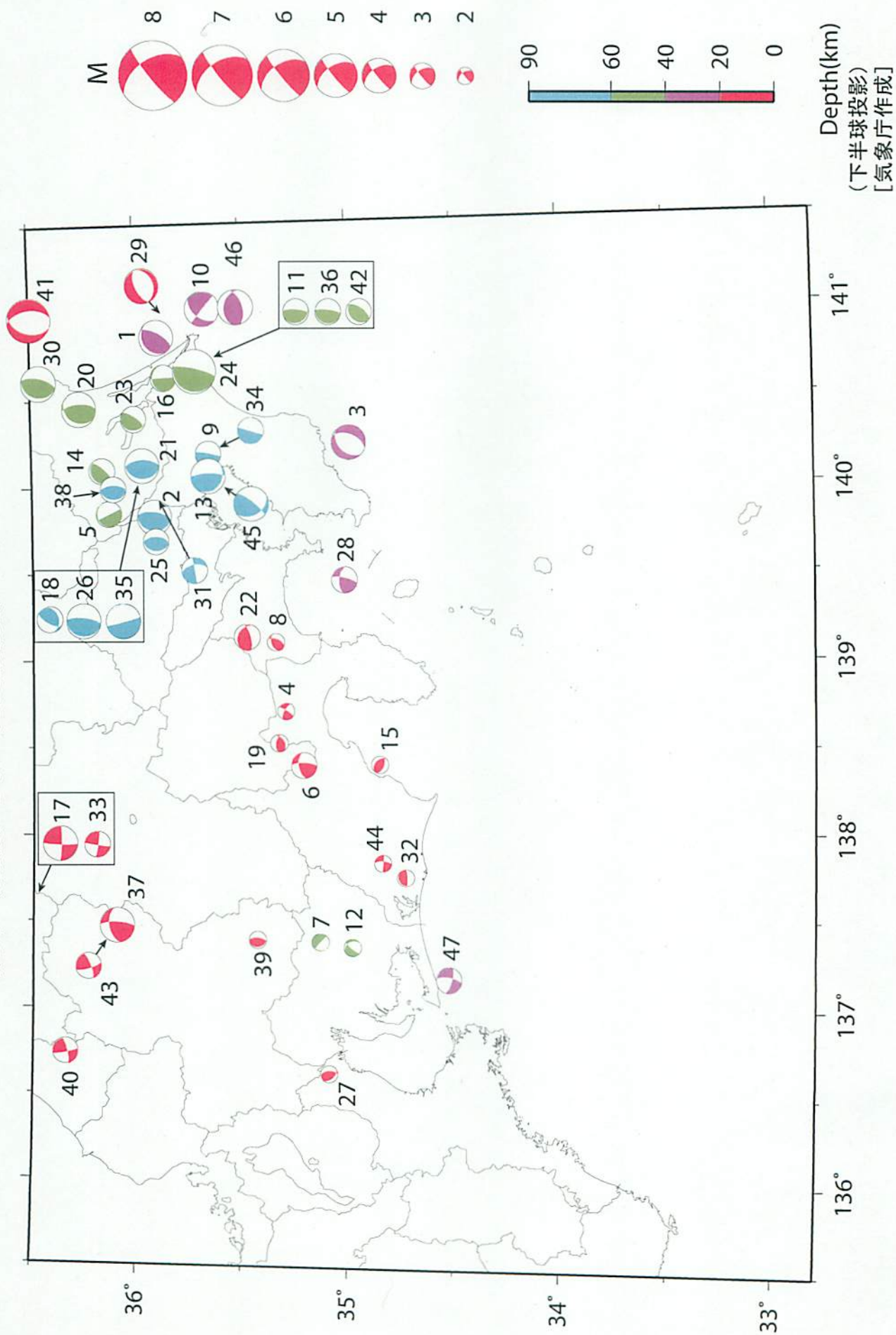


精度良く hypocenter 決定された地震のみを表示している。

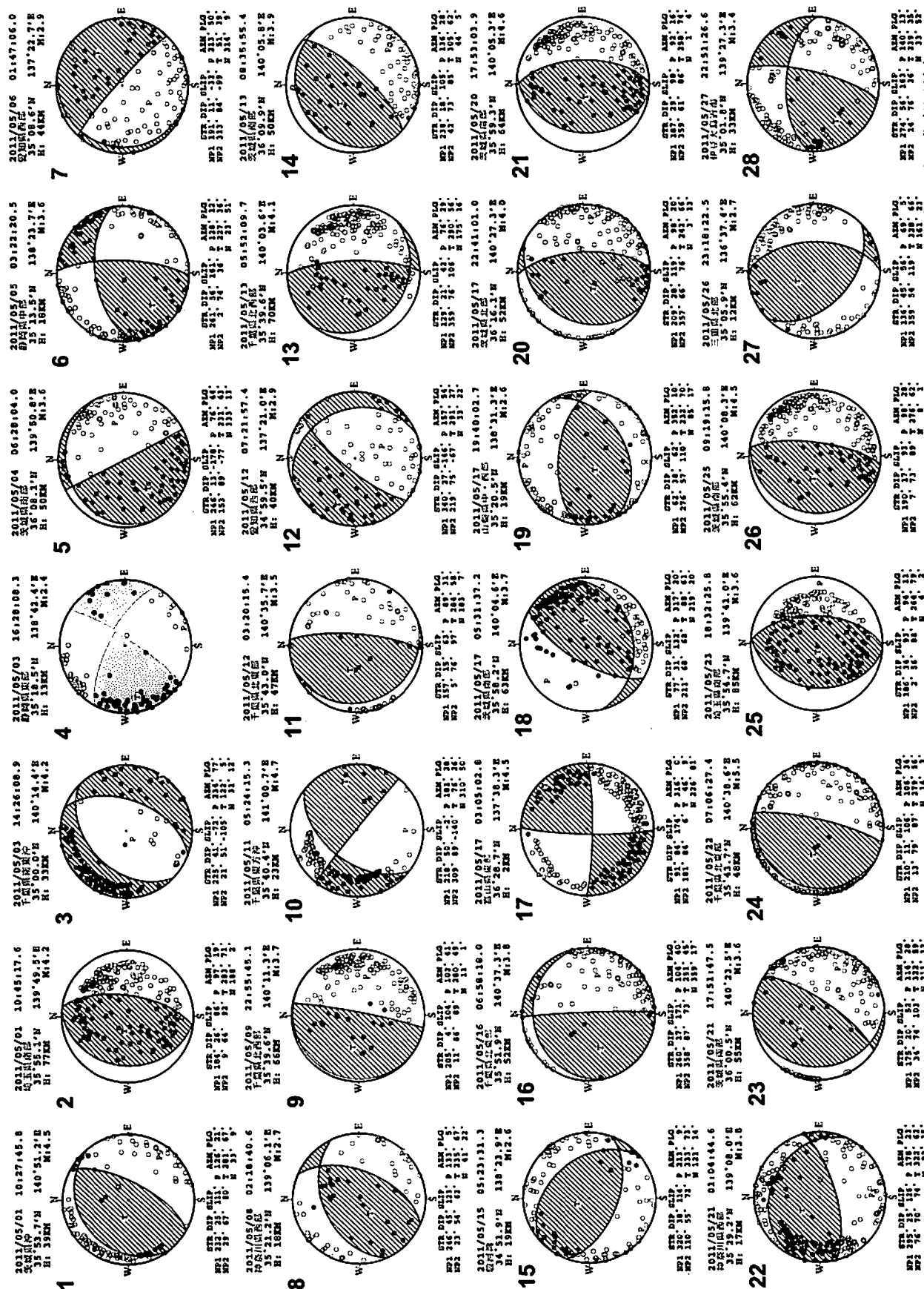
気象庁作成

東海・南関東地域の発震機構解 (1)

Period: 2011/05/01 00:00 -- 2011/06/22 24:00



東海・南関東地域の発電機構造解(2)

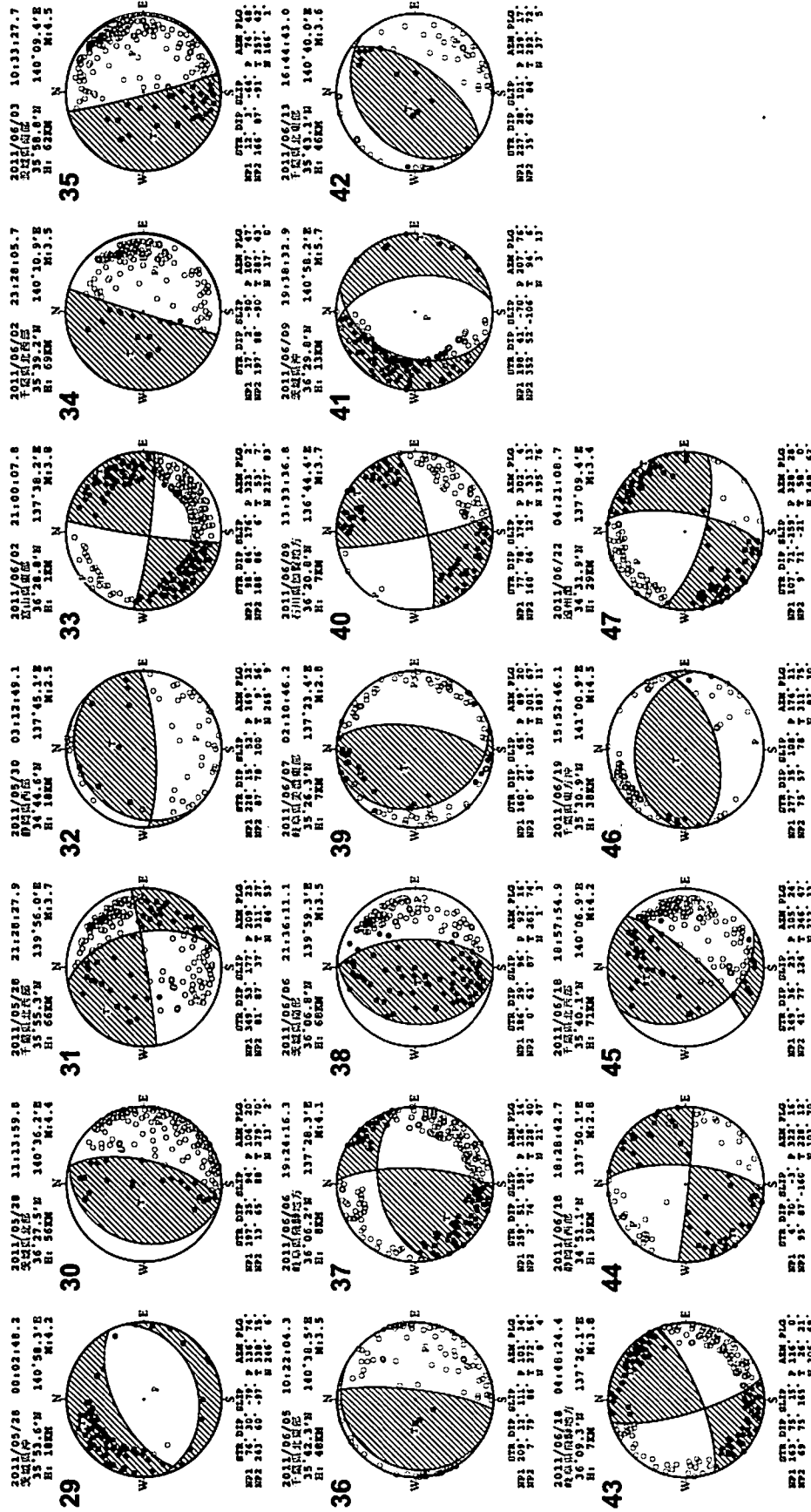


※東南海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。各震源域の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。断層パラメータが併記されていないものは、発震機構解の精度がやや劣るものである。

(下半球投影)
[氣象庁作成]

[氣象庁作成]

東海・南関東地域の発震機構解 (3)

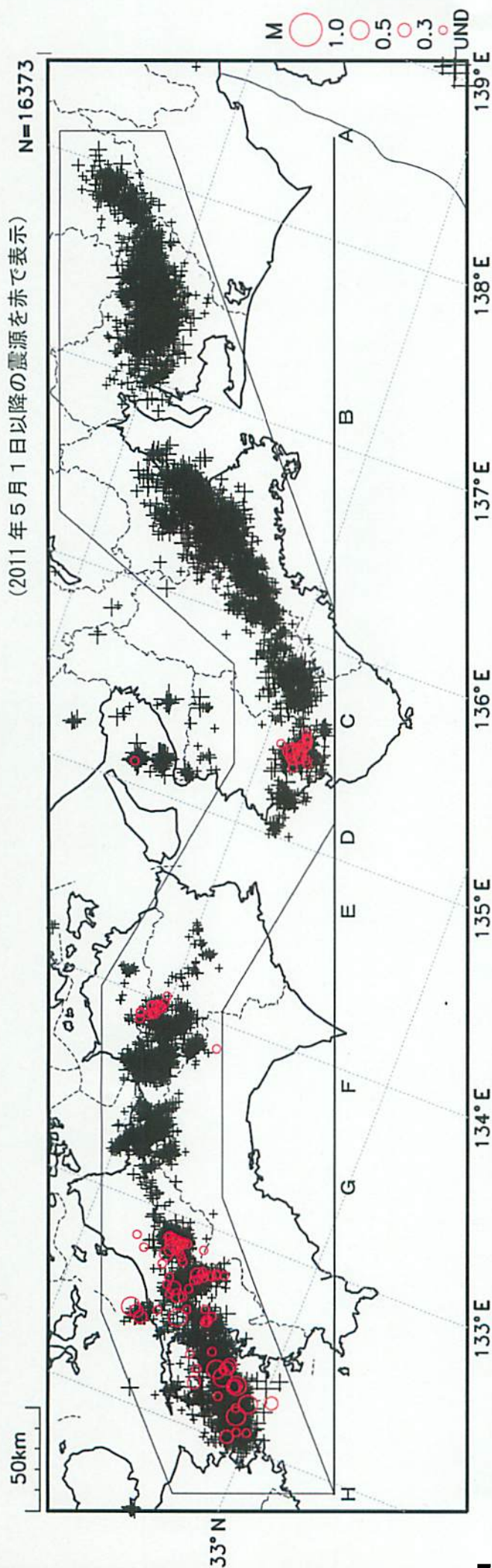


※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。
各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。

(下半球投影)
[気象庁作成]

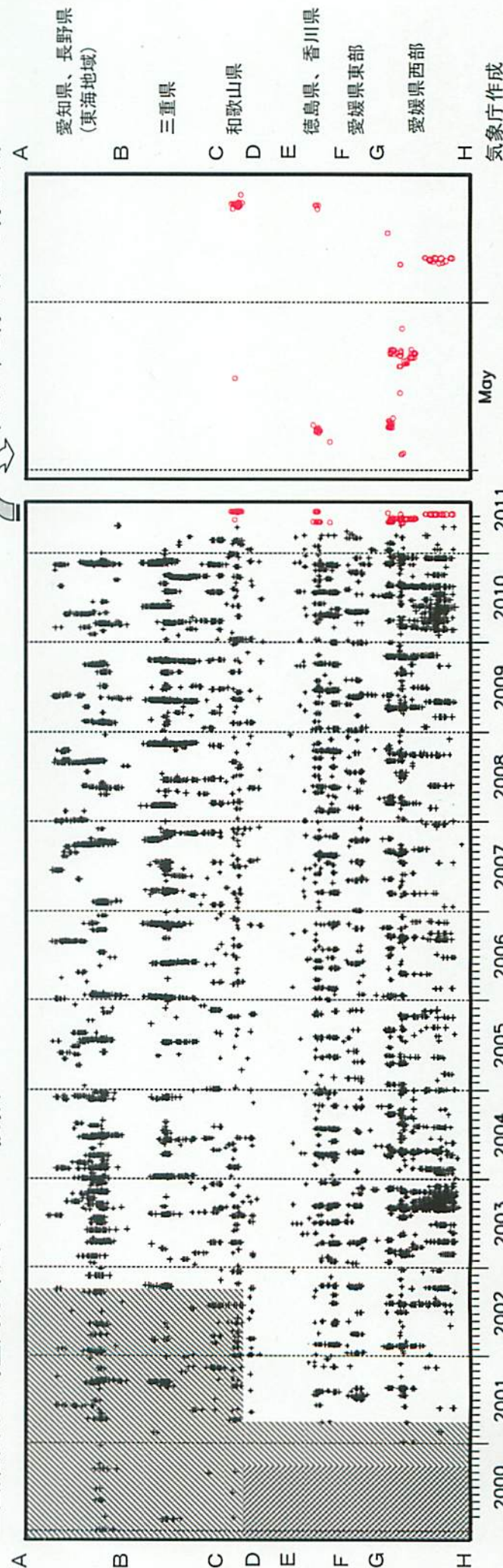
深部低周波地震活動 (2000 年 1 月 1 日～2011 年 6 月 22 日)

(2011 年 5 月 1 日以降の震源を赤で表示)



上図矩形内の時空間分布図 (A—H 投影)

(2011 年 5 月 1 日～6 月 22 日)

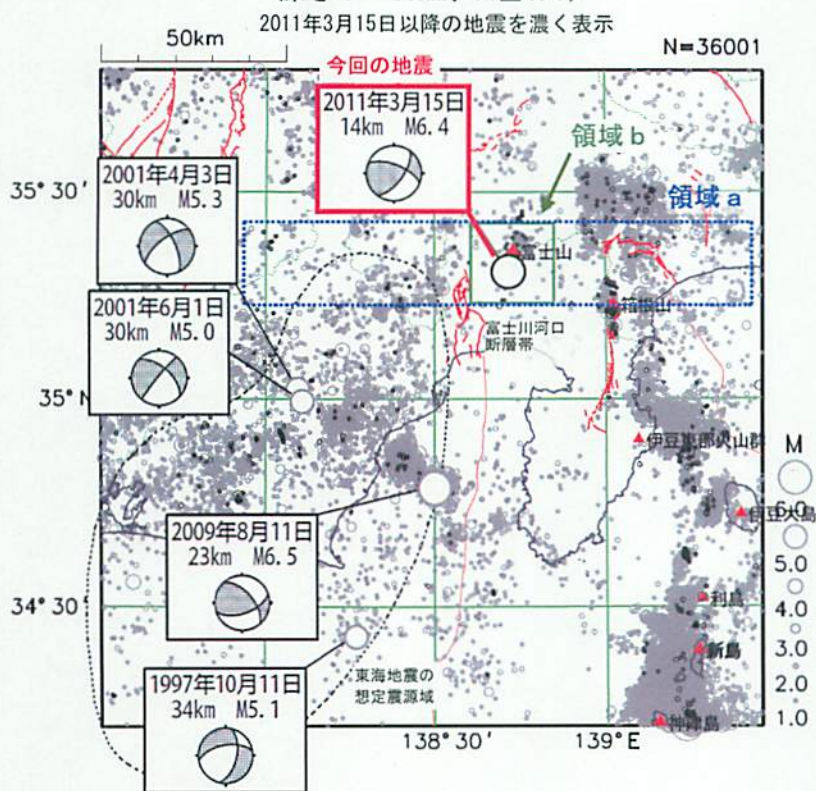


※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

気象庁作成

3月15日 静岡県東部の地震の余震域の地震活動

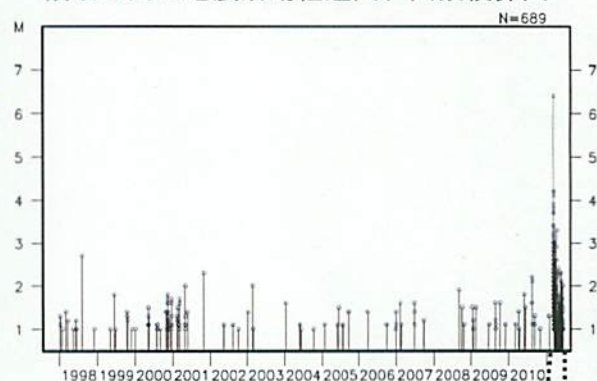
震央分布図（1997年10月1日～2011年6月22日、
深さ0～60km、 $M \geq 1.0$ ）



2011年3月15日22時31分に静岡県東部の
深さ14kmでM6.4の地震（最大震度6強）が
発生した。

この地震の発生直後は活発な余震活動が
見られたが、余震は徐々に減衰している。
5月以降、震度1以上を観測した余震は2
回であった。また、4月19日のM3.3の地震
（最大震度2）以降、M3.0以上の余震は発
生していない。

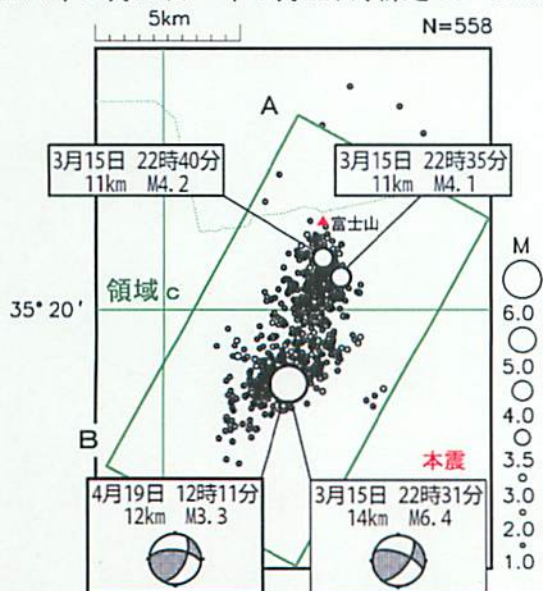
領域b内の地震活動経過図、回数積算図



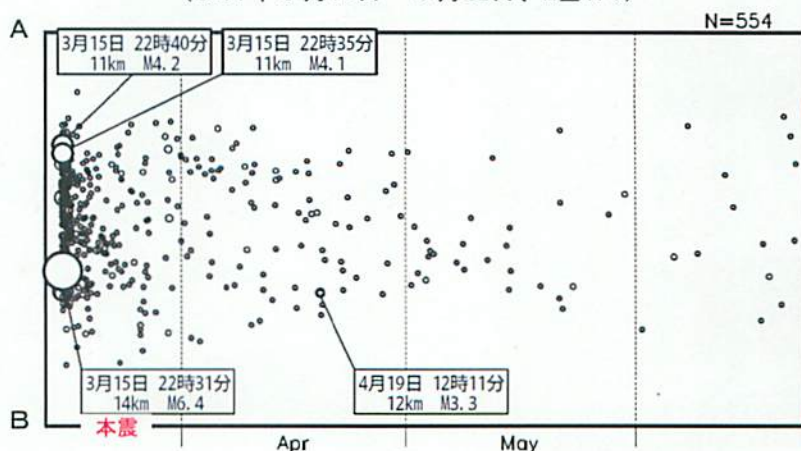
領域a内の断面図（東西断面）



今回の地震の余震域における震央分布図
（2011年3月15日～年6月22日、深さ0～20km、 $M \geq 1.0$ ）



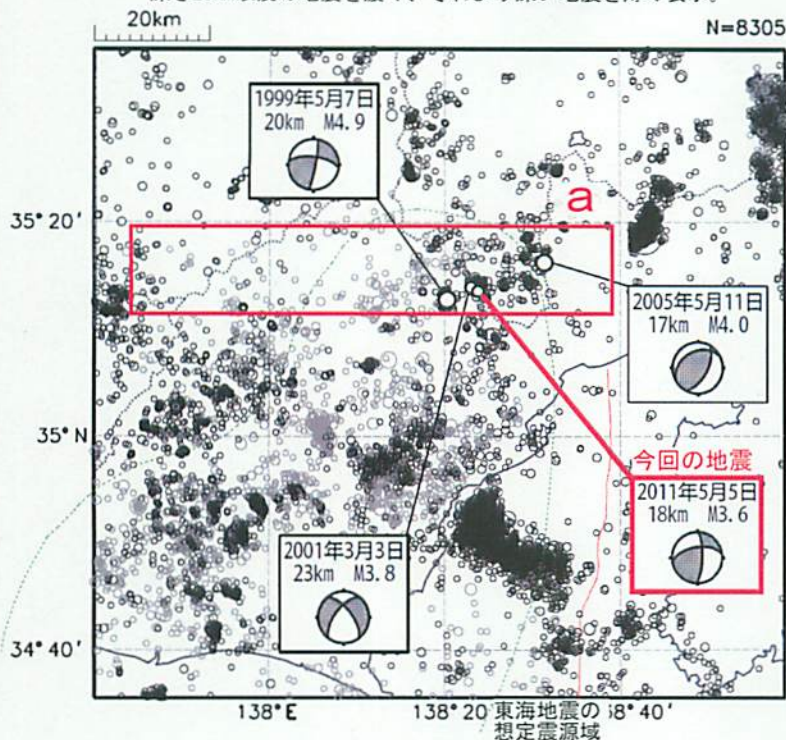
領域c内の時系列分布図
（2011年3月15日～6月22日、 $M \geq 1.0$ ）



5月5日 静岡県中部の地震

震央分布図（1997年10月1日～2011年6月22日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0～60km）

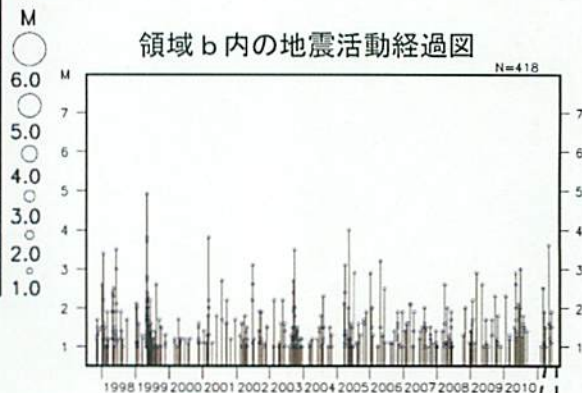
深さ25km以浅の地震を濃く、それより深い地震を薄く表示。



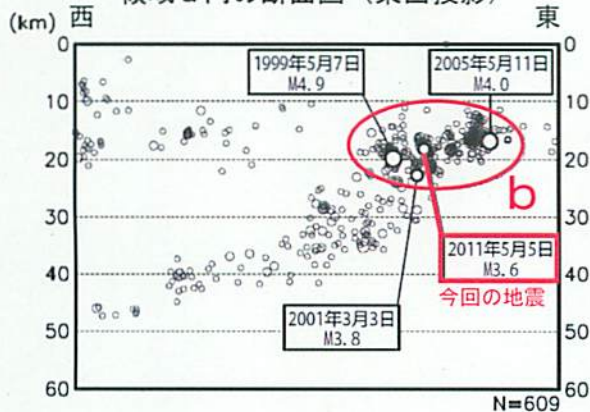
5月5日03時22分に静岡県中部の深さ18kmでM3.6の地震（最大震度3）が発生した。この地震の発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。小さな余震がいくつも観測されている。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M3.0を超える地震がしばしば発生している。

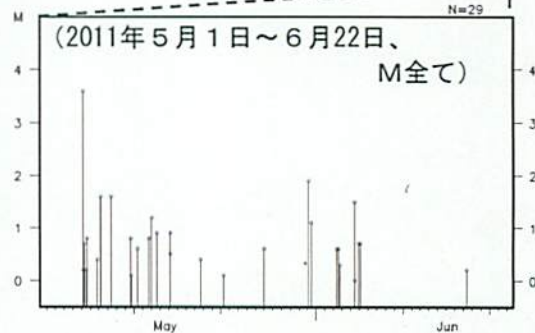
領域b内の地震活動経過図



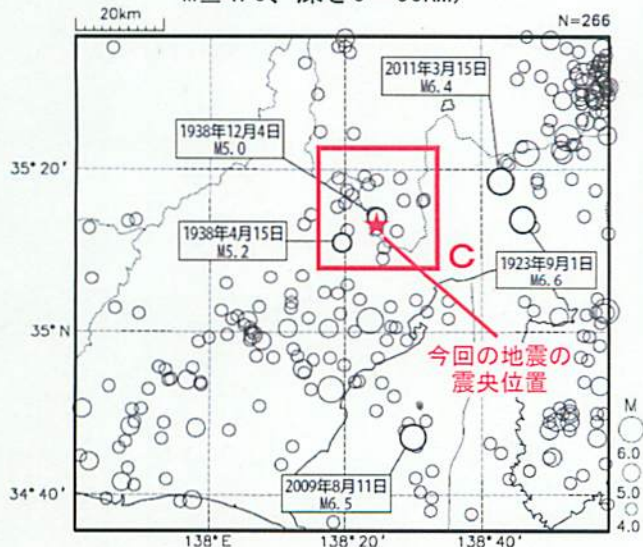
領域a内の断面図（東西投影）



（2011年5月1日～6月22日、M全て）

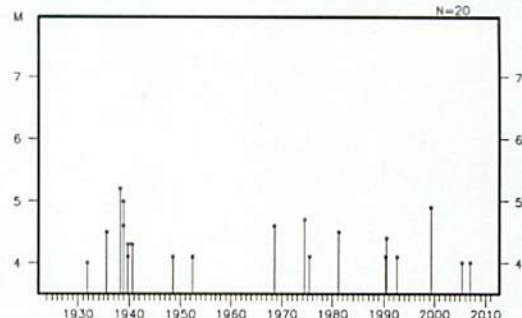


震央分布図（1923年8月1日～2011年6月22日、 $M \geq 4.0$ 、深さ0～60km）



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M5.0前後の地震が時々発生している。

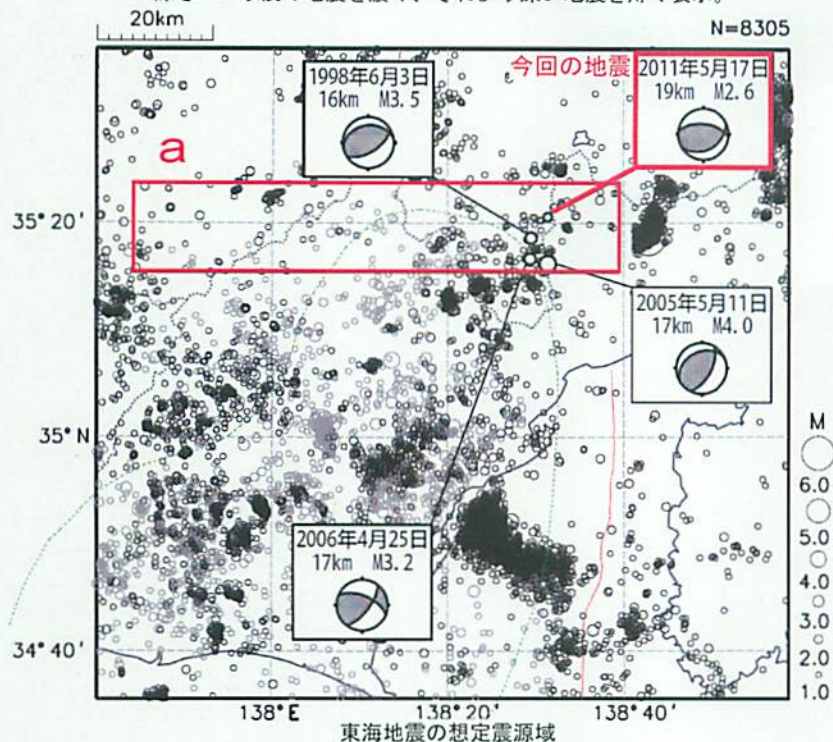
領域c内の地震活動経過図



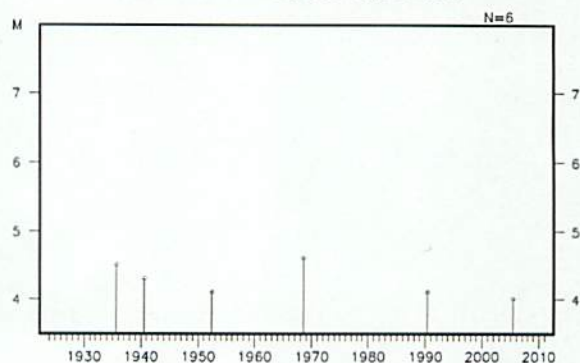
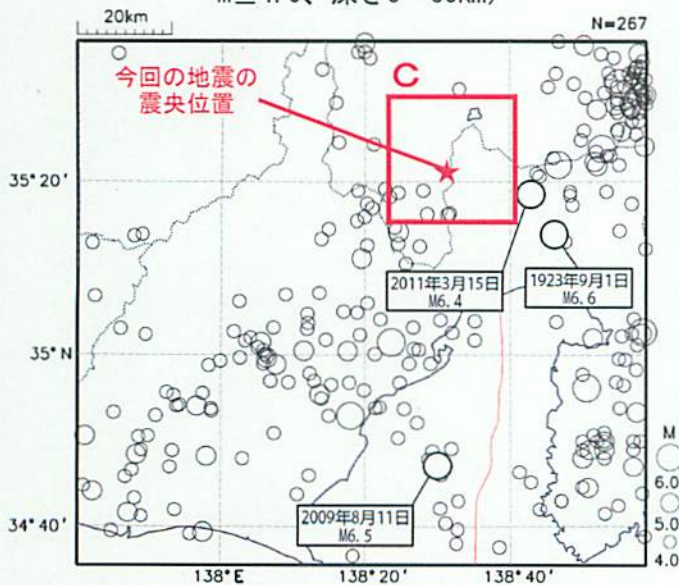
5月17日 山梨県中・西部の地震

震央分布図（1997年10月1日～2011年6月22日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0～60km）

深さ25km以浅の地震を濃く、それより深い地震を薄く表示。



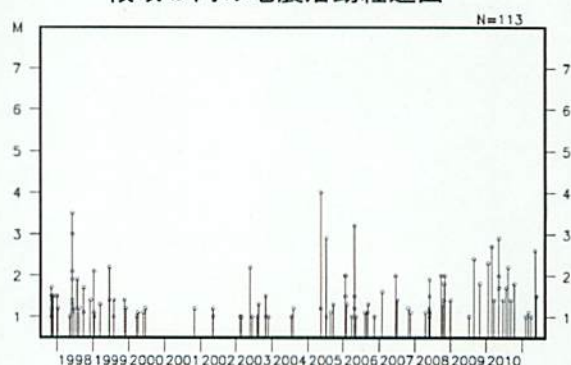
震央分布図（1923年8月1日～2011年6月22日、 $M \geq 4.0$ 、深さ0～60km）



5月17日19時40分に山梨県中・西部の深さ19kmで $M2.6$ の地震（最大震度2）が発生した。この地震の発震機構は、南北方向に圧力軸を持つ逆断層型である。余震は観測されていない。

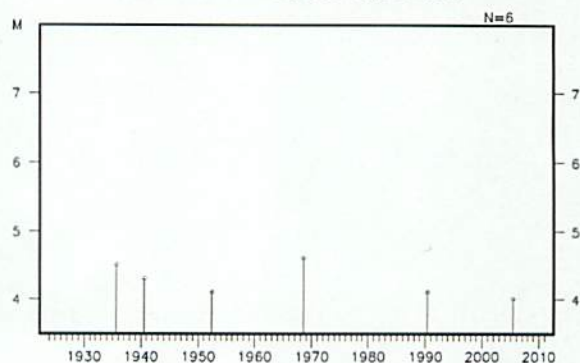
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、 $M3.0$ を超える地震が時々発生している。

領域b内の地震活動経過図



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、 $M5.0$ 以上の地震は発生していなかった。

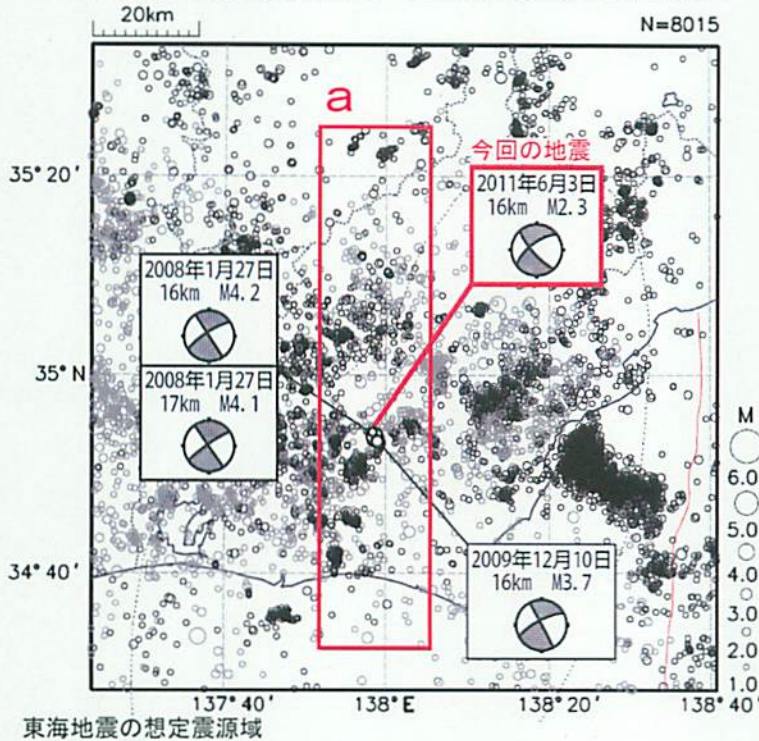
領域c内の地震活動経過図



気象庁作成

6月3日 静岡県西部の地震

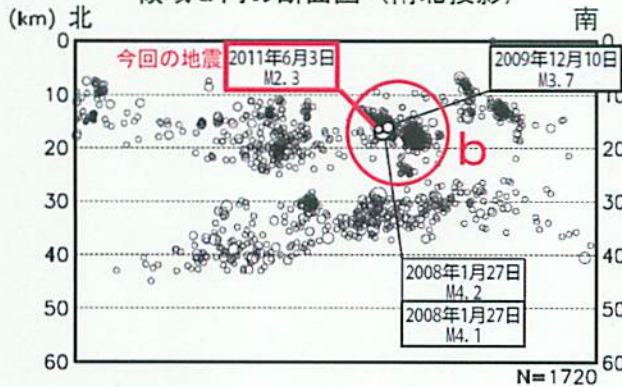
震央分布図 (1997年10月1日～2011年6月22日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0～60km)
深さ25km以浅の地震を濃く、それより深い地震を薄く表示。



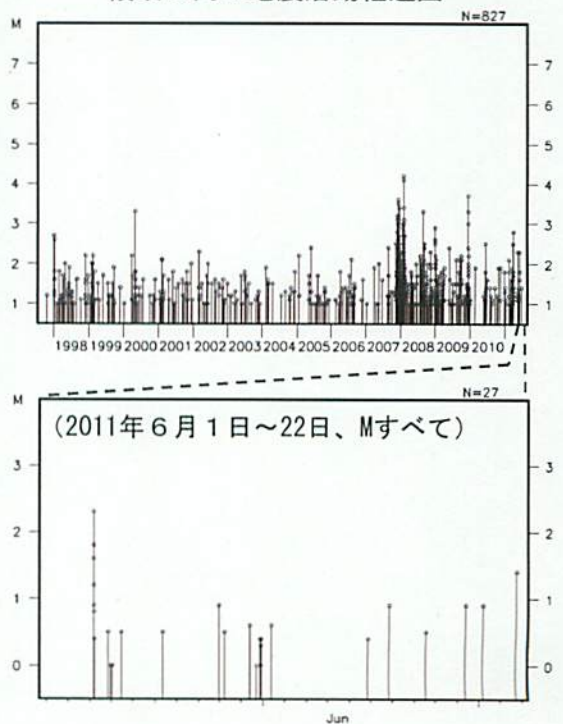
6月3日03時30分から04時30分にかけて、静岡県西部の深さ15～20kmで7個の地震が観測された。最大の地震は03時39分に発生したM2.3の地震 (震度1以上の観測なし) で、発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であり、地殻内で発生した地震である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、2007年終わってから2008年始めにかけて、まとまった地震活動が発生していた。

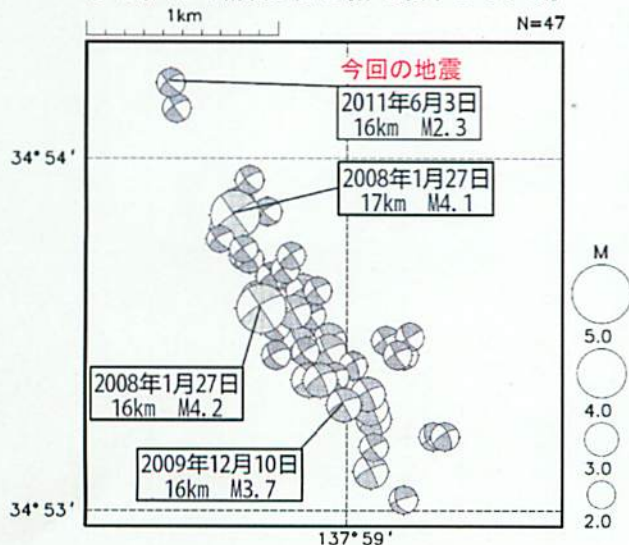
領域a内の断面図 (南北投影)



領域b内の地震活動経過図



今回の地震の震央周辺の発震機構の分布図
(1997年10月1日～2011年6月22日、 $M \geq 2.0$ 、深さ0～20km)
参考解 (やや精度が劣る解) も表示している。



今回の地震の震央周辺で発生した地震の発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型のものが多い。今回の地震の発震機構も、周辺で発生する地震に典型的な型であった。

東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2011年6月22日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内 全域	西側	東側	全域
短期活動指数	7	2	4	6	0	2	1	4
短期地震回数 (平均)	9 (5.29)	3 (7.00)	13 (13.16)	18 (14.15)	0 (6.16)	0 (2.46)	0 (3.70)	5 (6.06)
中期活動指数	7	4	7	8	0	1	0	5
中期地震回数 (平均)	24 (15.87)	22 (21.00)	54 (39.48)	58 (42.44)	2 (12.32)	1 (4.93)	1 (7.39)	14 (12.12)

* Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M≥1.1、駿河湾：M≥1.4

* クラスタ除去：震央距離がΔr以内、発生時間差がΔt以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：Δr=3km、Δt=7日

駿河湾：Δr=10km、Δt=10日

* 対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

* 基準期間： おおむね長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、

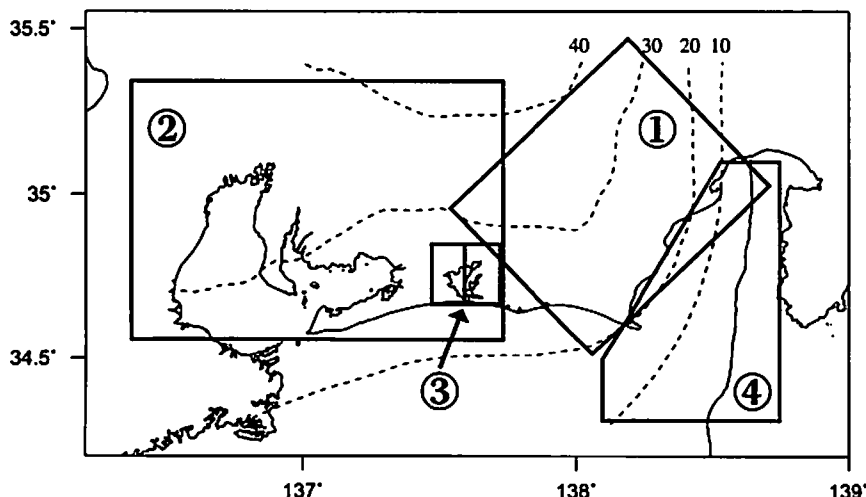
浜名湖周辺：1998年－2000年（3年間）、駿河湾：1991年－2000年（10年間）

[各領域の説明] ① 静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

② 愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③ 浜名湖周辺：固着域の縁。長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④ 駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。



* プレート境界の等深線を破線で示す。

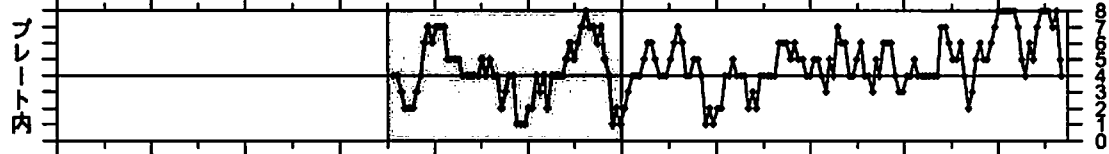
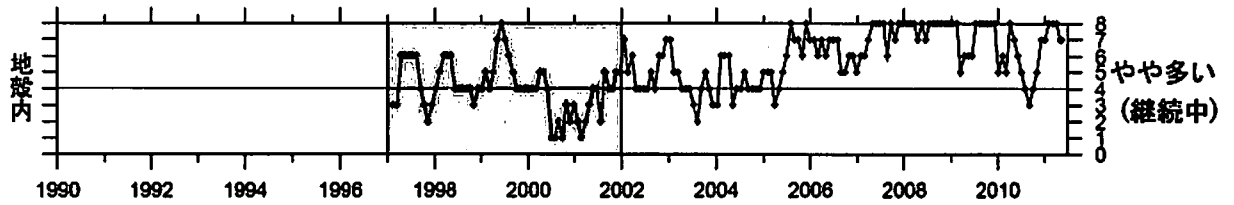
地震回数の指数化		
指数	確率 (%)	地震数
8	1	多い
7	4	やや多い
6	10	
5	15	
4	40	ほぼ平常
3	15	
2	10	
1	4	やや少ない
0	1	
		少ない

気象庁作成

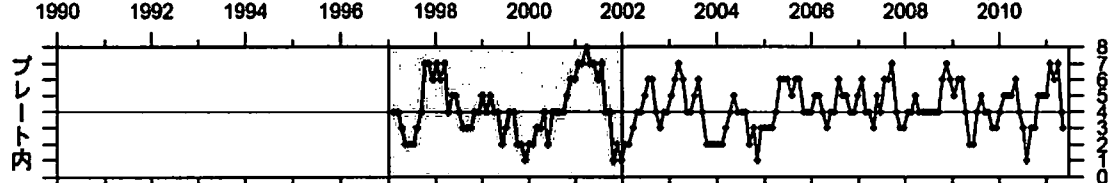
地震活動指数の推移（中期活動指数）

① 静岡県中西部（対象期間：90日）

1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.1

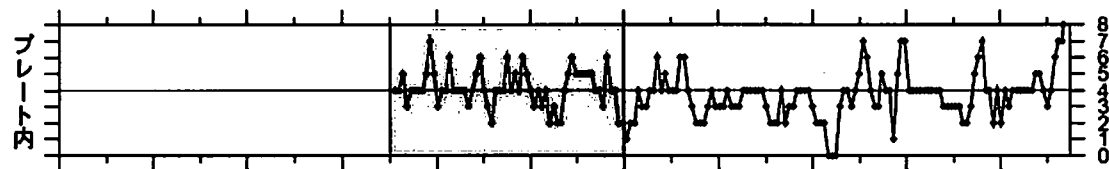
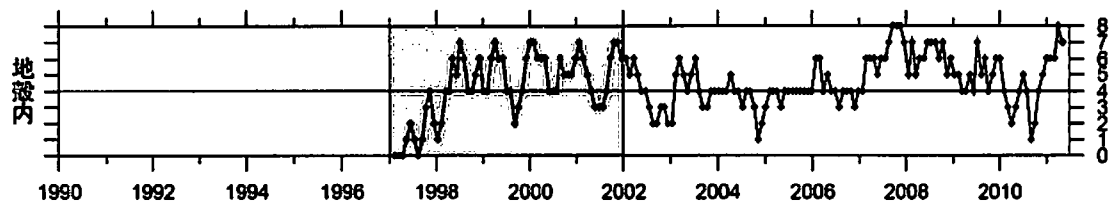


駿河湾の地震(2009年8月11日、M6.5)の余震域を除去



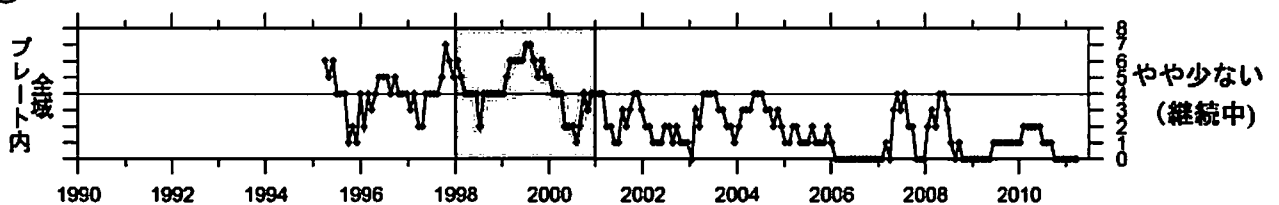
② 愛知県（対象期間：90日）

1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.1



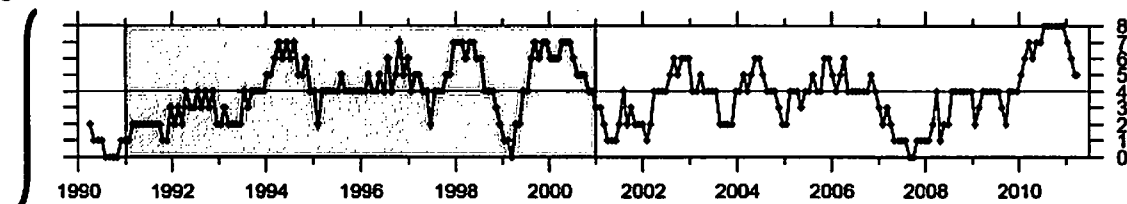
③ 浜名湖周辺（対象期間：180日）

1995/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.1

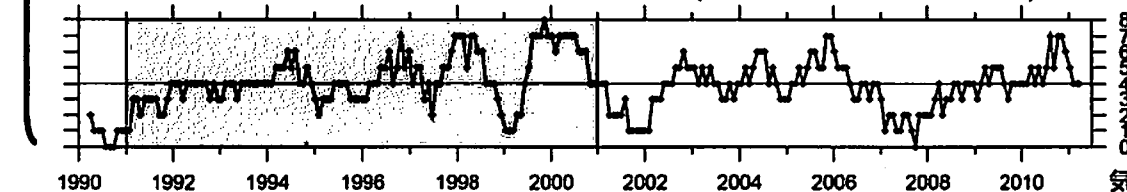


④ 駿河湾（対象期間：180日）

1990/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.4



駿河湾の地震(2009年8月11日、M6.5)の余震域を除去



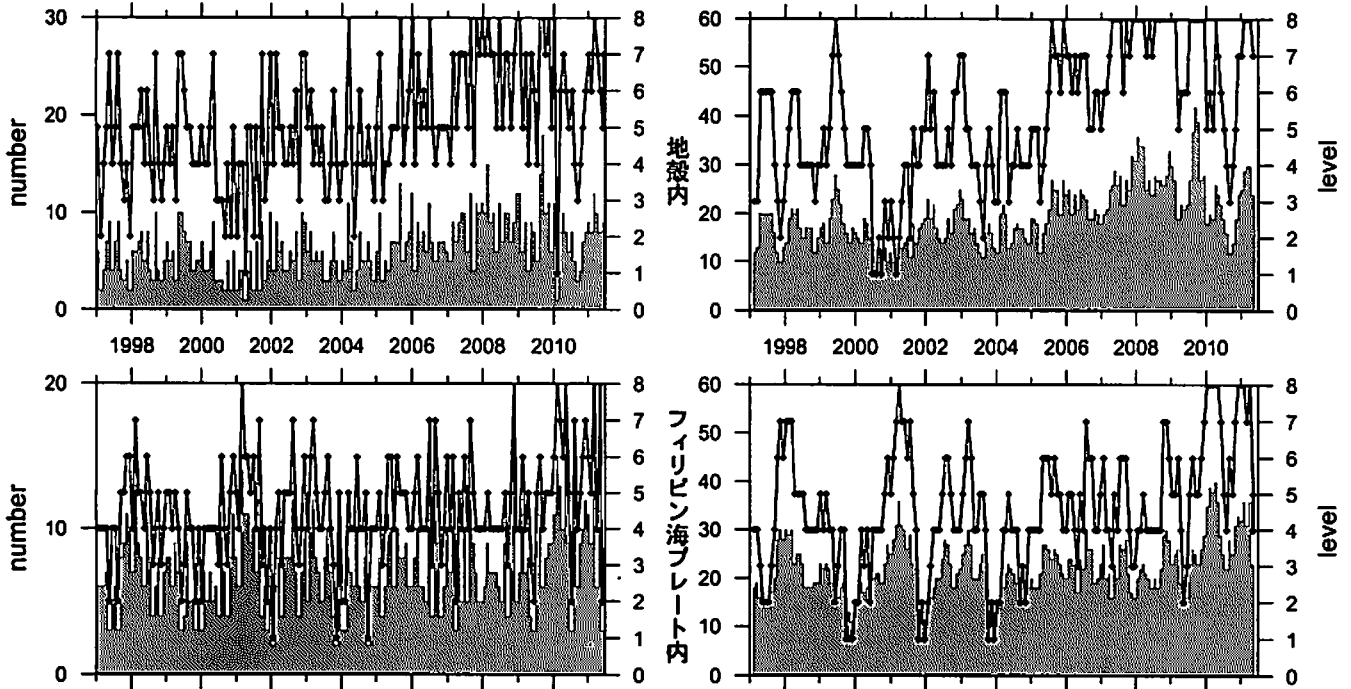
□ : 基準期間 / : 地震活動指数 (0-8)

気象庁作成

地震活動指数の推移

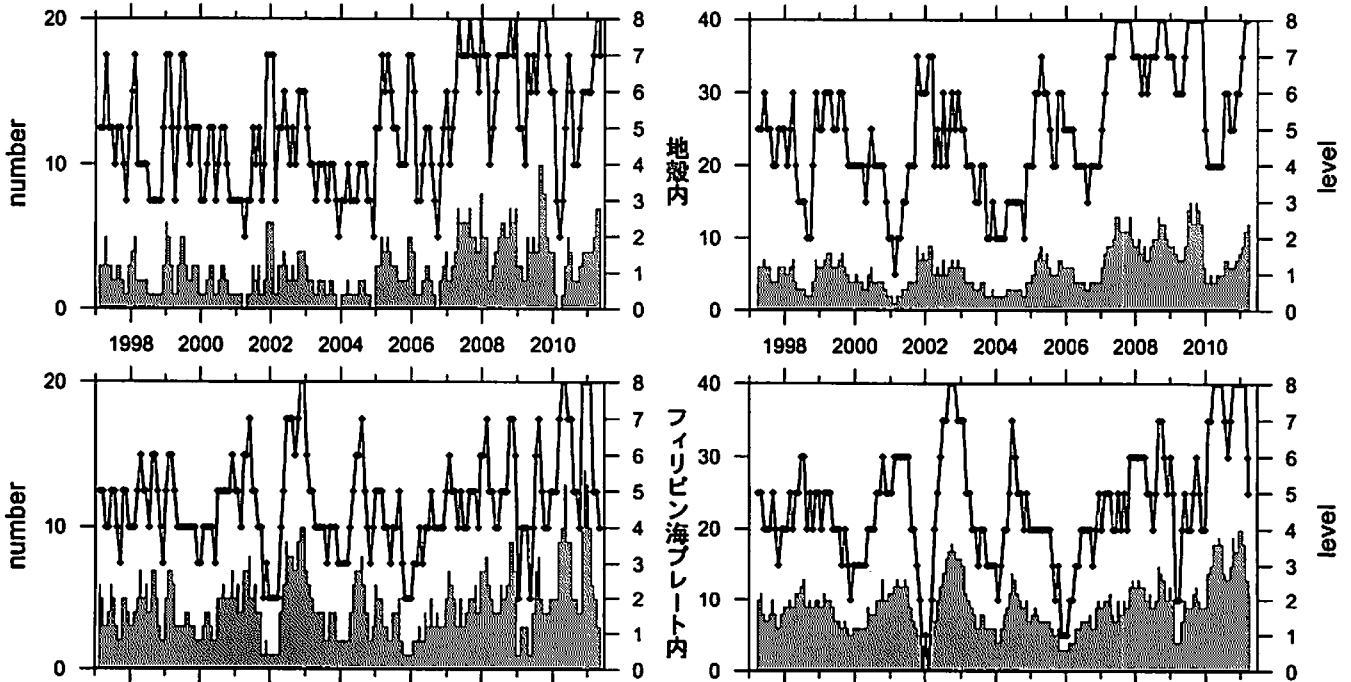
① 静岡県中西部

(30日) 1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.1 (90日)



地殻内はやや高い(7)。フィリピン海プレート内はやや低い(4から2)。

(90日) 1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 2.0 (180日)



地殻内は高い(7から8)。

フィリピン海プレート内はほぼ平常(4から5)。

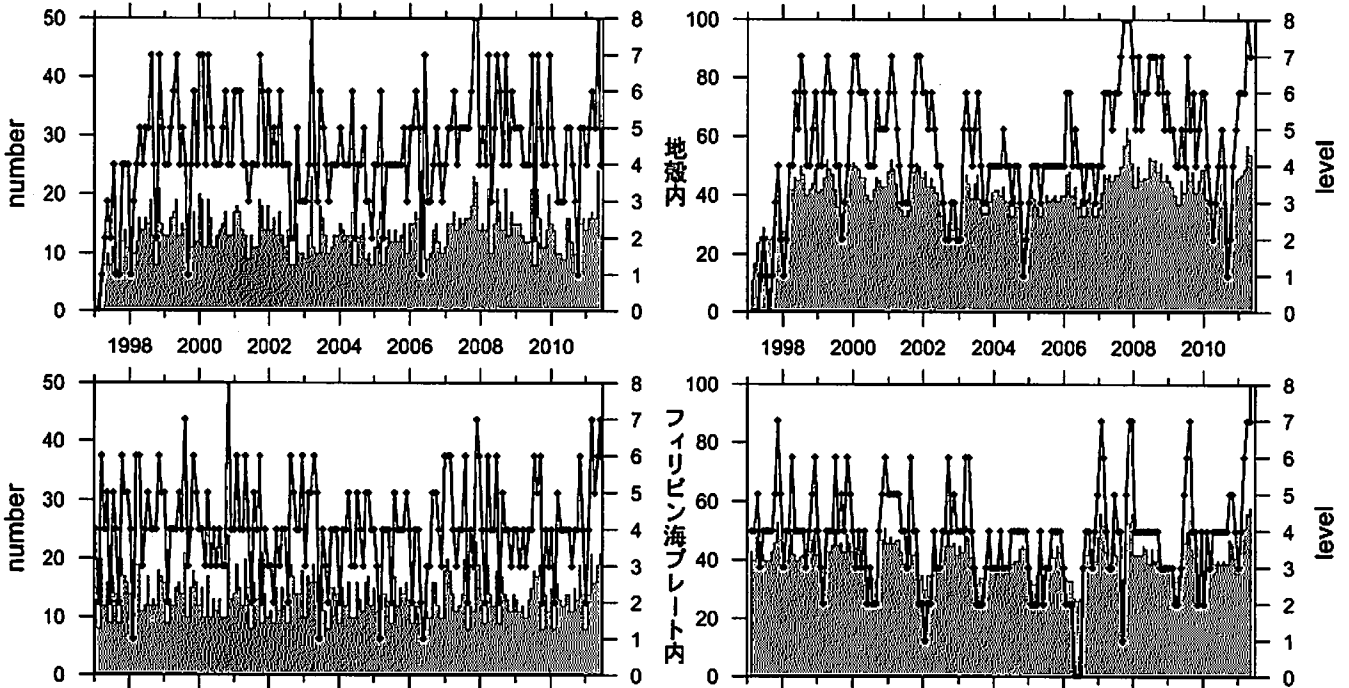
／：地震活動指数(0-8)

■：地震回数(クラスタを除く)

地震活動指数の推移

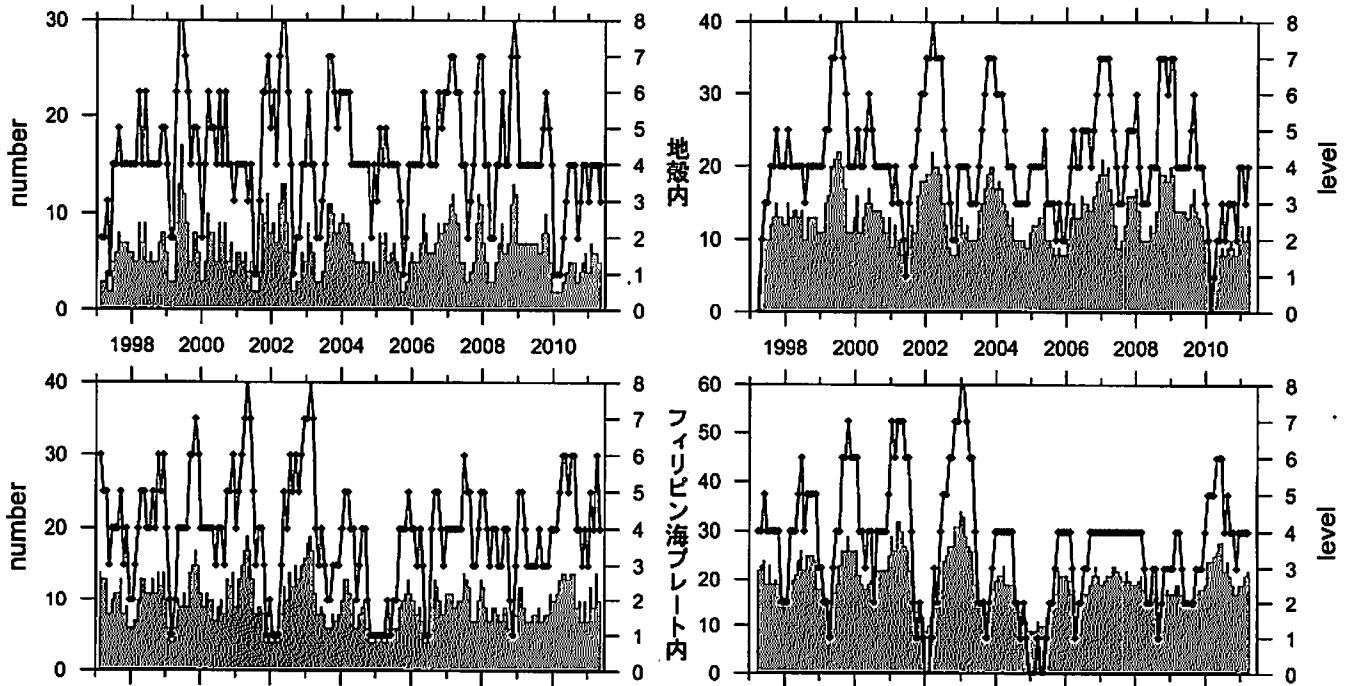
② 愛知県

(30日) 1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.1 (90日)



地殻内はやや高い(4から7)。フィリピン海プレート内は高い(6から8)。

(90日) 1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 2.0 (180日)



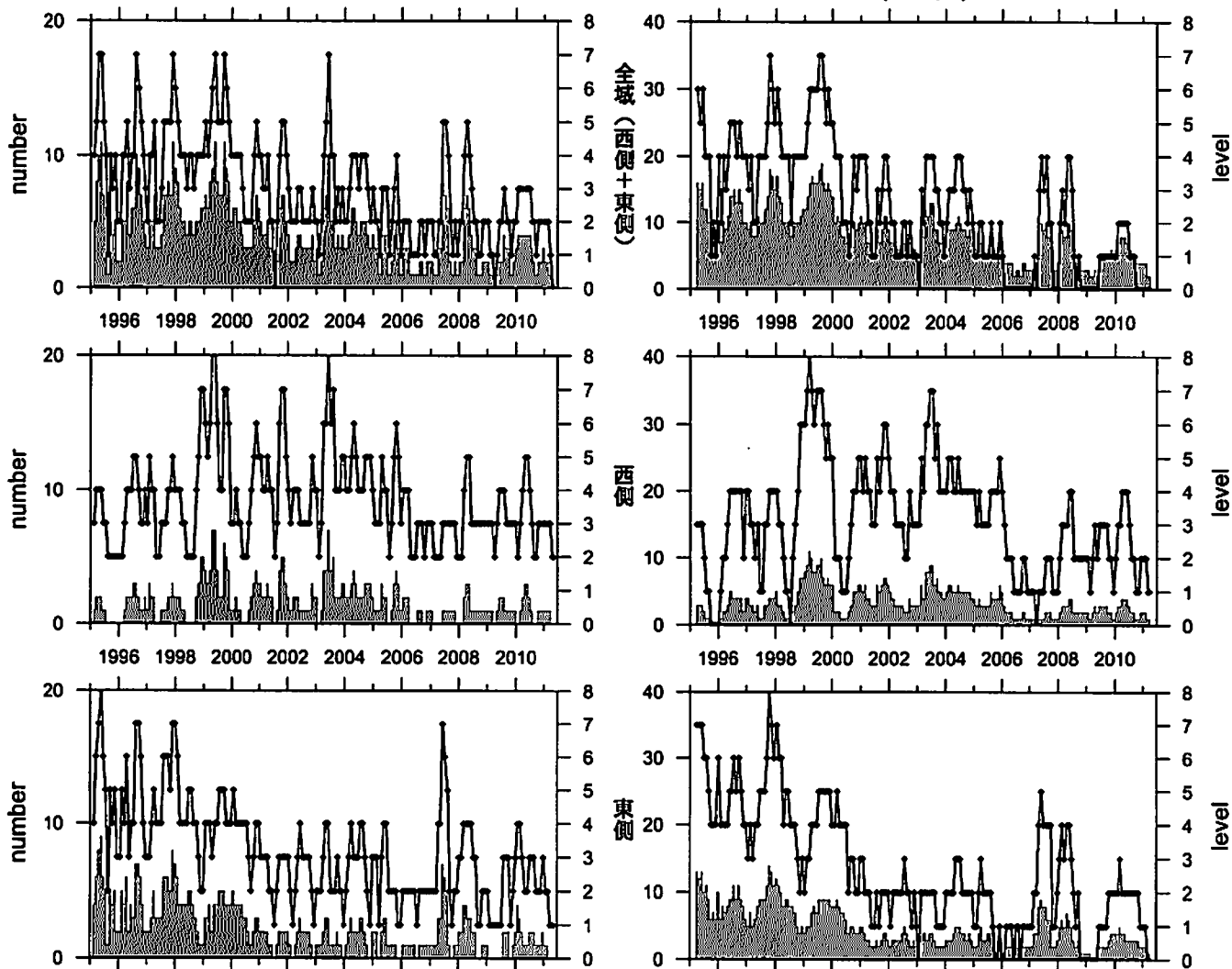
地殻内はほぼ平常(4)。
フィリピン海プレート内もほぼ平常(4)。

／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

③ 浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

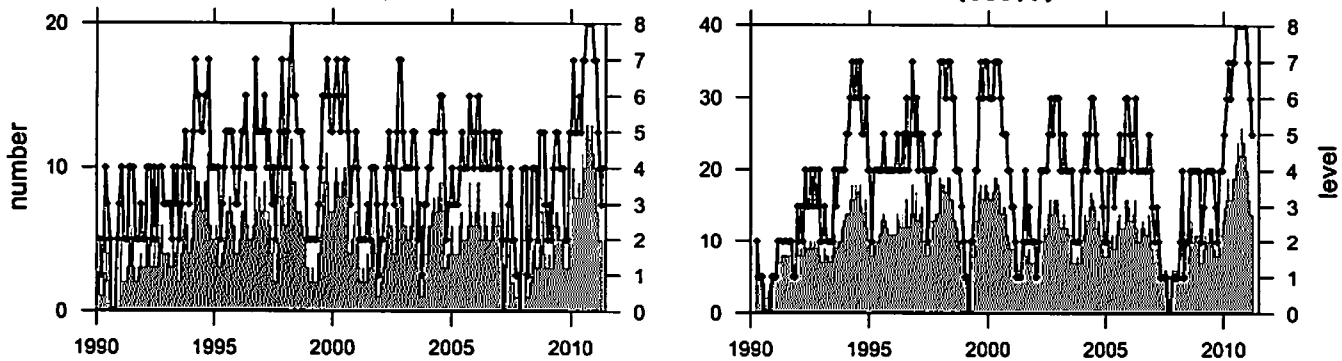
(90日) 1995/ 1/ 1~2011/ 6/22 M ≥ 1.1 (180日)



フィリピン海プレート内の地震活動は低い(2から0)。

④ 駿河湾

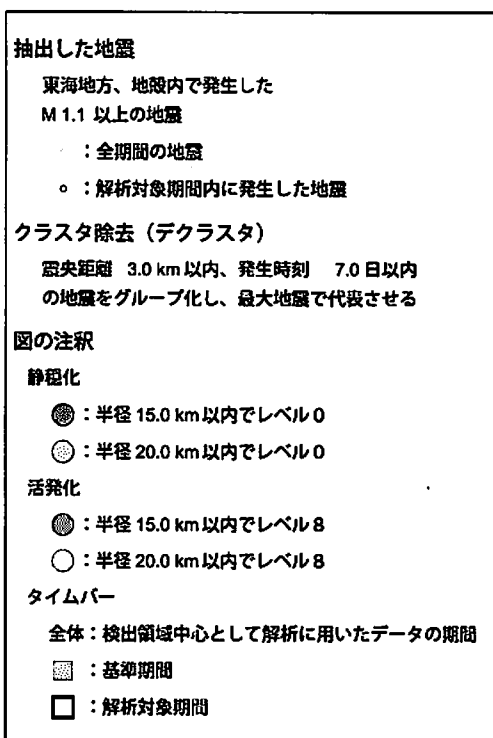
(90日) 1990/ 1/ 1~2011/ 6/22 M ≥ 1.4 (180日)



地震活動はほぼ平常(4から5)。

／：地震活動指数 (0-8)
■：地震回数 (クラスタを除く)

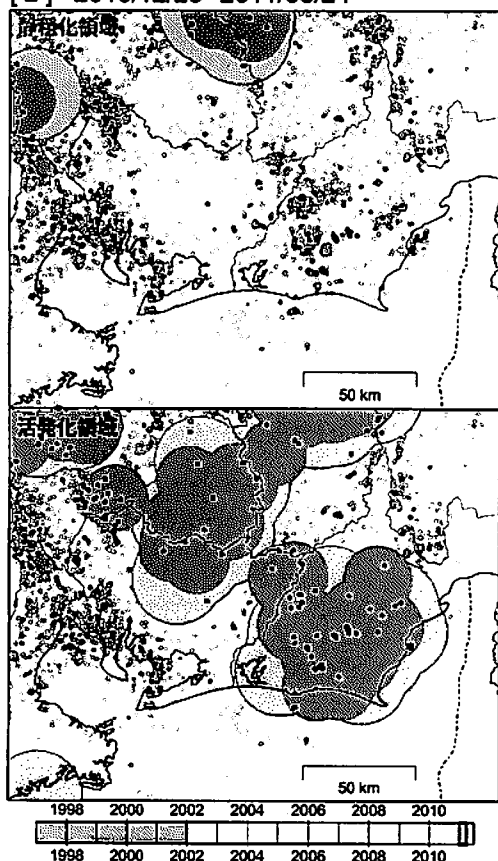
静穏化・活発化領域の検出（東海地方、地殻内）



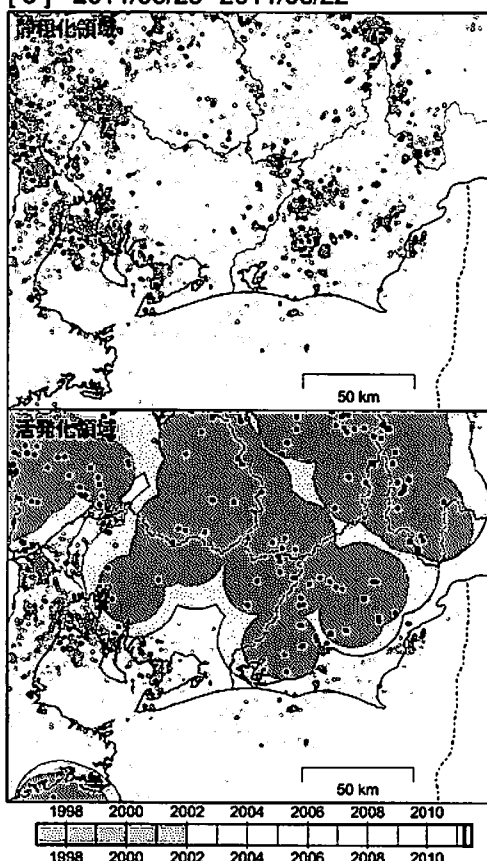
[1] 2010/09/26–2010/12/24



[2] 2010/12/25–2011/03/24



[3] 2011/03/25–2011/06/22



想定震源域周辺では、今期(最新の[3])は静岡県中西部から愛知県東部で活発化領域が検出されている。静穏化領域は検出されていない。 気象庁作成

静穏化・活発化領域の検出（東海地方、プレート内）

抽出した地震

東海地方、プレート内で発生した

M 1.1 以上の地震

●：全期間の地震

○：解析対象期間内に発生した地震

クラスタ除去（デクラスタ）

震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内
の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

図の注釈

静穏化

●：半径 15.0 km 以内でレベル 0

○：半径 20.0 km 以内でレベル 0

活発化

●：半径 15.0 km 以内でレベル 8

○：半径 20.0 km 以内でレベル 8

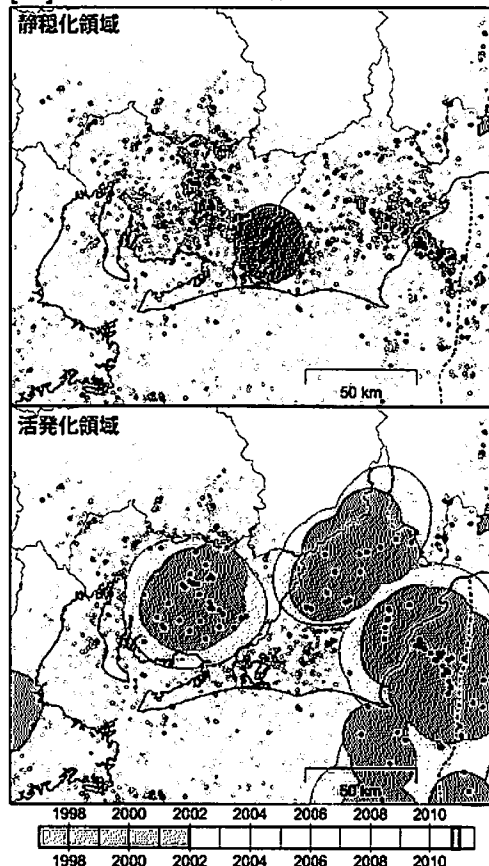
タイムバー

全体：検出領域中心として解析に用いたデータの期間

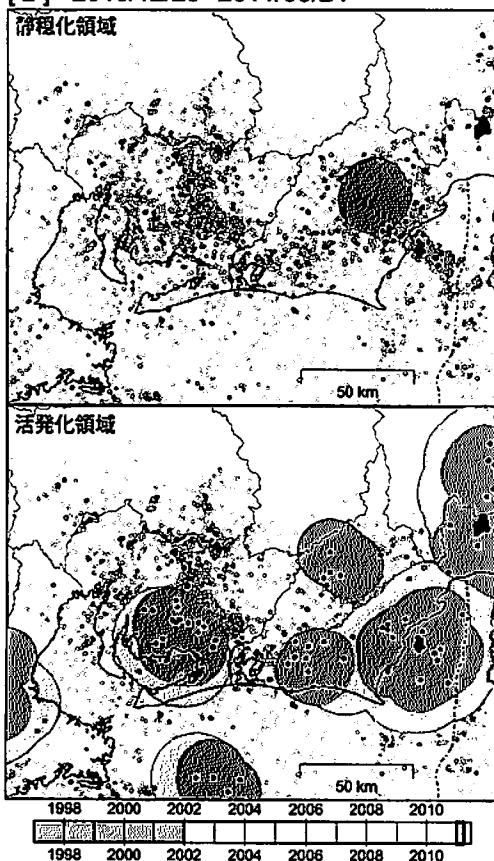
■：基準期間

□：解析対象期間

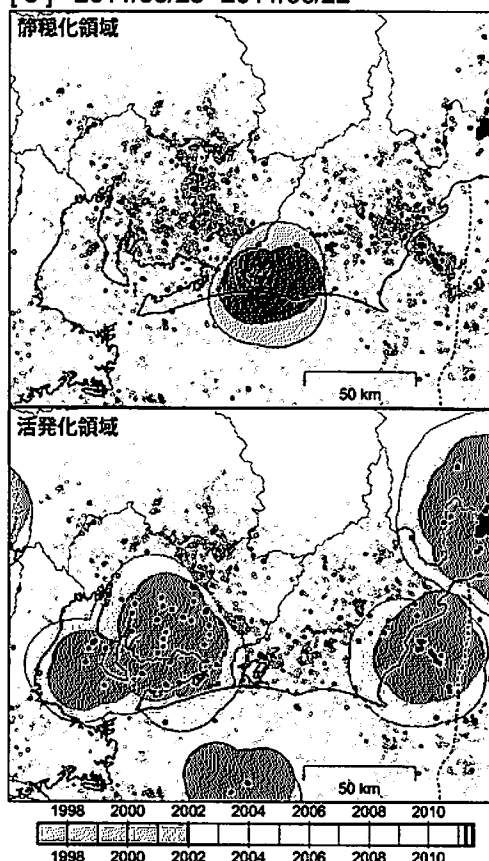
[1] 2010/09/26–2010/12/24



[2] 2010/12/25–2011/03/24



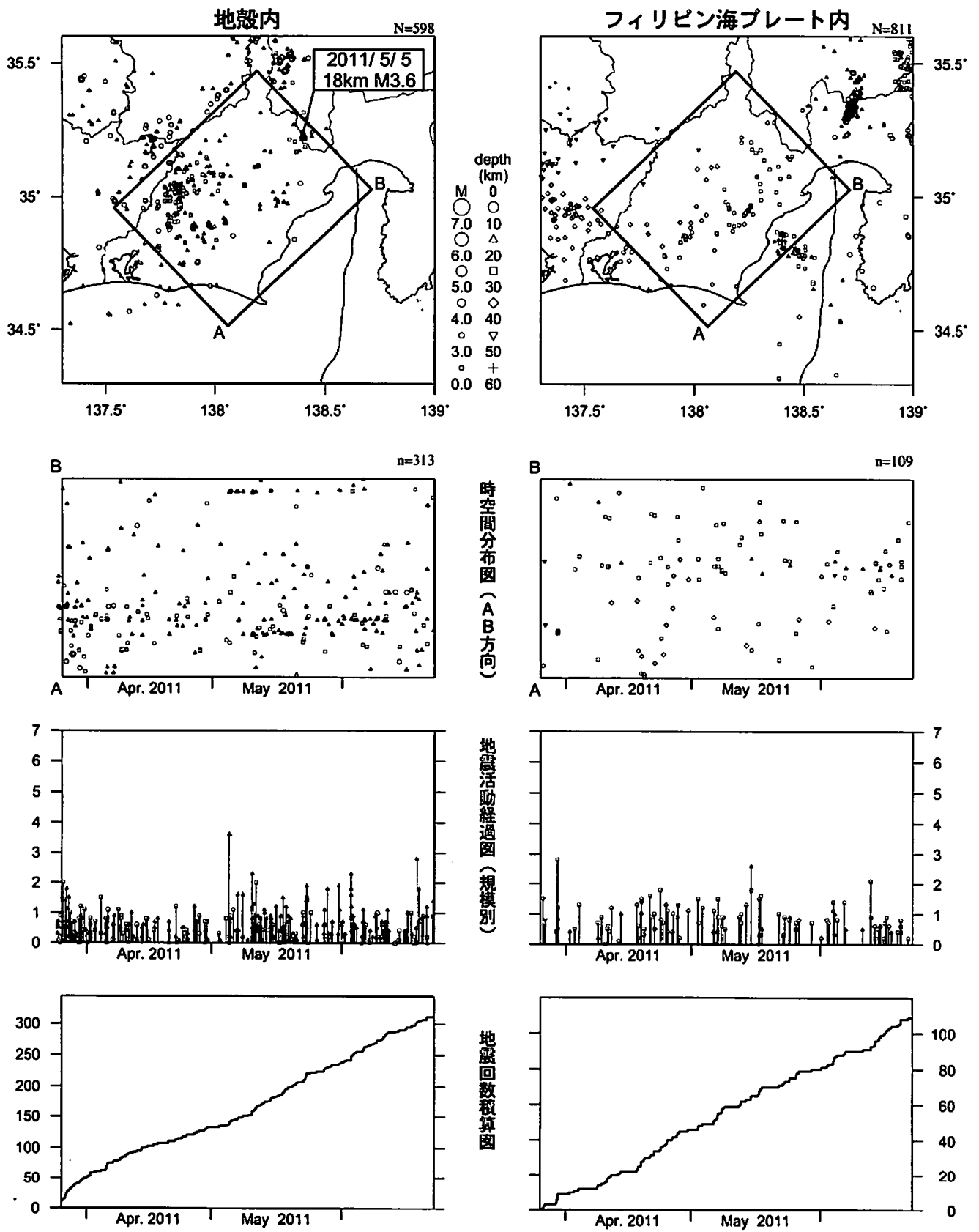
[3] 2011/03/25–2011/06/22



想定震源域周辺では、今期(最新の[3])は静岡県中西部、駿河湾、遠州灘で 気象庁作成
活発化領域が検出されている。また、浜名湖周辺で静穏化領域が検出され
ている。

静岡県中西部（最近90日）

2011/3/25~2011/6/22 M $\geq$ 0.0 0 $\leq$ 深さ(km) $\leq$ 60

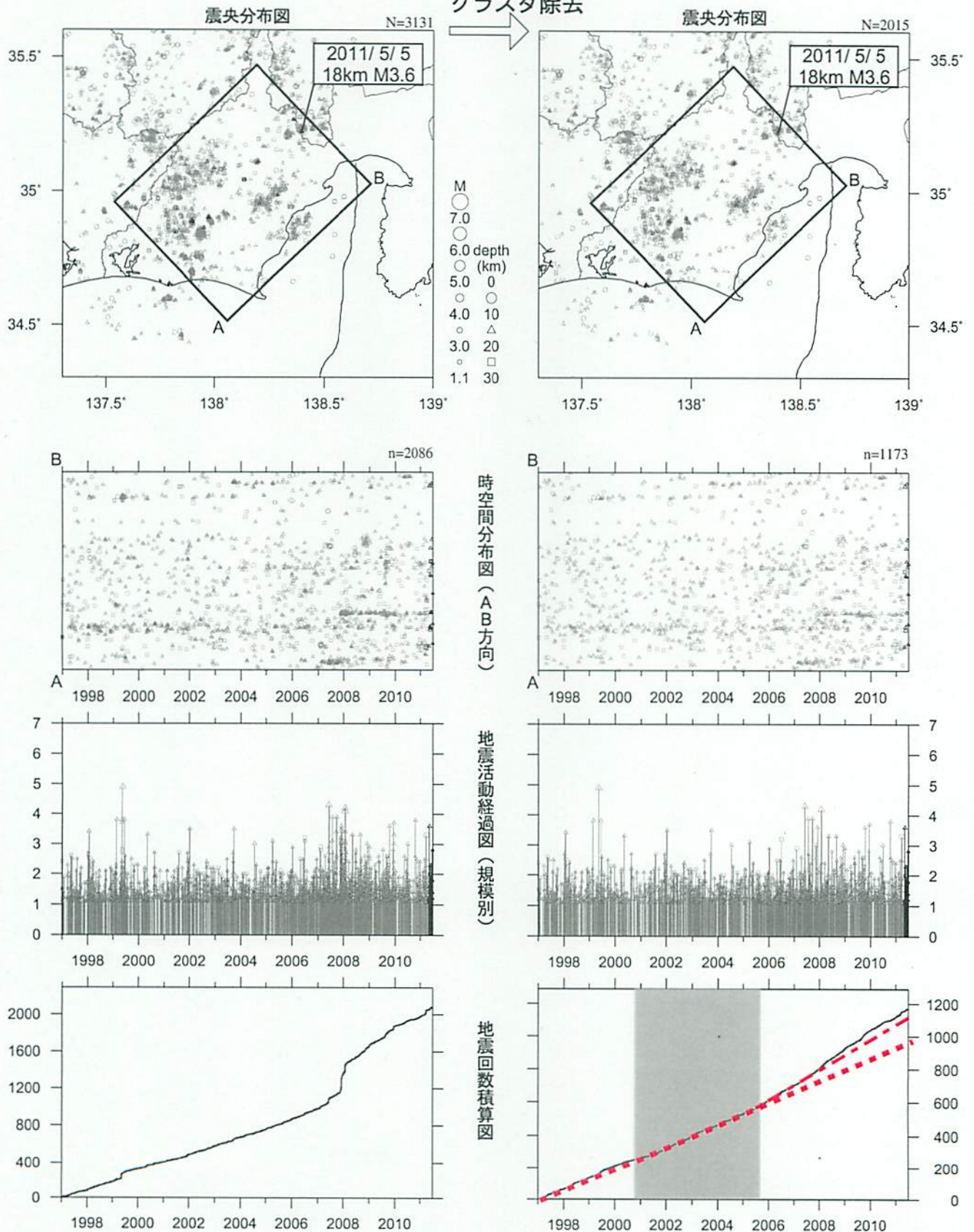


* 吹き出しはM $\geq$ 3.0

静岡県中西部（地殻内）

1997/ 1/ 1~2011/ 6/22 M ≥ 1.1

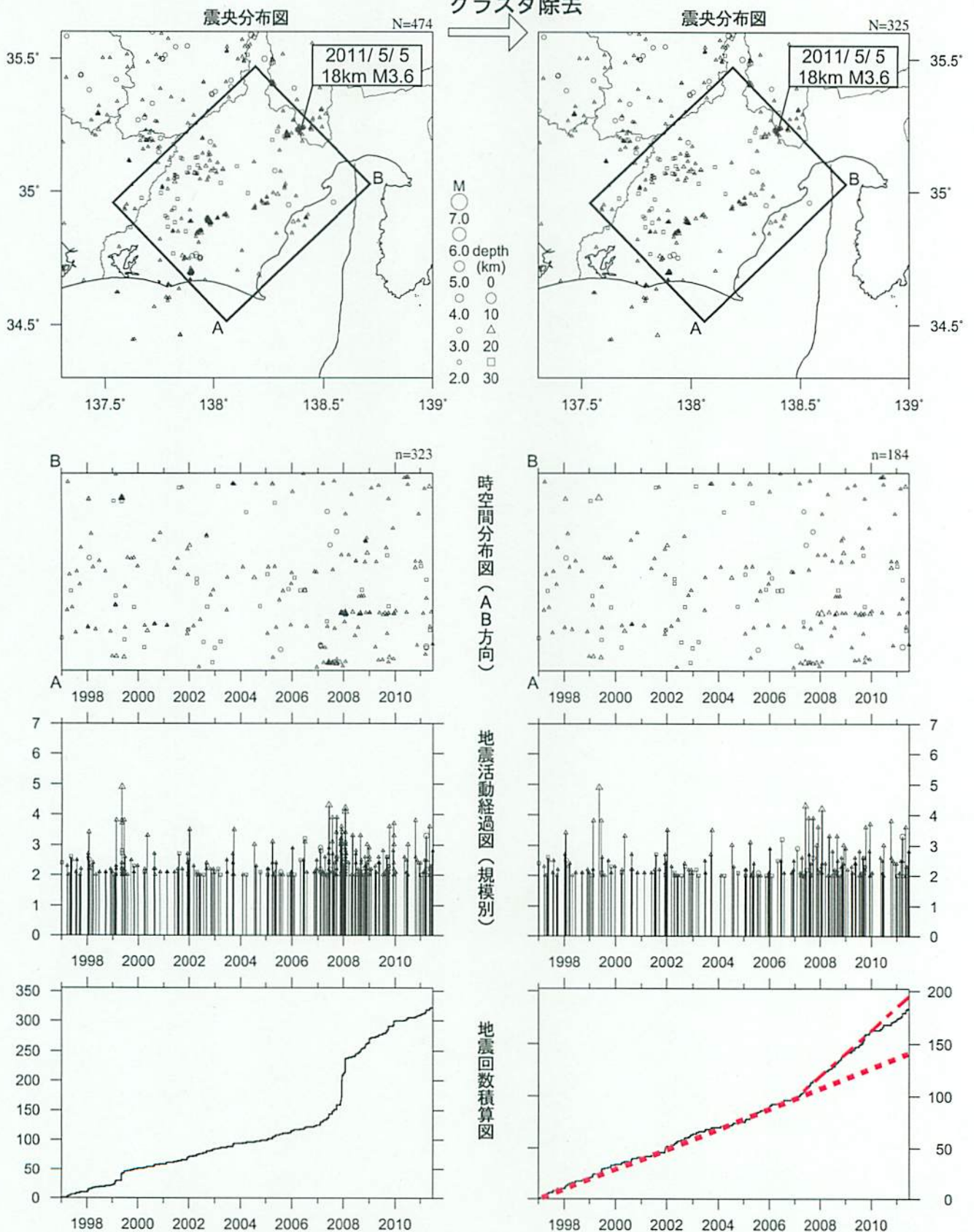
クラスタ除去



クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急でやや活発、その後2005年半ばまでは傾きが緩やかでやや低調、2005年半ば以降はやや活発、という傾向が見られる。この地震活動変化は、概ね長期的スロースリップの進行（右下図網掛け領域）・停滞の時期に対応している。2007年後半以降はさらに活発な傾向が見られていた。2010年の春頃からは一時的にほぼ平常な状態に推移していたが、現在の地震活動指数は再びやや高い状態である。

静岡県中西部（地殻内） 1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 2.0

クラスタ除去

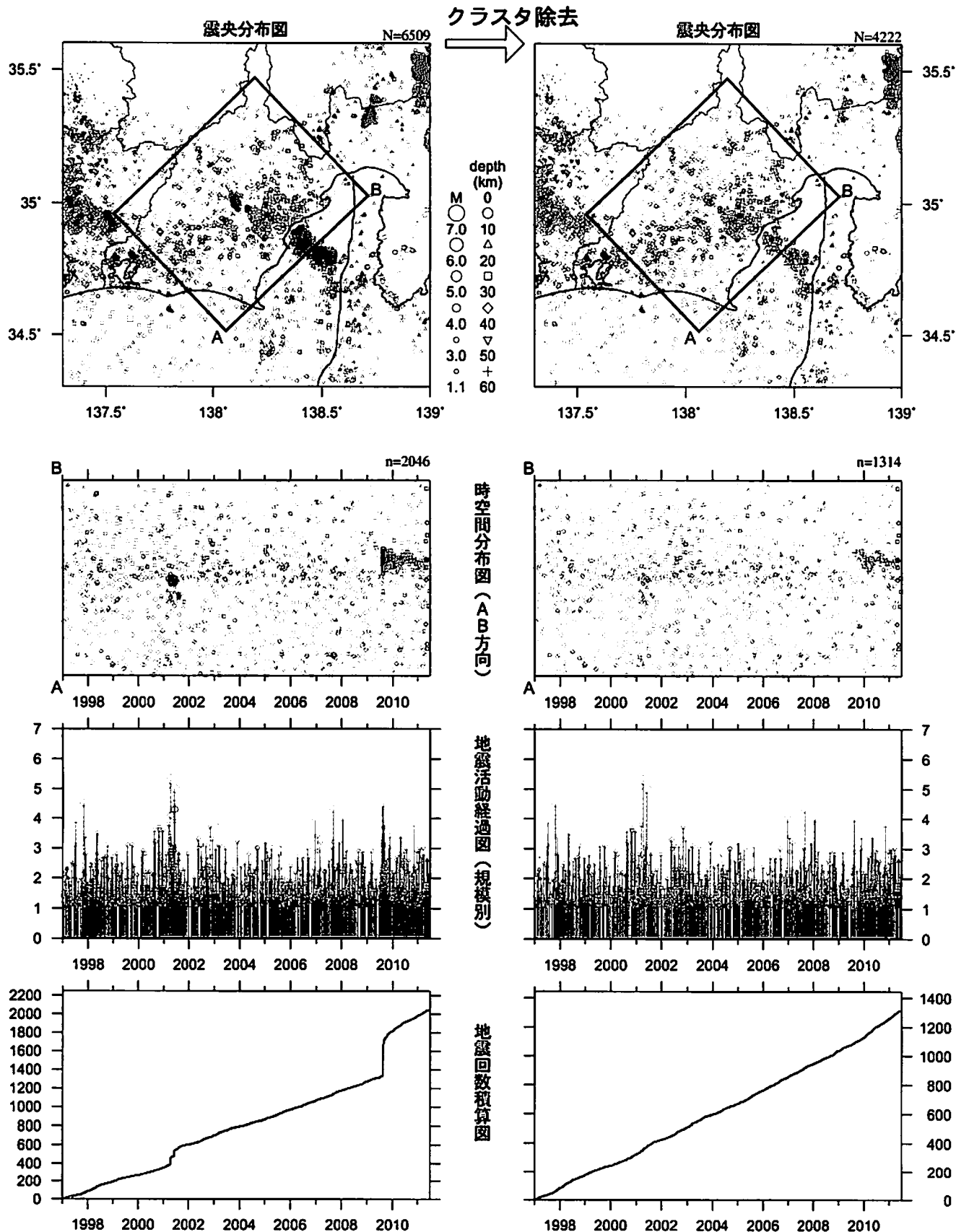


* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0

クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2007年に入ってから傾きが急でやや活発、その後2009年終わり頃から傾きがやや緩やかになってきていたが、現在の地震活動指数は再び高い状態を示している。

静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

1997/ 1/ 1~2011/ 6/ 22 M ≥ 1.1



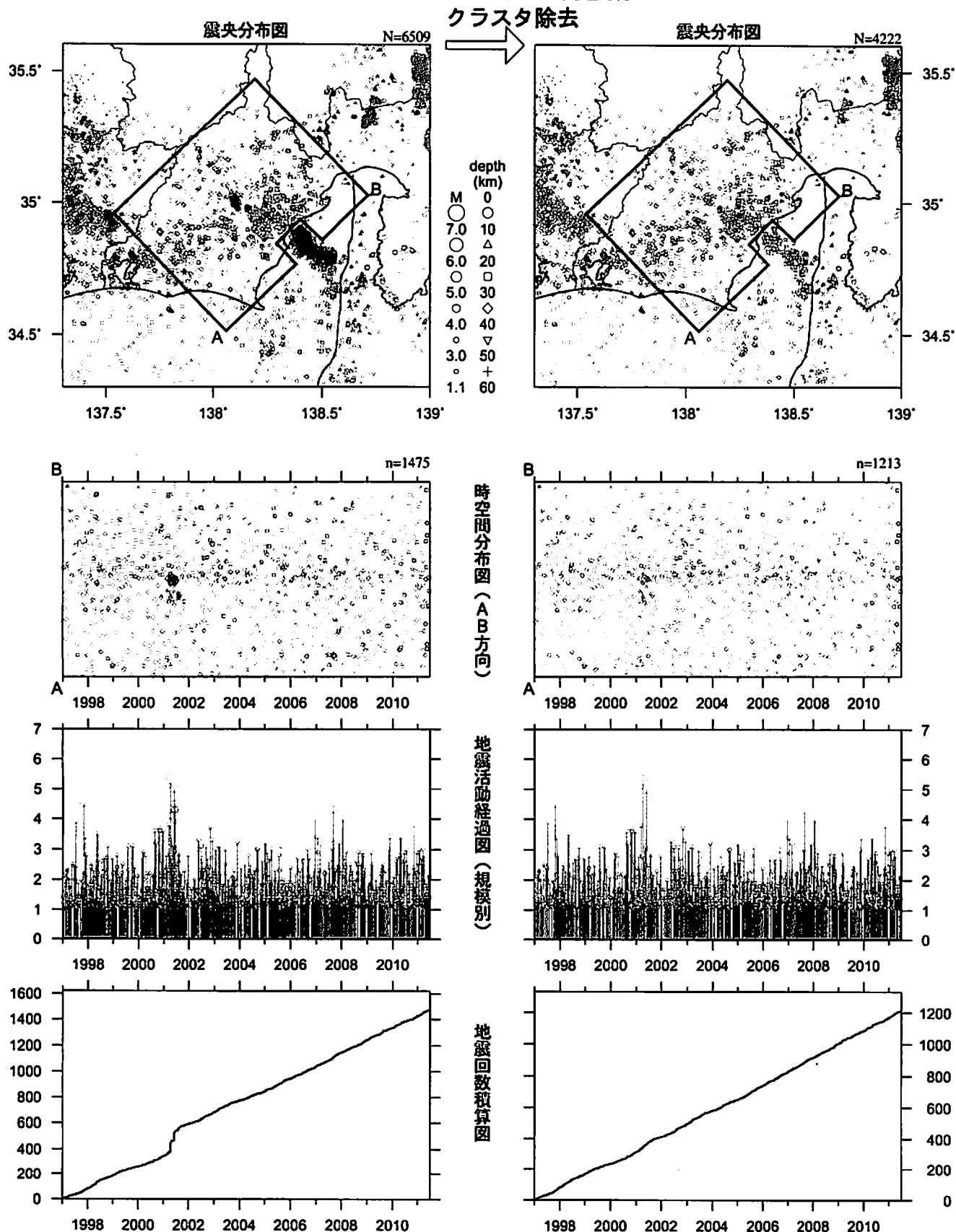
最近60日以内の地震を濃く表示

活動指数はやや高い状態を示していたが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも2009年後半からやや活発になっている様子が見られていた。これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在の中期活動指数はほぼ平常となっている。

気象庁作成

駿河湾の地震(2009年8月11日、M6.5)の余震域を除去 静岡県中西部(フィリピン海プレート内)

1997/1/1~2011/6/22 M $\geq$ 1.1



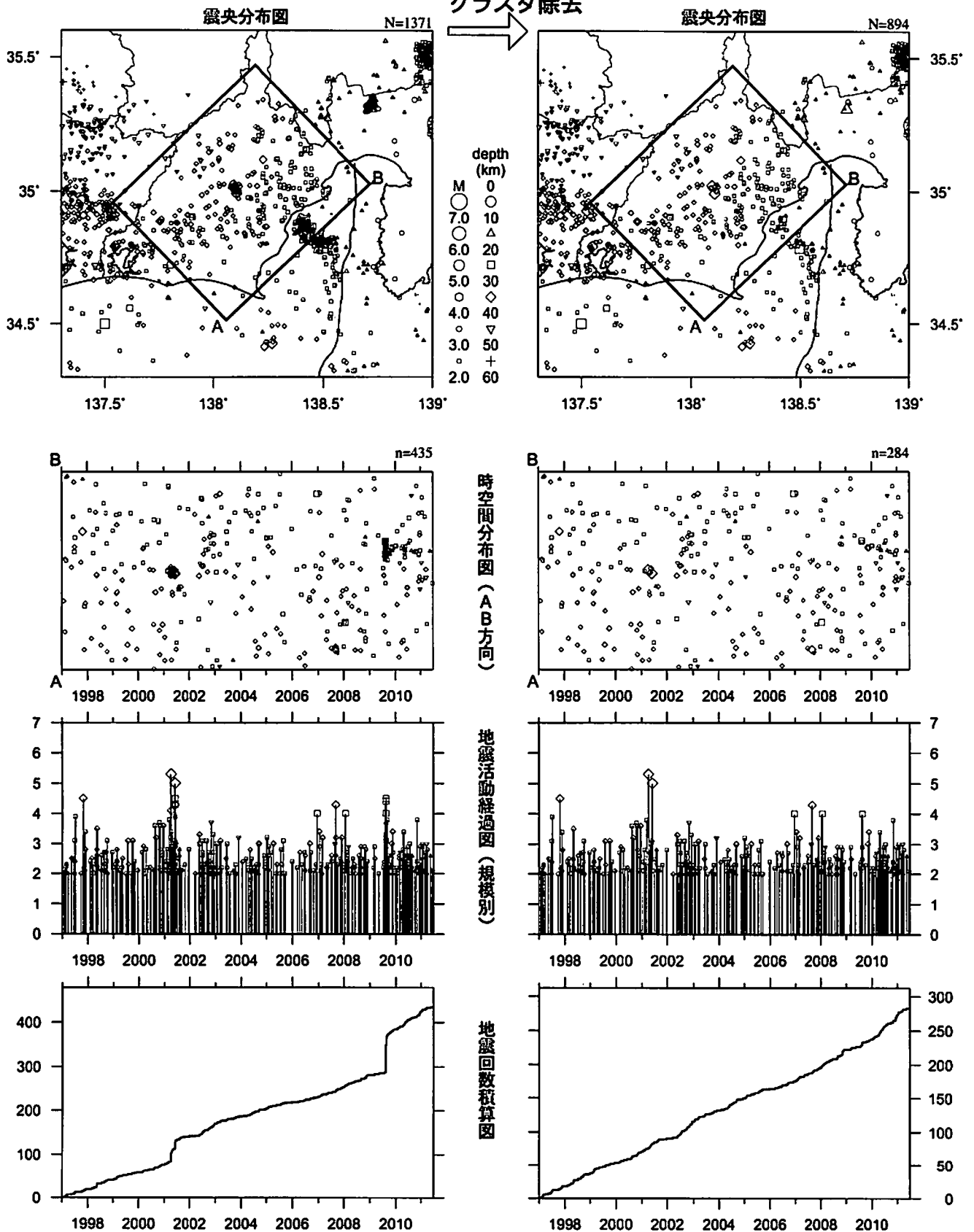
駿河湾の地震(2009年8月11日、M6.5)の余震域を除去した領域で見ると、活動指数は今回3ではほぼ平常な状態を示している。地震活動指数の時系列(右下図)やクラスタ除去後の地震回数積算図(右側下から2つ目の図)からは、2009年以降に顕著な変化は見られない。

気象庁作成

静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

1997/ 1/ 1~2011/ 6/22 M ≥ 2.0

クラスタ除去



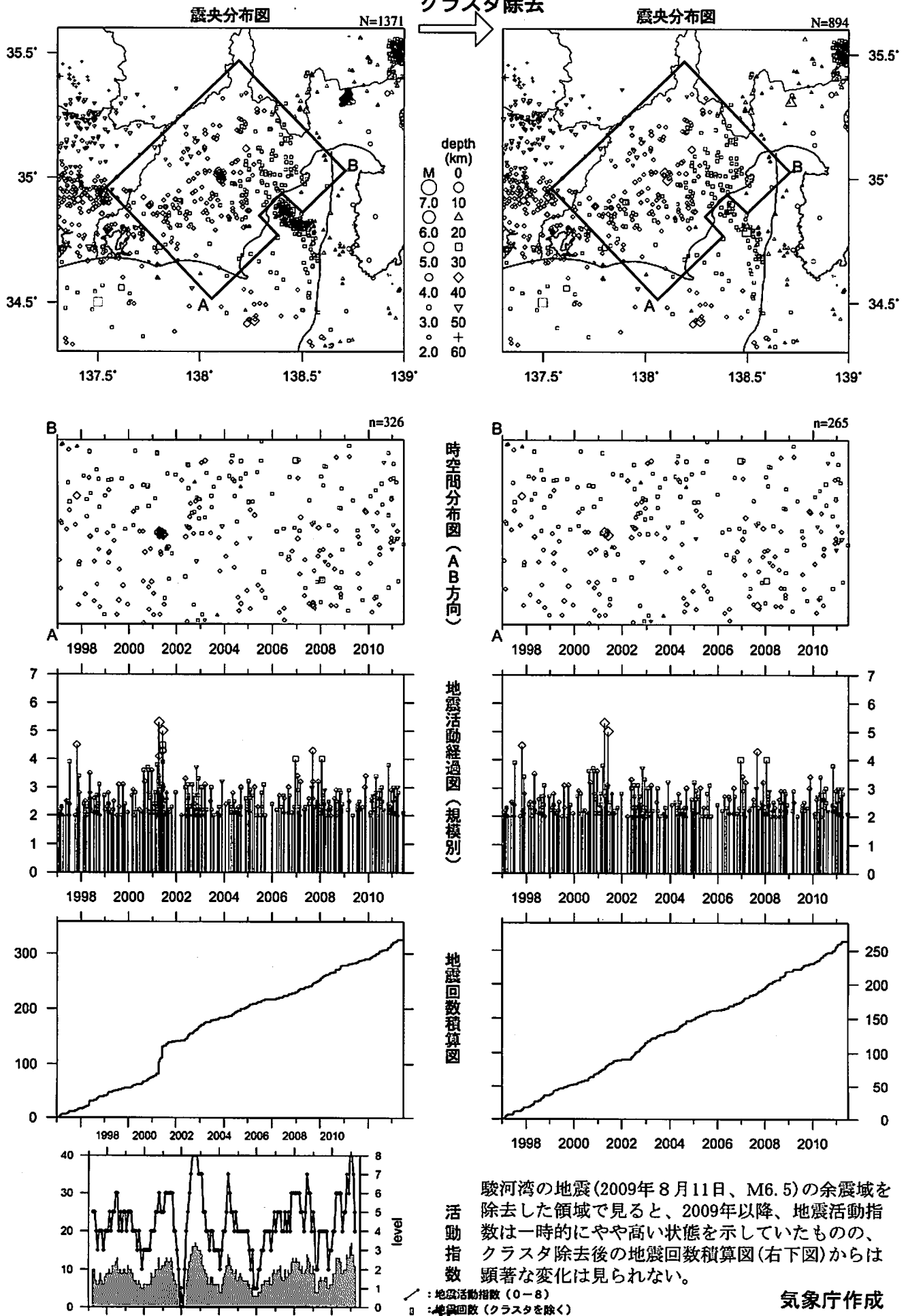
地震活動指数はやや高い状態を示していたが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも2010年以降やや活発になっている様子が見られていた。これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在、地震活動指数はほぼ平常となっている。

駿河湾の地震 (2009年8月11日、M6.5) の余震域を除去

静岡県中西部 (フィリピン海プレート内)

1997/1/1~2011/6/22 M $\geq$ 2.0

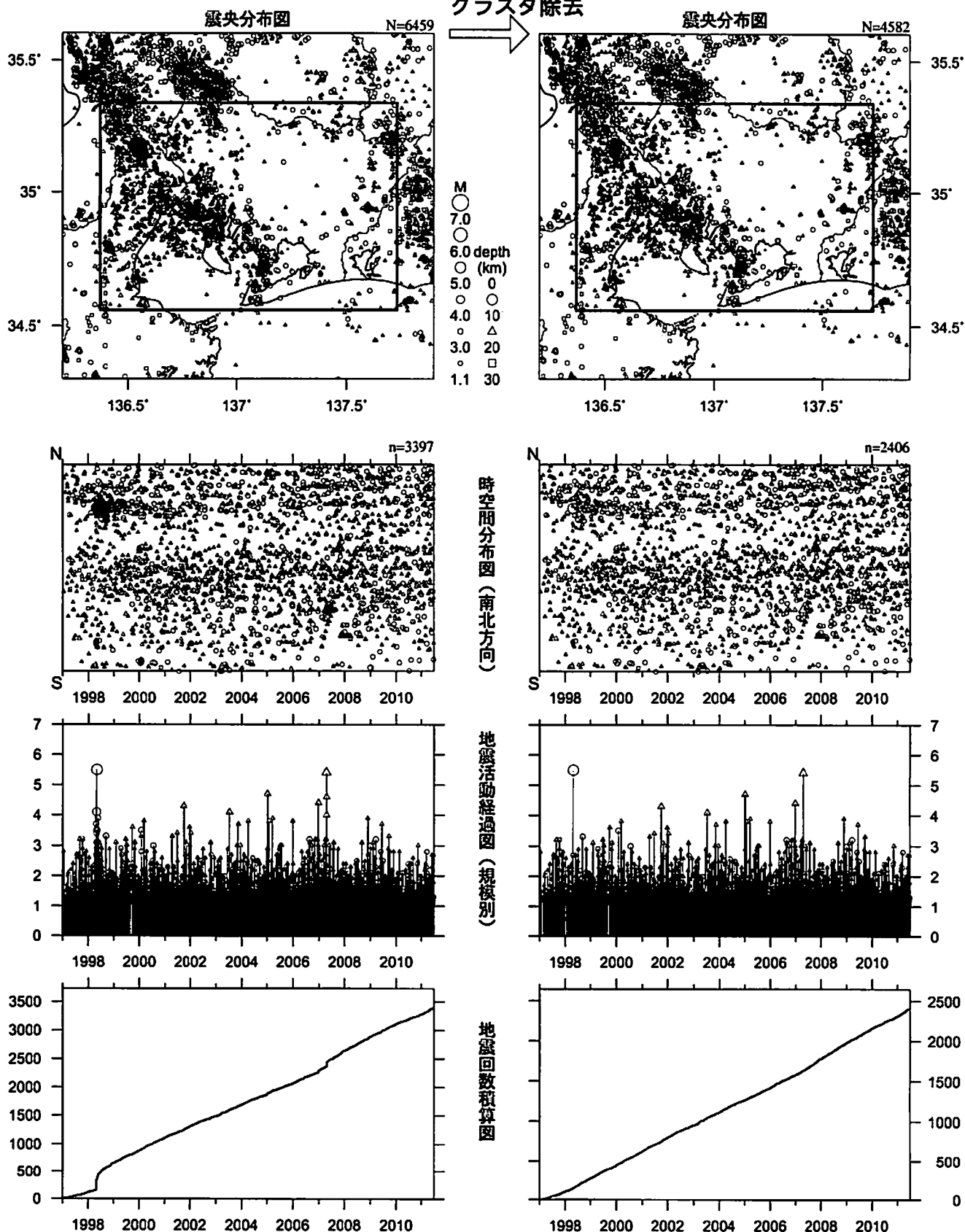
クラスタ除去



愛知県（地殻内）

1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.1

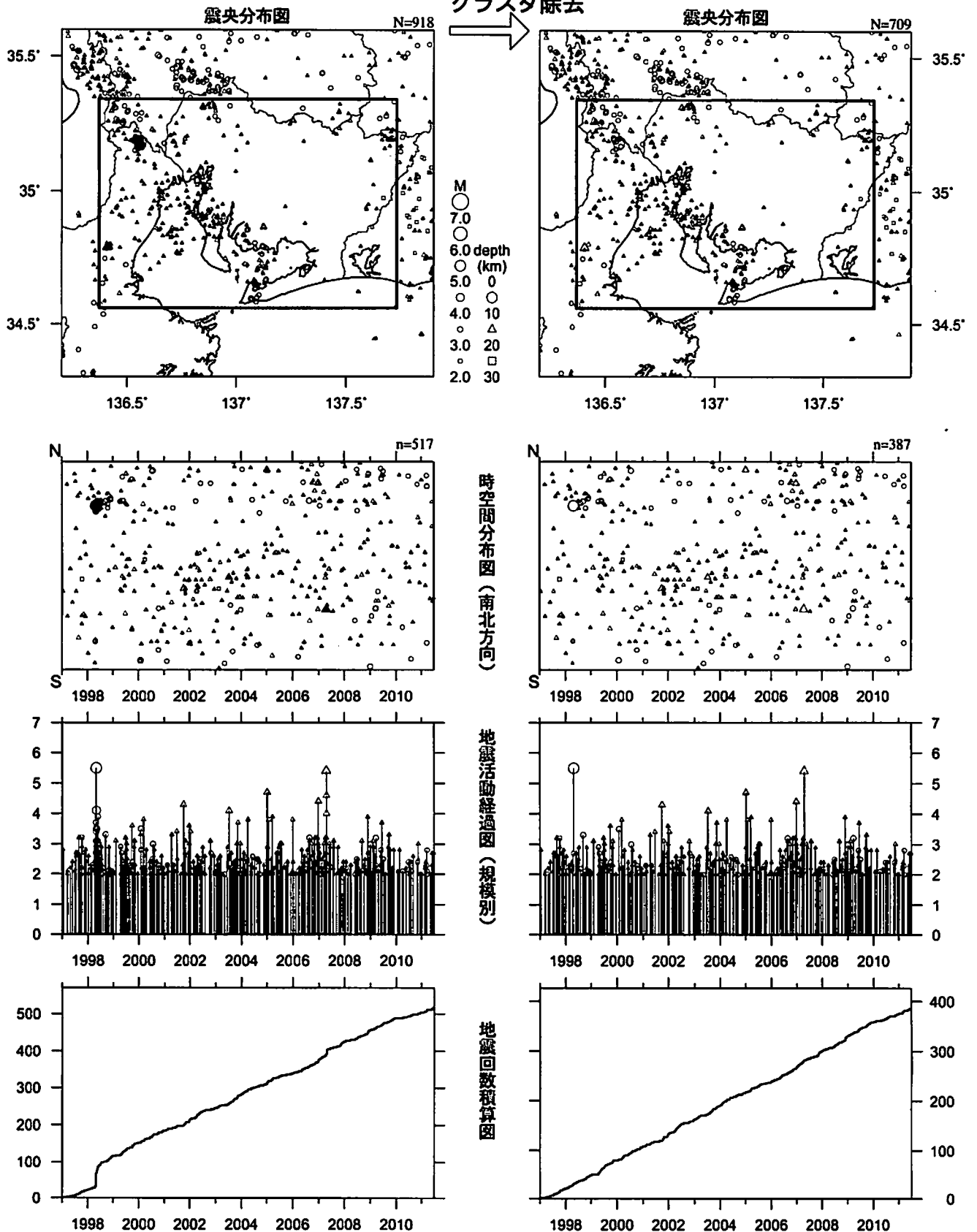
クラスタ除去



愛知県（地殻内）

1997/1/1~2011/6/22 M ≥ 2.0

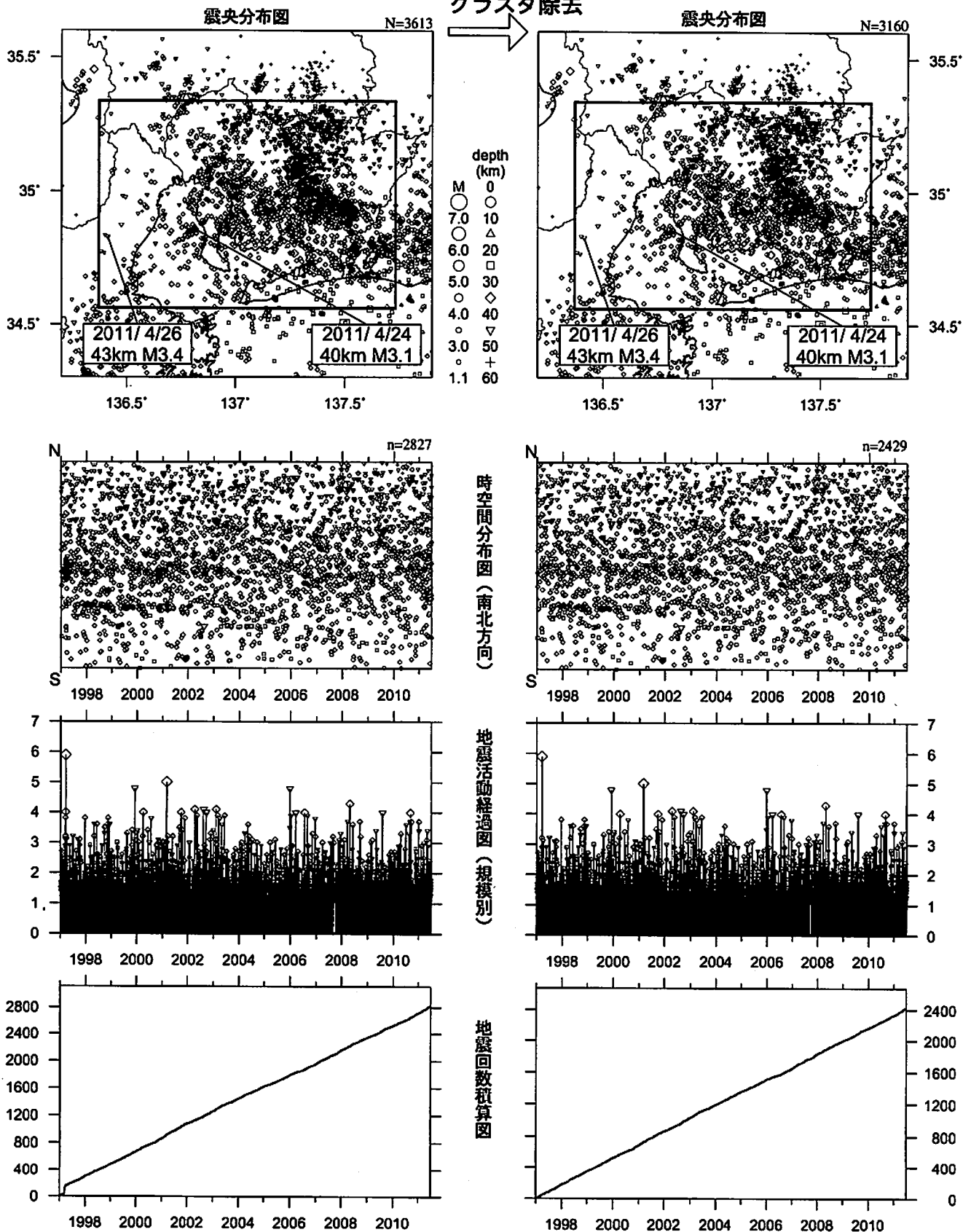
クラスター除去



愛知県（フィリピン海プレート内）

1997/ 1/ 1~2011/ 6/22 M ≥ 1.1

クラスタ除去

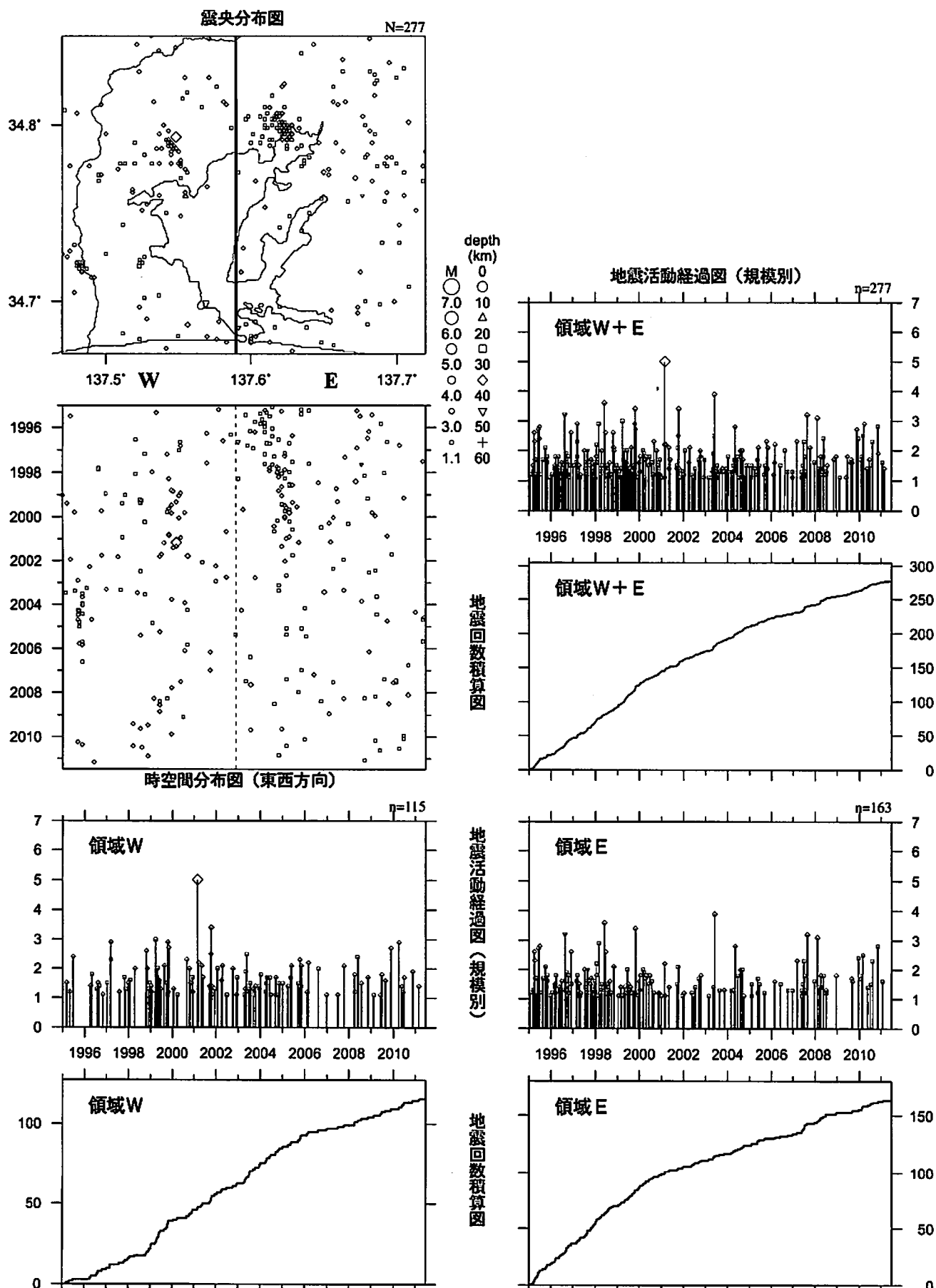


* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0

活動指数は高い状態を示しているが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からは顕著な変化は見られない。

浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

1995/1/1~2011/6/22 M $\geq$ 1.1 *クラスタ除去したデータ



〔東側〕地震回数積算図（右下図）を見ると、地震活動は2000年以降やや低調であったが、2007年半ば以降回復。その後、2008年半ば以降は再びやや低調。

〔西側〕地震回数積算図（左下図）を見ると、2006年以降やや低調。

気象庁作成

駿河湾

1990/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.4

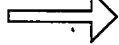
震央分布図

N=3513

震央分布図

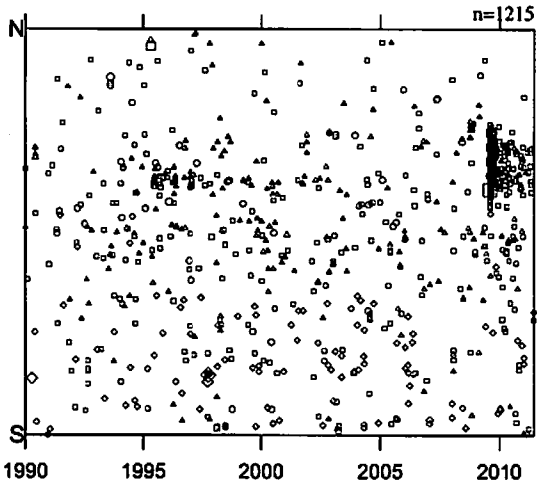
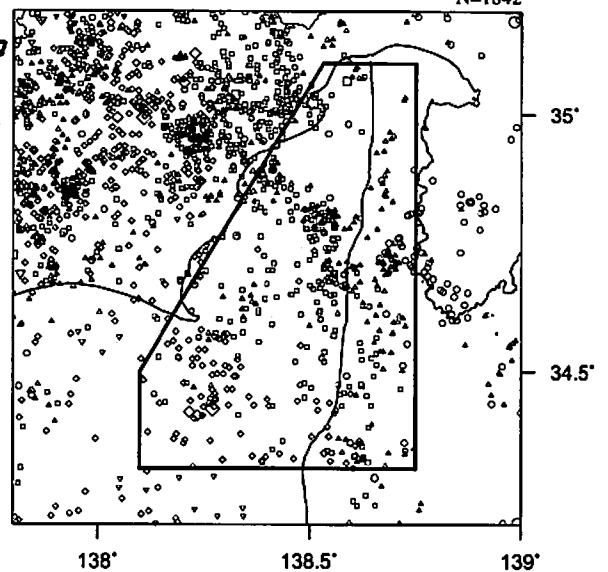
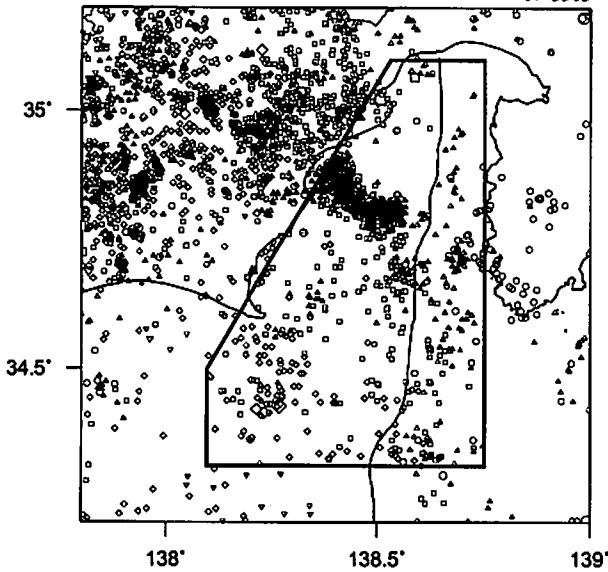
N=1842

クラスタ
除去

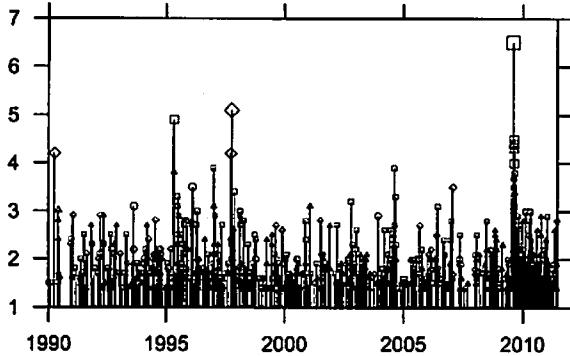
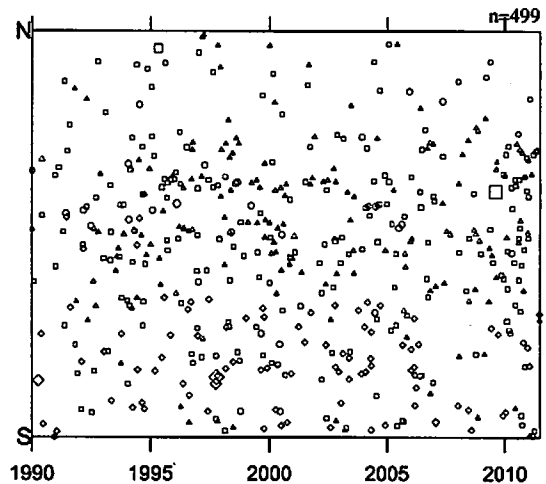


depth
(km)

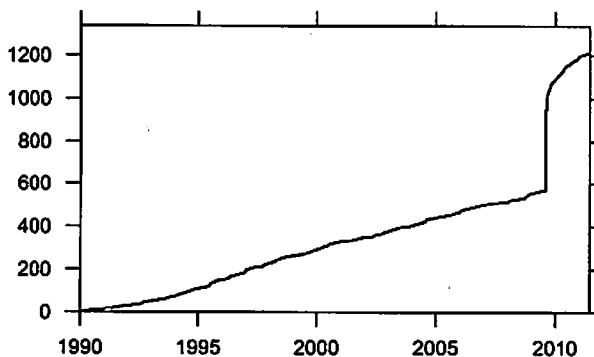
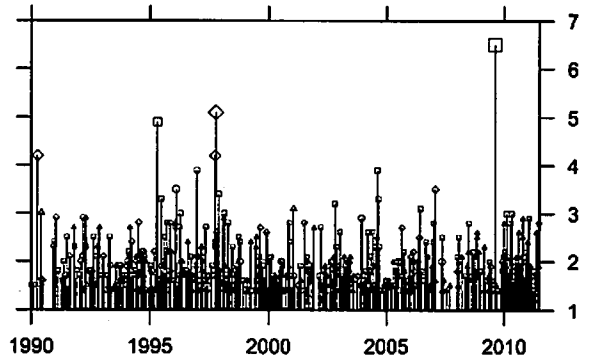
M
○ 0
○ 7.0
○ 6.0
○ 5.0
○ 4.0
○ 3.0
○ 1.4
○ 10
△ 20
□ 30
◇ 40
▽ 50
+ 60



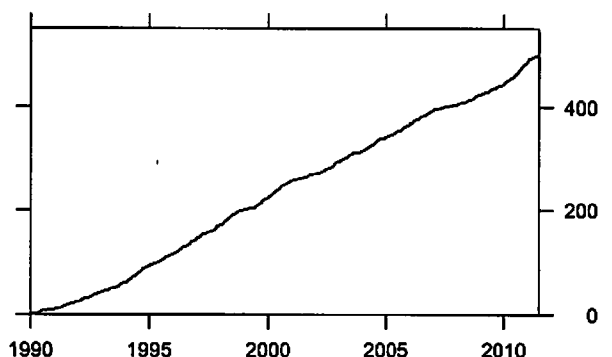
時空間分布図(南北方向)



地震活動経過図(規模別)



地震回数積算図

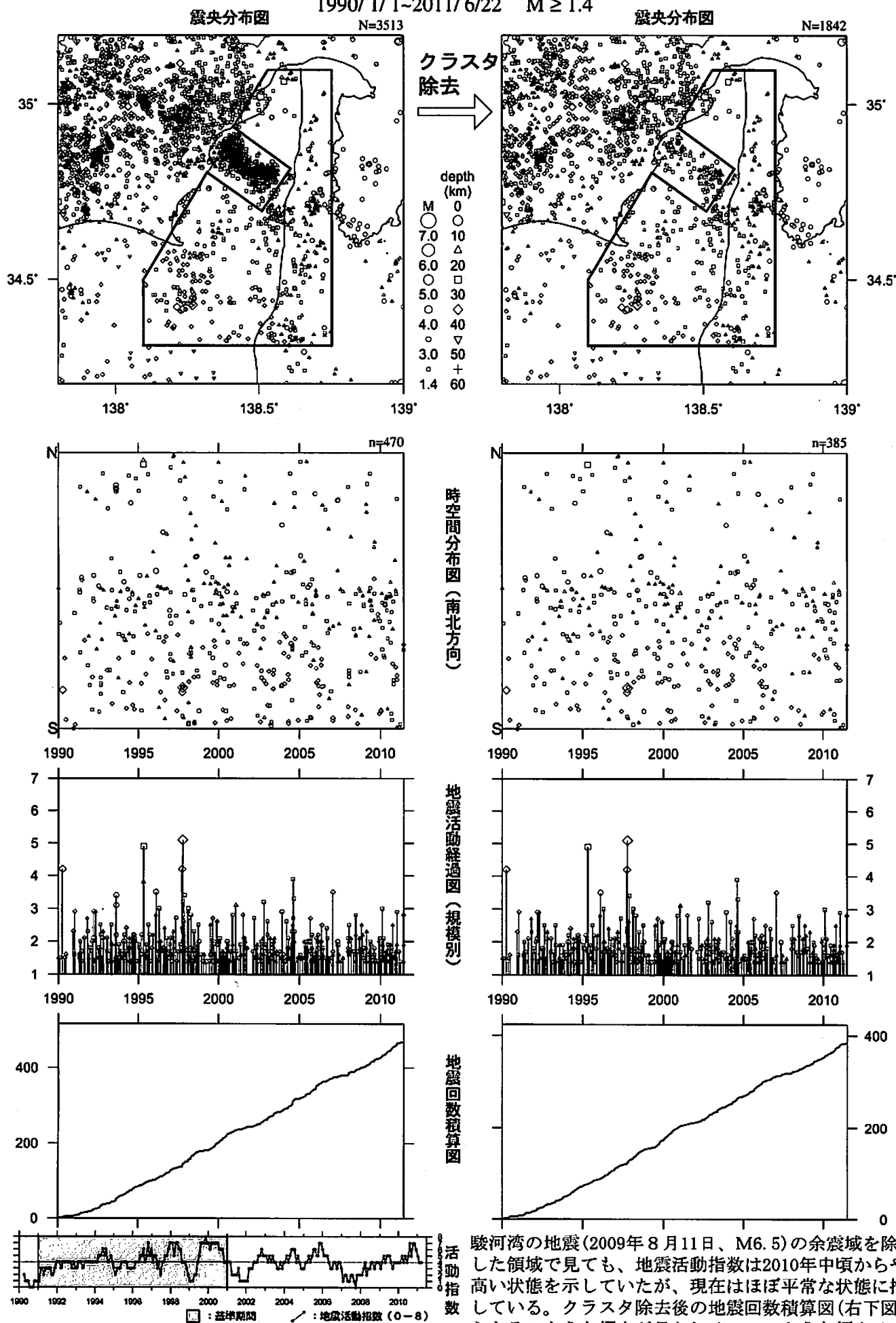


活動指数はやや高い状態を示していたが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下图)からも2010年頃からやや活発になっていた様子が見られる。これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在、活動指数は平常な状態である。

駿河湾の地震 (2009年8月11日、M6.5) の余震域を除去

駿河湾

1990/1/1~2011/6/22 M ≥ 1.4

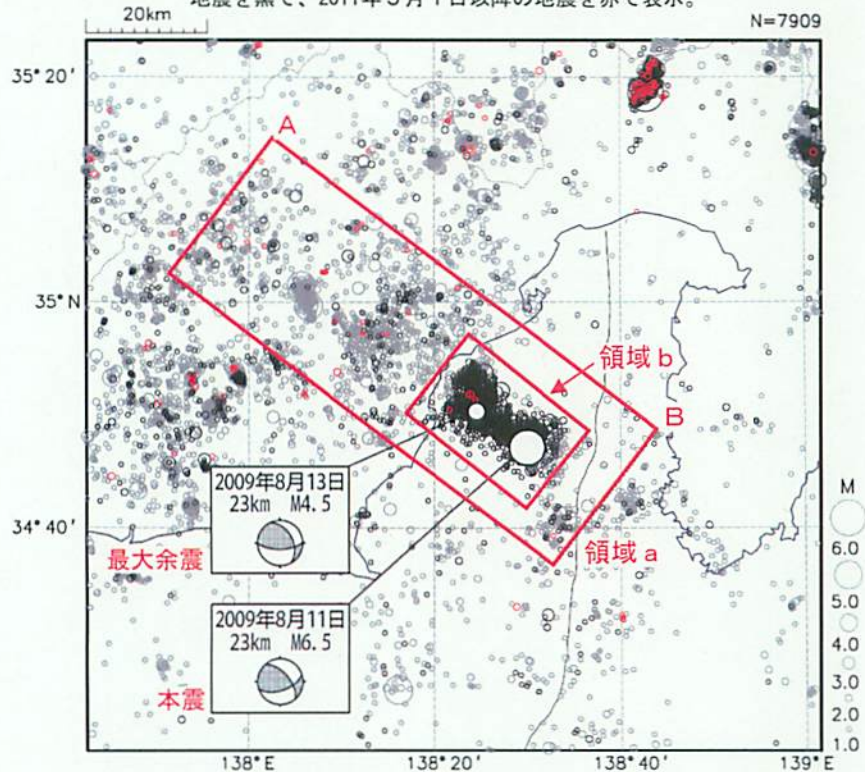


気象庁作成

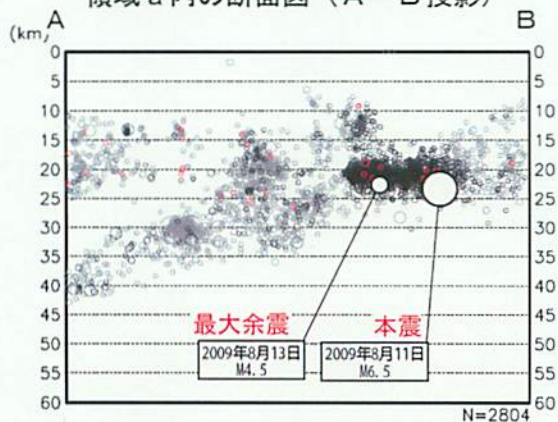
2009年8月11日 駿河湾の地震の余震域の地震活動

震央分布図 (1997年10月1日～2011年6月22日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0～60km)

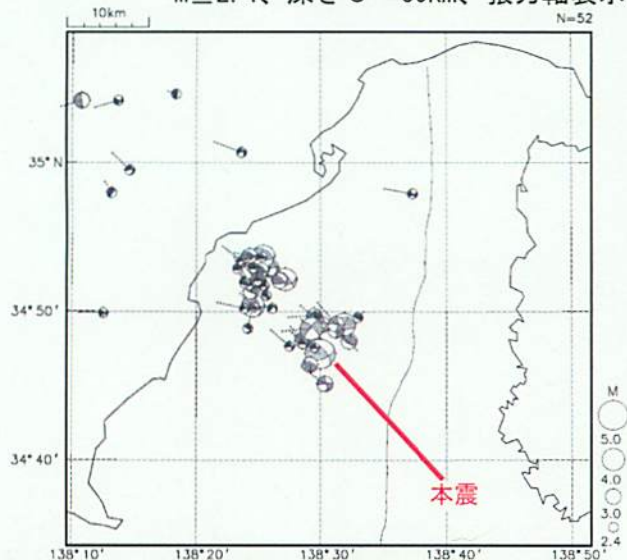
2009年8月10日以前の地震を灰色で、2009年8月11日～2011年4月30日までの地震を黒で、2011年5月1日以降の地震を赤で表示。



領域a内の断面図 (A-B投影)



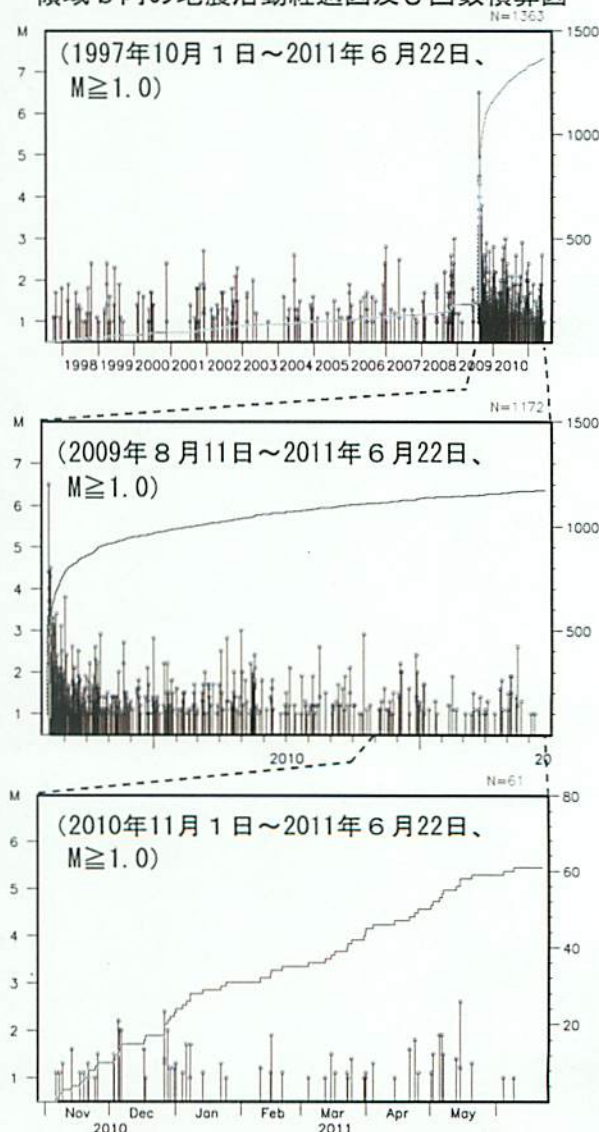
発震機構の分布図 (2009年8月11日～2011年6月22日、 $M \geq 2.4$ 、深さ0～60km、張力軸表示)



2009年8月11日に駿河湾で発生したM6.5の地震 (最大震度6弱) の余震活動は順調に減衰している。

2009年8月11日の地震のおおよその余震域 (領域b) では、2010年10月16日を最後に、震度1以上を観測する地震は発生していない。

領域b内の地震活動経過図及び回数積算図

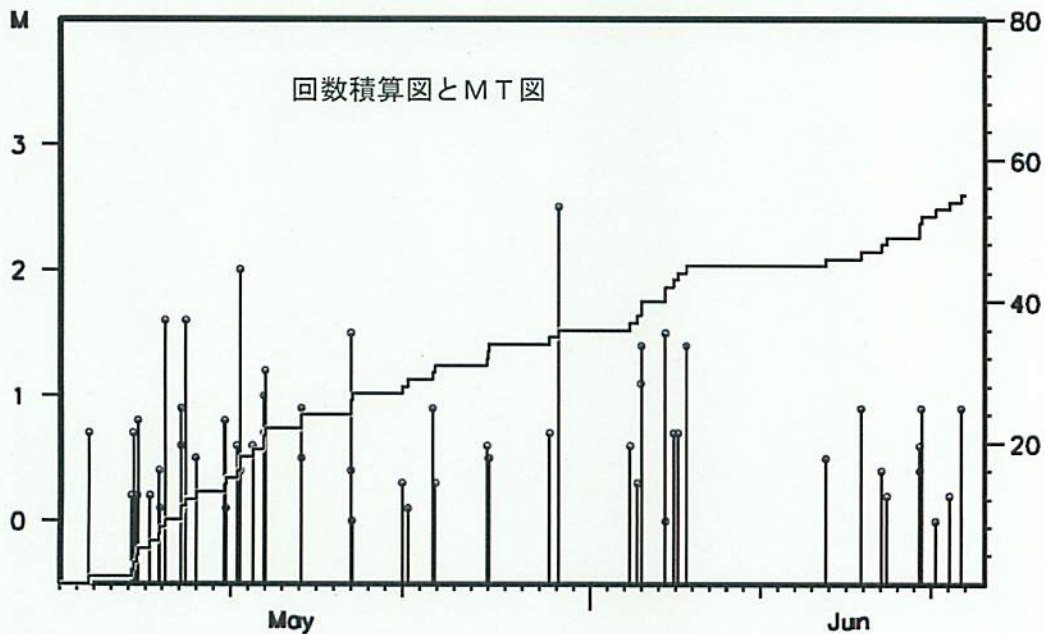
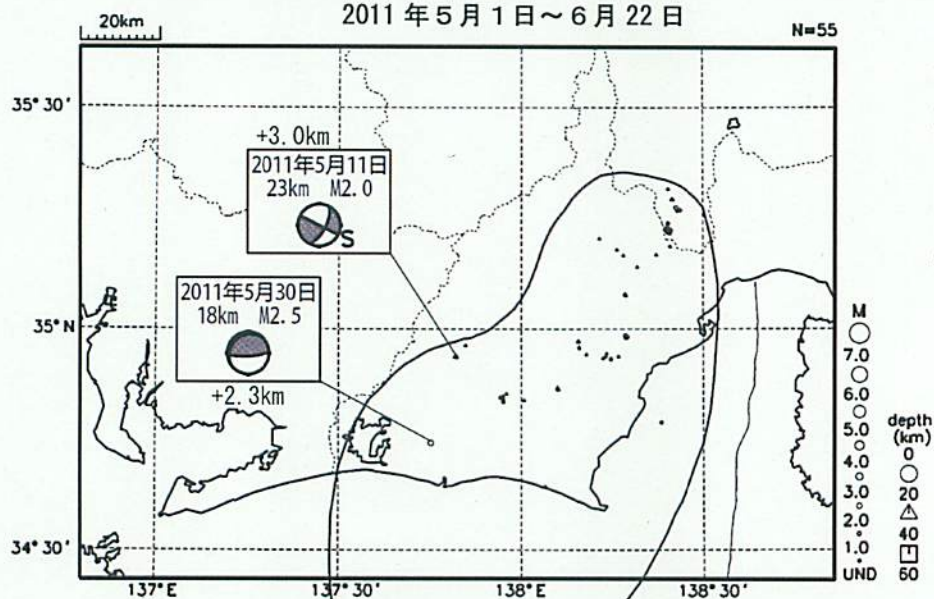


気象庁作成

プレート境界とその周辺の地震活動(最近の活動状況)

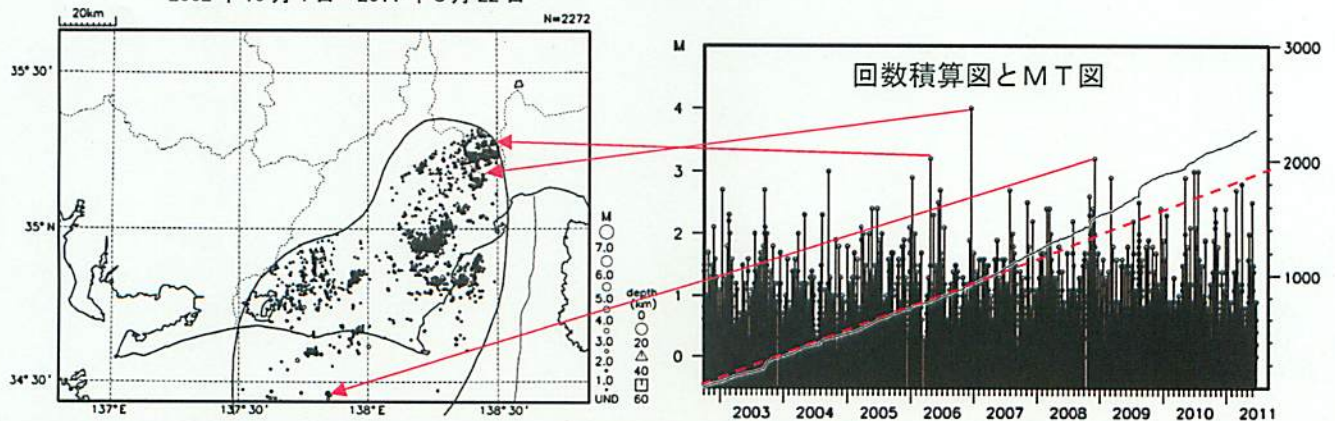
(Hirose et al. (2008)によるフィリピン海スラブ上面深さの±3kmの地震を抽出)

プレート境界とその周辺の地震の震央分布 (最近約1ヶ月半、Mすべて)



プレート境界とその周辺の地震の震央分布 (2002年10月以降、Mすべて)

2002年10月1日～2011年6月22日

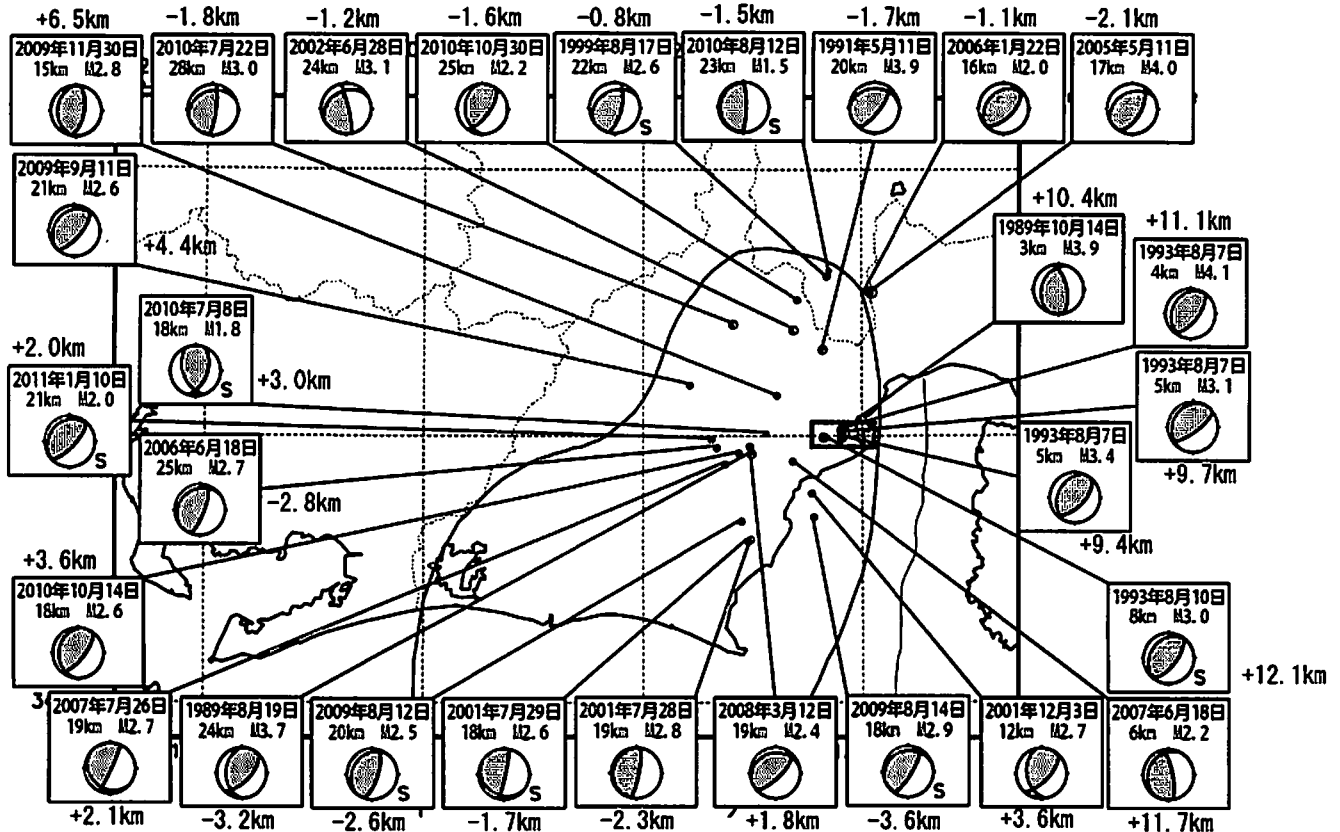


2002年10月以降(Mすべて)で見ると、東海地域のプレート境界とその周辺の地震活動は、2007年中頃あたりからやや活発に見える。なお、2009年8月11日以降は、駿河湾の地震(M6.5)の余震活動の一部を抽出している。M3を超える地震については、その震央を矢印で示しているが、これらの地震の発震機構解は想定東海地震のものとは類似の型ではない。

気象庁作成

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震

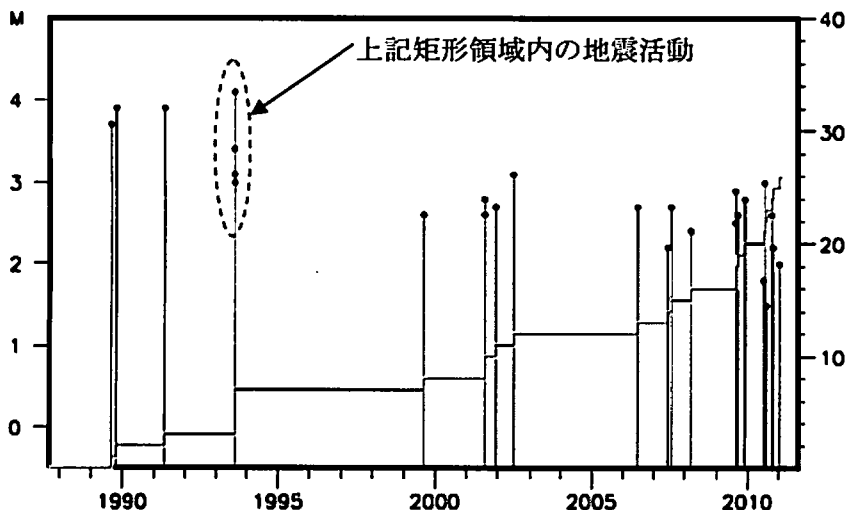
1987年9月1日～2011年6月22日



想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出した。抽出条件は、P軸の傾斜角が45度以下、かつP軸の方位角が65度以上145度以下、かつT軸の傾斜角が45度以上、かつN軸の傾斜角が30度以下とした。

プレート境界で発生したと疑われる地震の他、明らかに地殻内で発生したと推定される地震も含まれている。また、2009年までに発生した地震については、Nakamura et al. (2008)の3次元速度構造で震源とメカニズム解を再精査し、いくつかの地震は候補から削除されている。

なお、吹き出し図中、震源球右下隣りにSの表示があるものは、発震機構解に十分な精度がない。



上記イベントの、想定震源域内における地震活動経過図と回数積算図。

気象庁作成

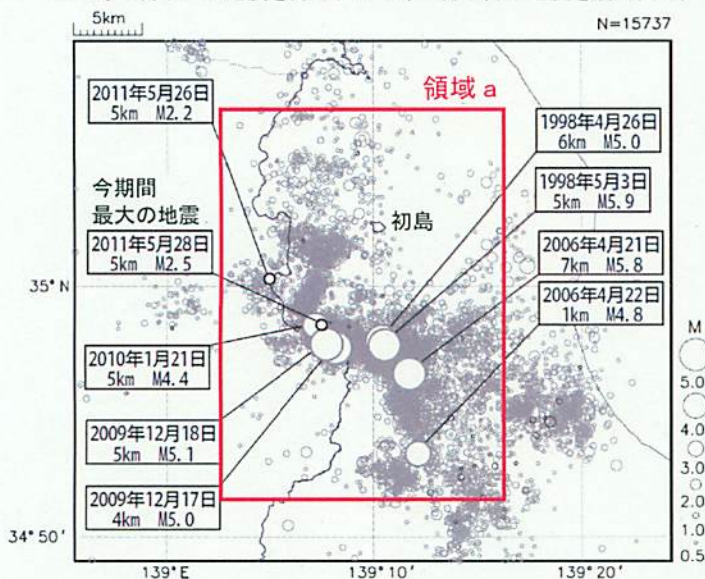
5月～6月 伊豆半島東方沖の活動

5月から6月にかけて、伊豆半島の体積ひずみ計（東伊豆奈良本）及び傾斜計（伊東、岡、徳永、吉田）では、目立ったひずみ変化は観測されていない。

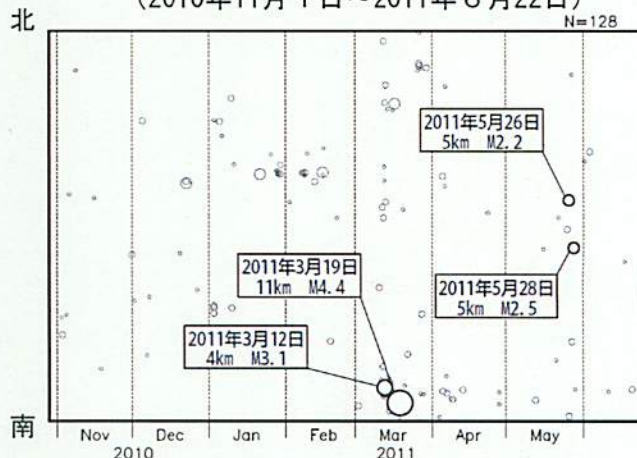
2011年5月以降、伊豆半島東方沖で特に目立った地震活動はなかった。この期間の最大の地震は、5月28日04時13分に発生したM2.5の地震（最大震度1）であった。この地震以外に震度1以上を観測する地震はなかった。

震央分布図（1997年11月1日～2011年6月22日、 $M \geq 0.5$ 、深さ0～20km）

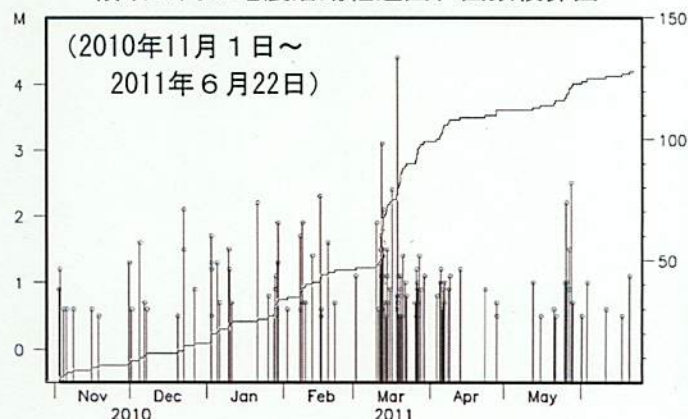
2011年4月までの地震を薄く、2011年5月以降の地震を濃く表示。



領域a内の時空間分布図（南北投影）
（2010年11月1日～2011年6月22日）



領域a内の地震活動経過図、回数積算図

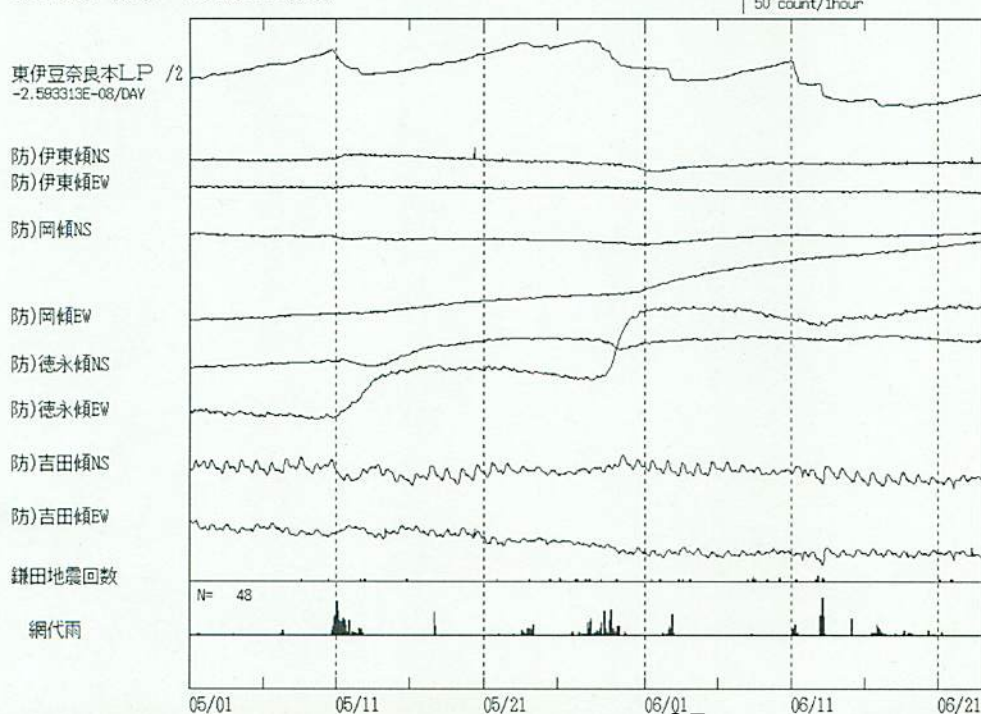


東伊豆地域の体積ひずみ計・傾斜計の記録
（2011年5月1日～6月23日）

※ 防)は独立行政法人防災科学技術研究所の観測点

体積ひずみ・傾斜（気圧・潮汐補正;時間値）伊豆東部

2011/05/01 00:00 - 2011/06/24 00:00



2009年12月の活動領域

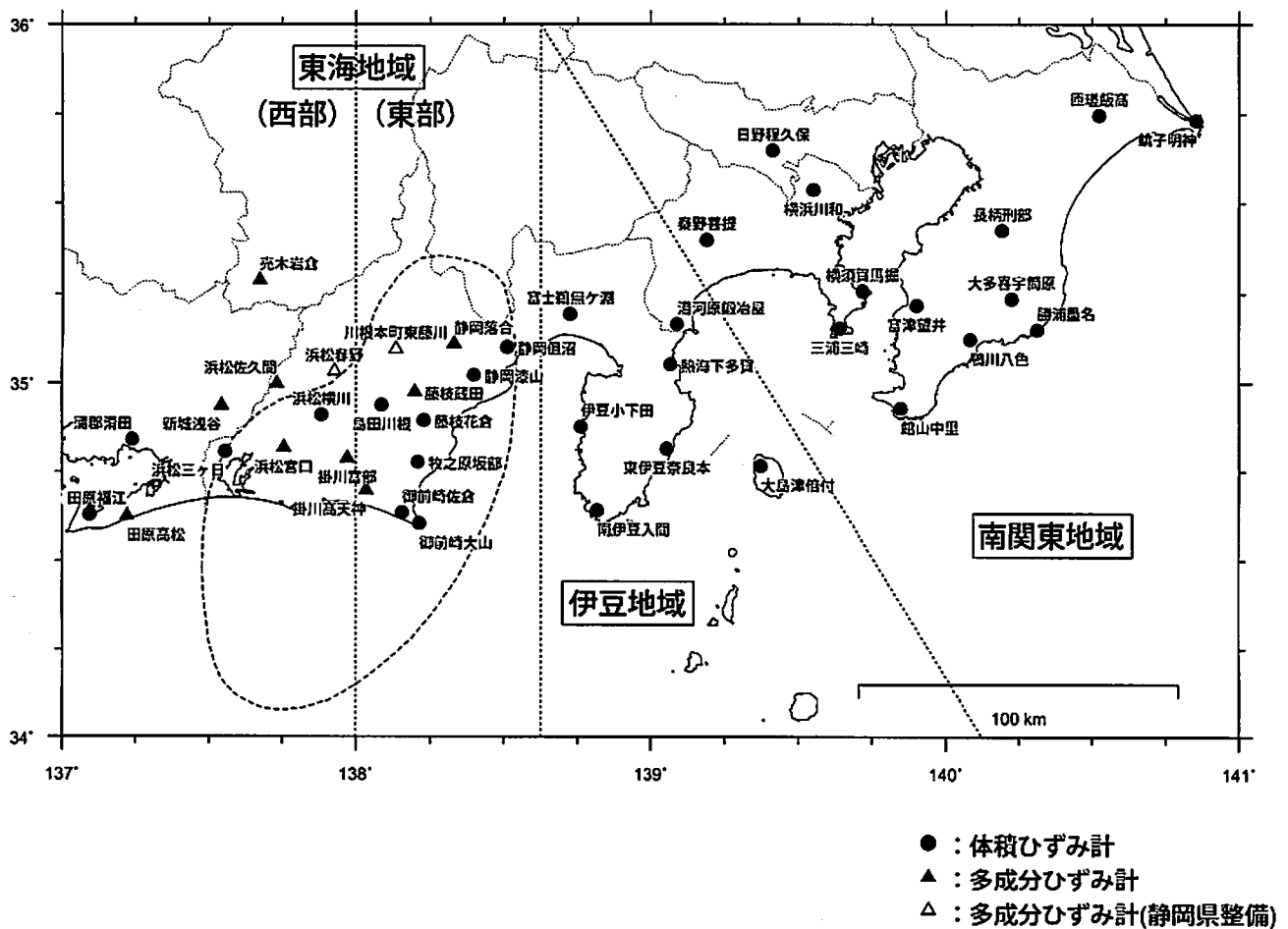


防)は独立行政法人防災科学技術研究所の観測点である。

気象庁作成

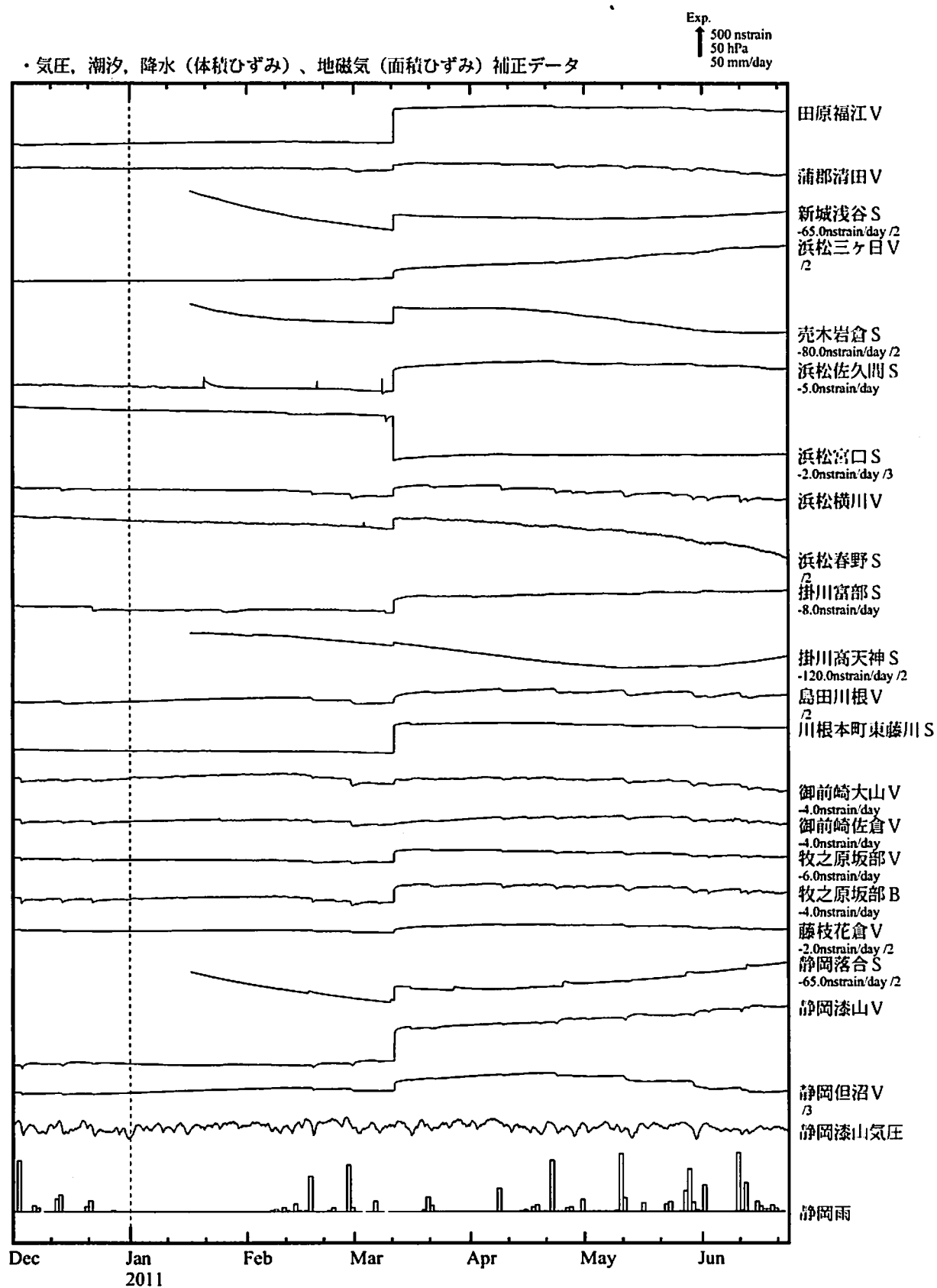
ひずみ計による観測結果 (2010年12月1日～2011年6月23日)

ひずみ計の配置図

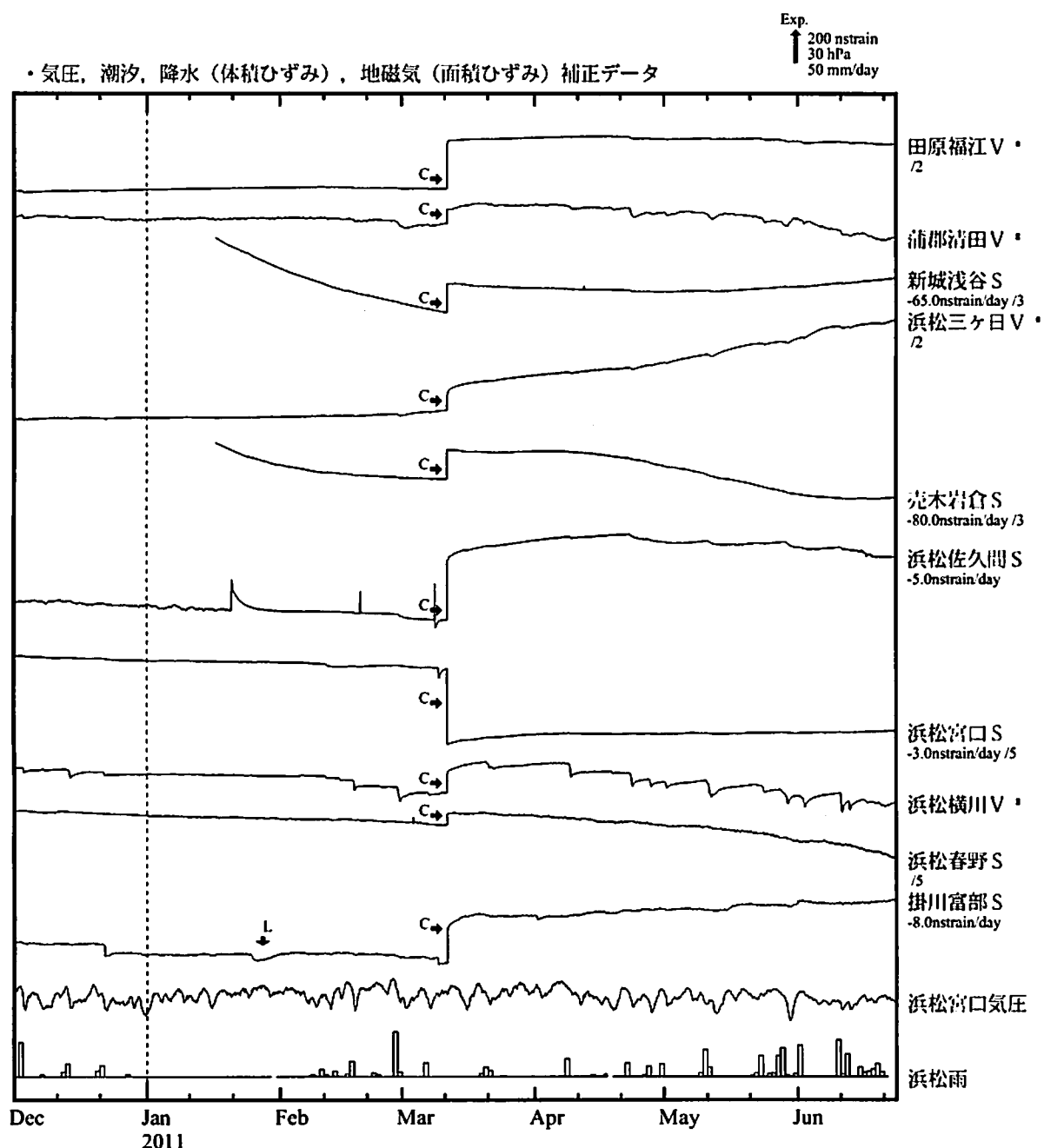


気象庁作成

ひずみ変化 時間値（東海地域）



ひずみ変化 時間値（東海地域（西部））



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅（ノイズレベル）を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

・特記事項なし。

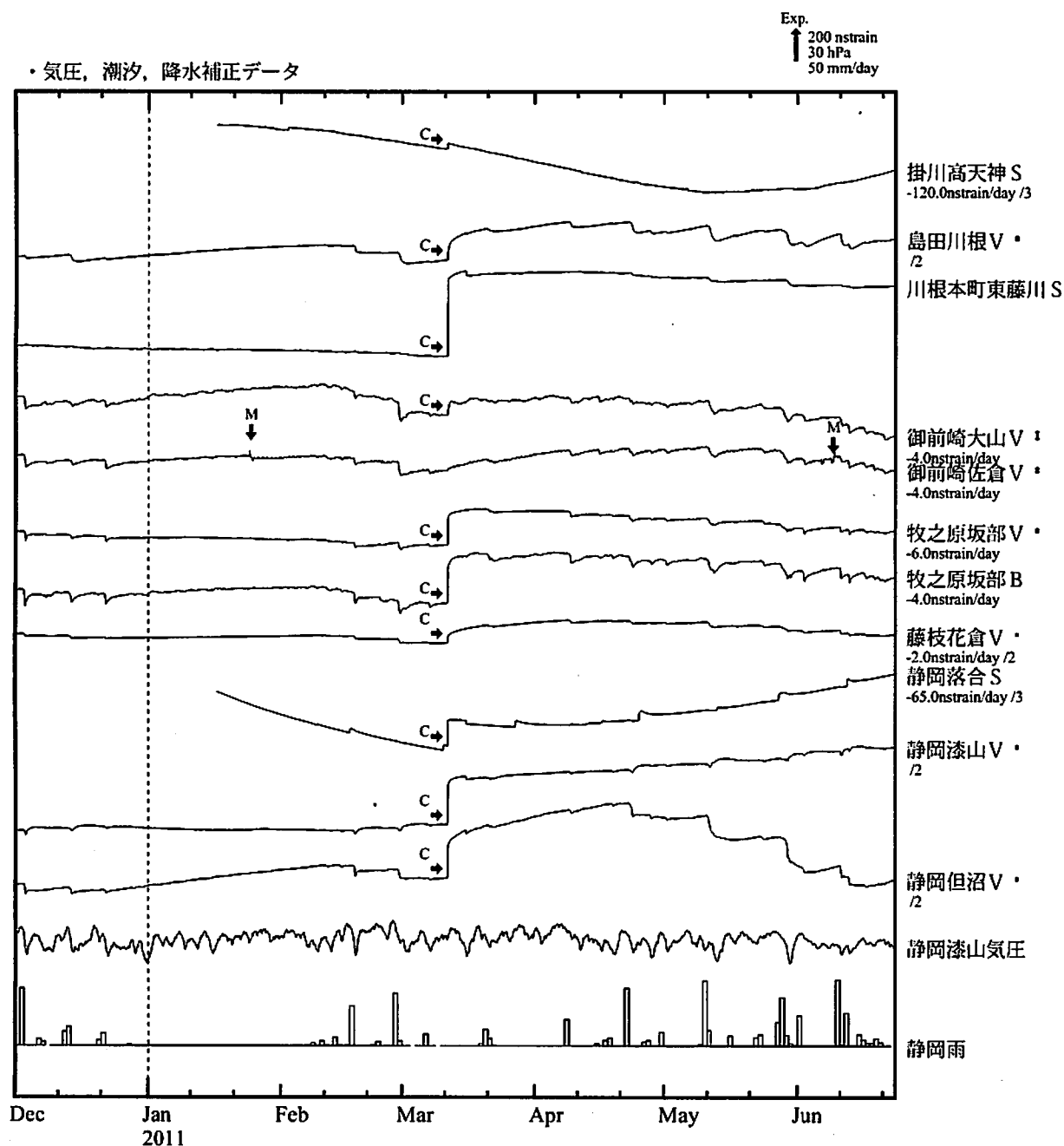
- C : 地震に伴うコサイミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

表示観測点の名称

田原福江	たはらふくえ
蒲郡清田	がまごおりせいだ
新城浅谷	しんしろあさや
浜松三ヶ日	はまつみっかひ
売木岩倉	うるぎいわくら
浜松佐久間	はまつさくま
浜松宮口	はまつみやぐち
浜松横川	はまつよこかわ
浜松春野	はまつはるの
掛川富部	かけがわとんべ

気象庁作成

ひずみ変化 時間値（東海地域（東部））



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

・特記事項なし。

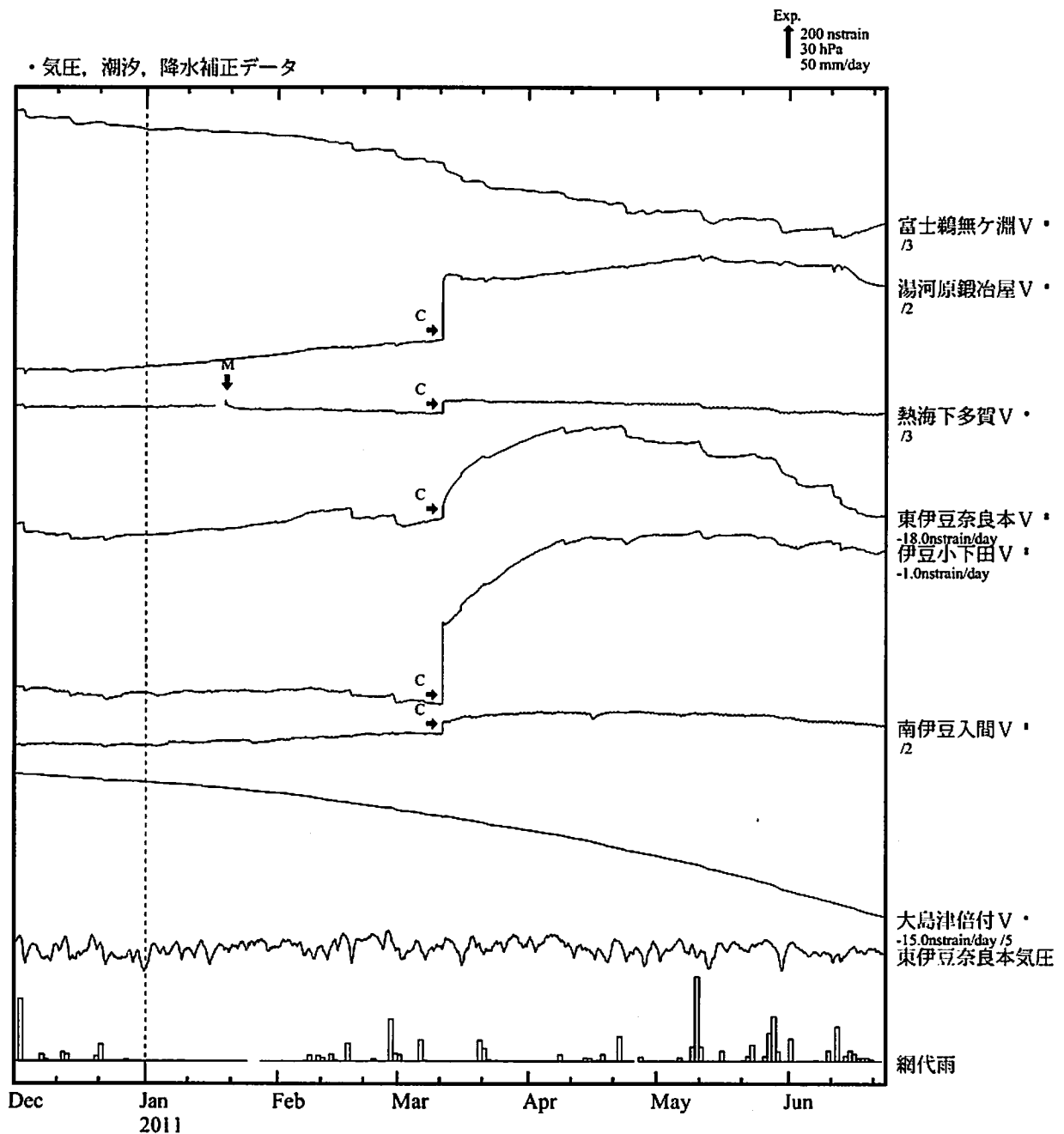
C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

表示観測点の名称

掛川高天神	かけがわとかてんじん
島田川根	しまだかわね
川根本町東藤川	かわねほんちょう
	ひがしふじかわ
御前崎大山	おまえざきおおやま
御前崎佐倉	おまえざきさくら
牧之原坂部	まきのはらさかべ
藤枝花倉	ふじえだはなくら
静岡落合	しずおかおちあい
静岡漆山	しずおかうるしやま
静岡但沼	しずおかただぬま

気象庁作成

ひずみ変化 時間値 (伊豆地域)



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

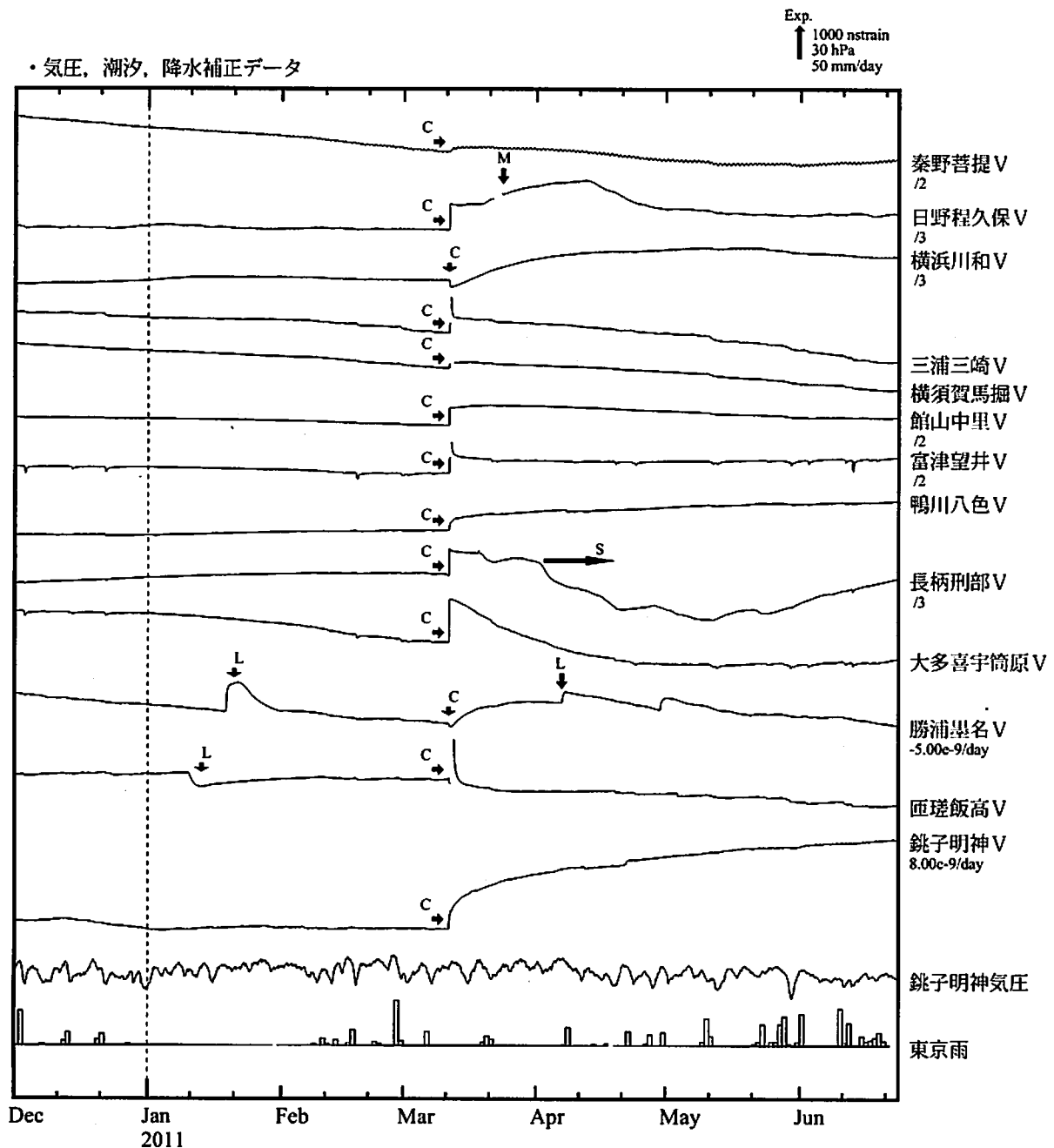
C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

表示観測点の名称

富士鶴無ヶ淵	ふじうないがふち
湯河原鍛冶屋	ゆがわらかじや
熱海下多賀	あたみしもたが
東伊豆奈良本	ひがしいずならもと
伊豆小下田	いずこしもだ
南伊豆入間	みなみいずいるま
大島津倍付	おおしまつばいつき

気象庁作成

ひずみ変化 時間値（南関東地域）



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

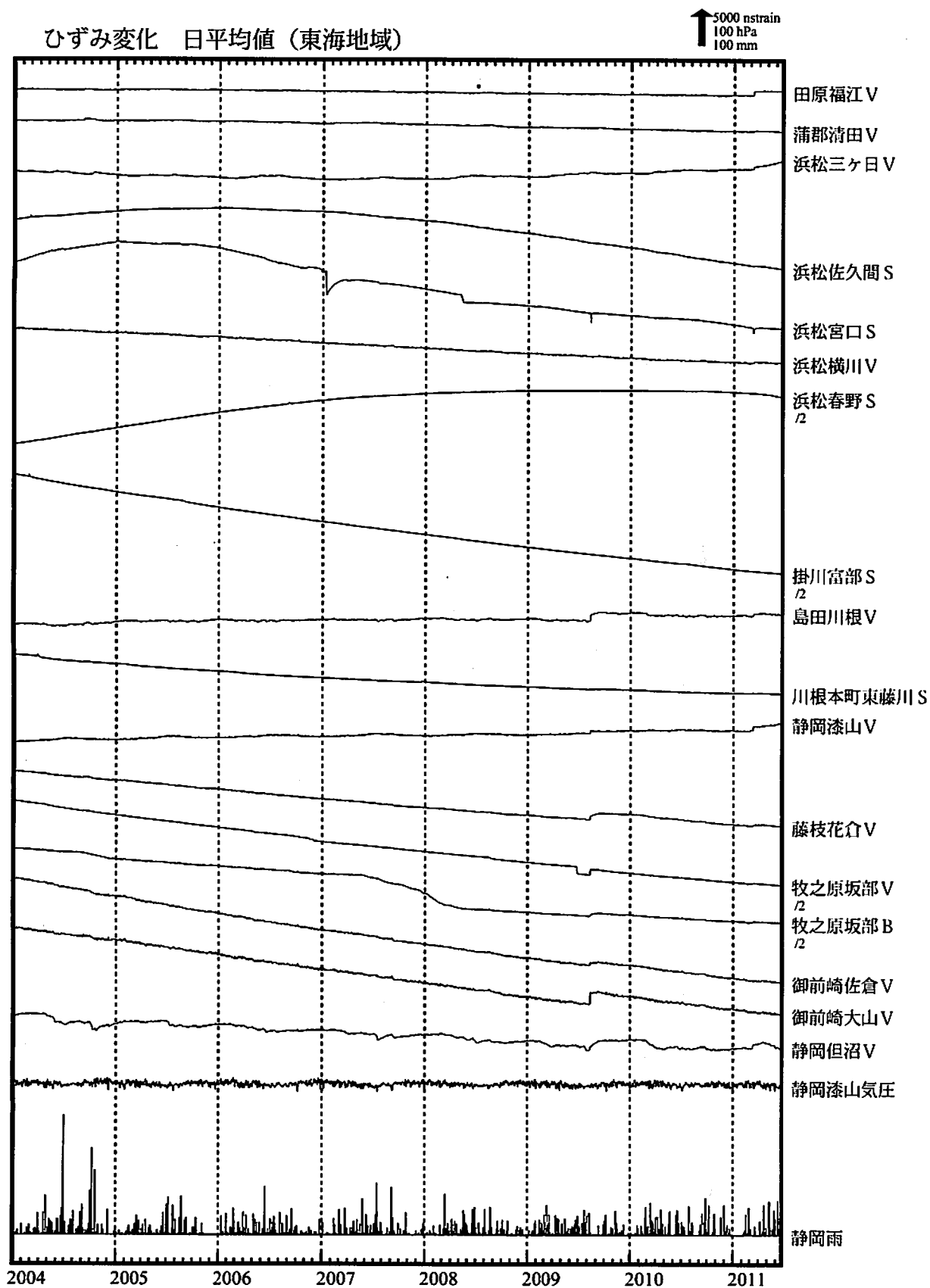
・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

表示観測点の名称

秦野菩提	はだのぼだい
日野程久保	ひのほどくぼ
横浜川和	よこはまかわわ
三浦三崎	みうらみさき
横須賀馬堀	よこすかまぼり
館山中里	たてやまなかざと
富津望井	ふつつもちい
鴨川八色	かもがわやいろ
長柄刑部	ながらおさかべ
大多喜宇筒原	おおたきうとうぼら
勝浦墨名	かつうらとな
匝瑳飯高	そうさいいだか
銚子明神	ちょうしみょうじん

気象庁作成

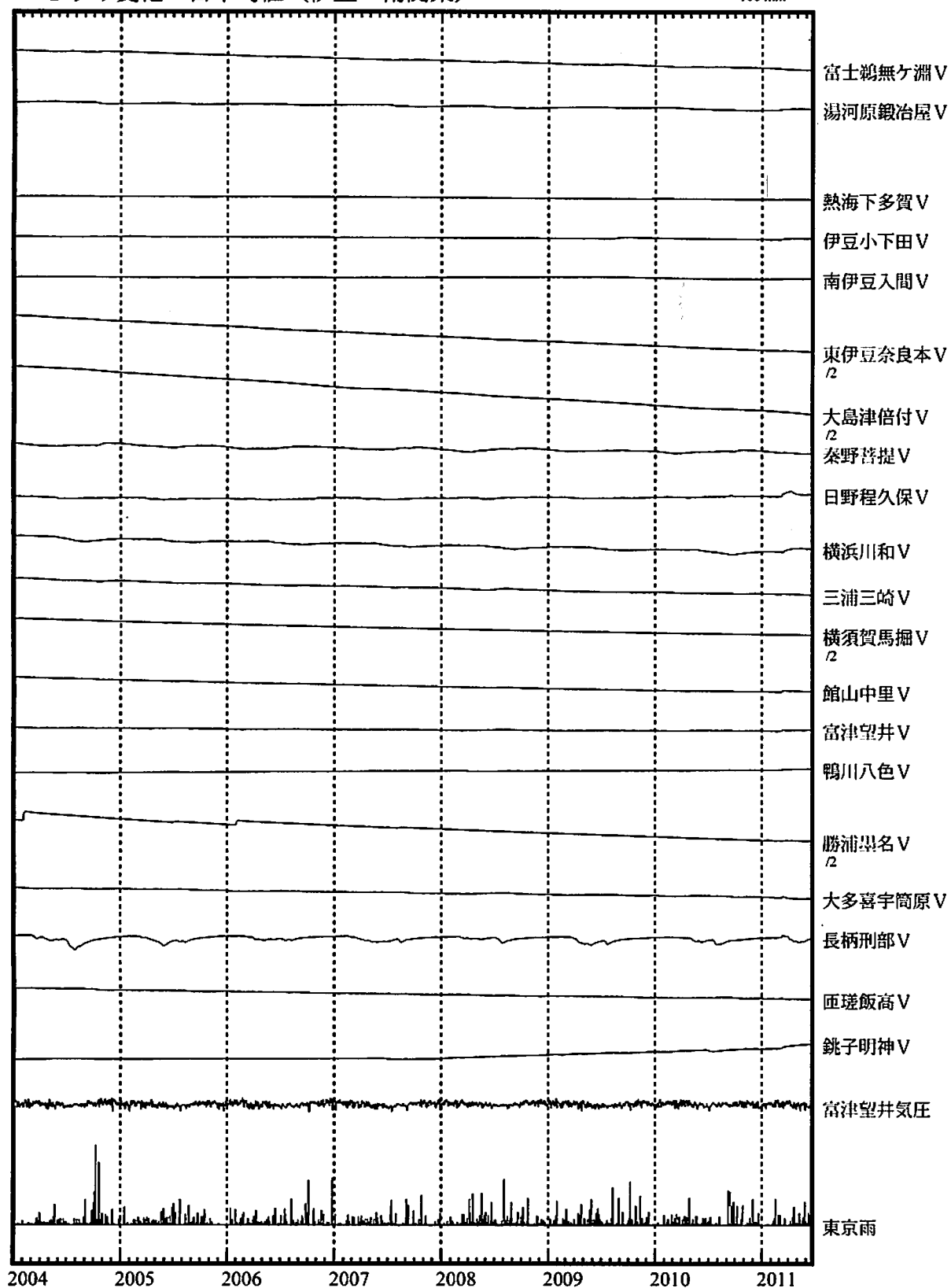


*面積ひずみは、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除外して計算している。

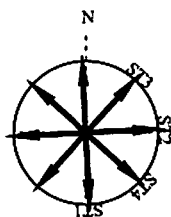
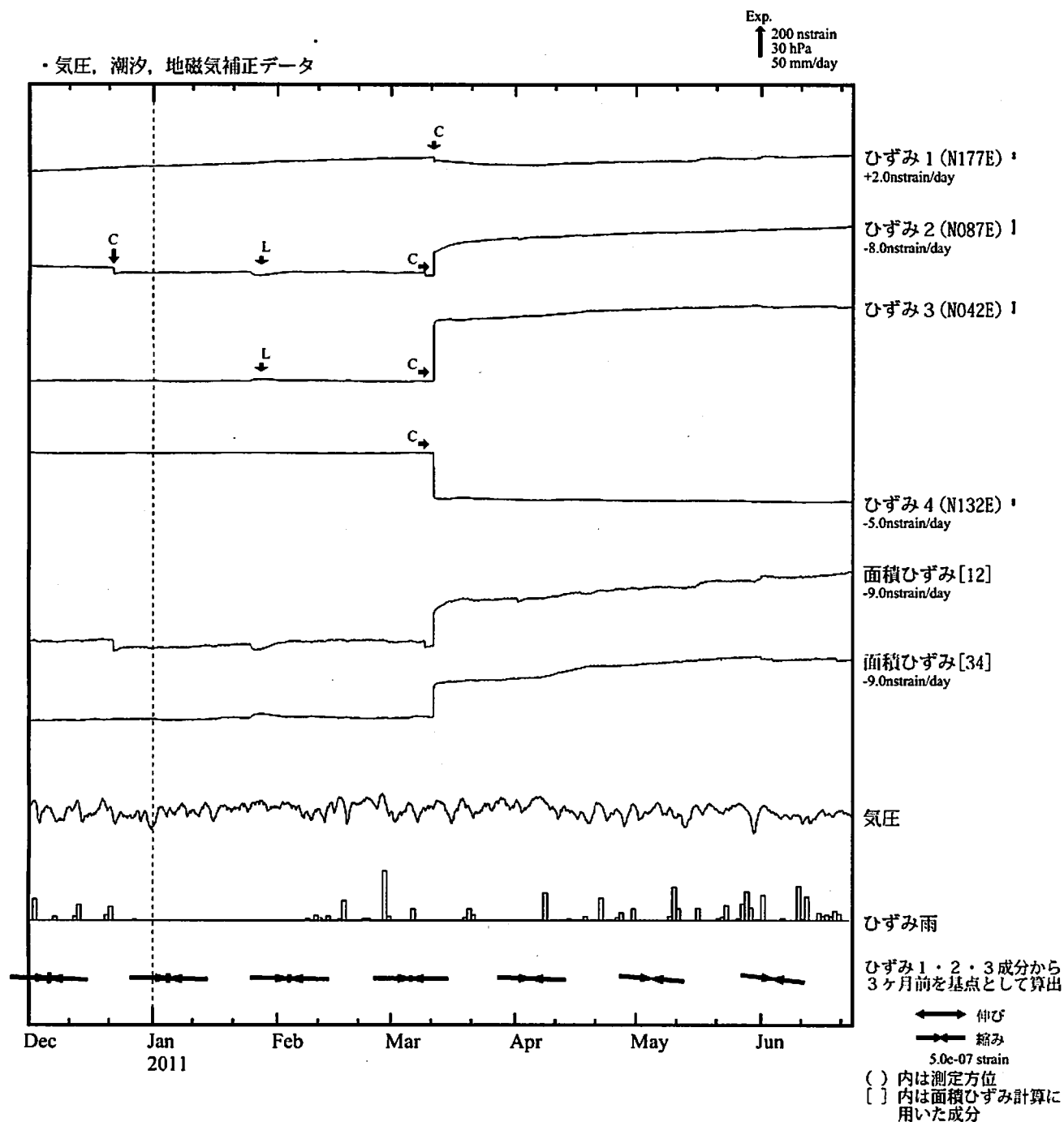
気象庁作成

ひずみ変化 日平均値 (伊豆・南関東)

↑ 30000 nstrain
100 hPa
100 mm



掛川富部（かけがわとんべ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

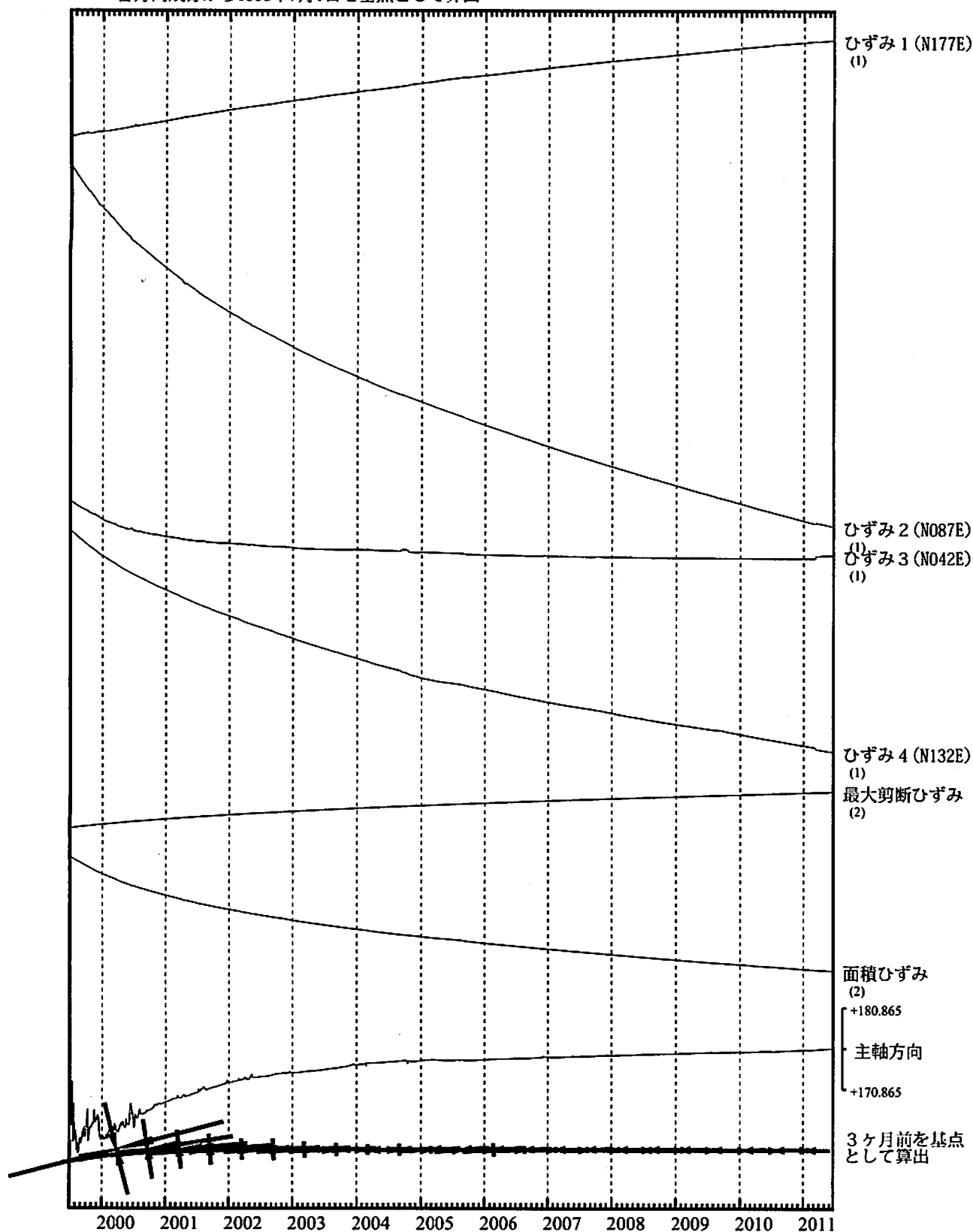
・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

掛川富部ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ 1、2、3 の各方向成分から1999年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain (1)
20000 nstrain (2)



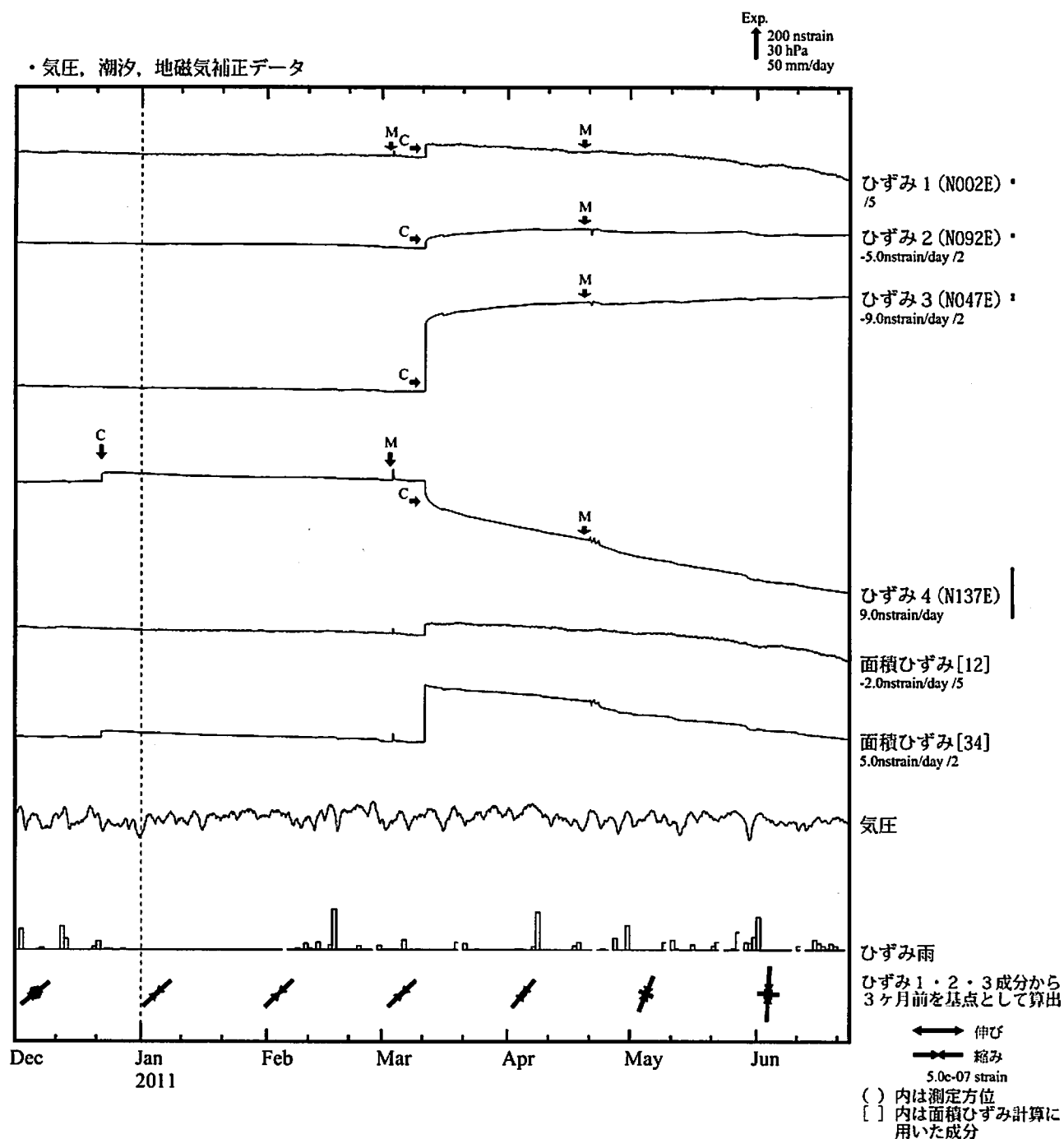
* 各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

* 最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

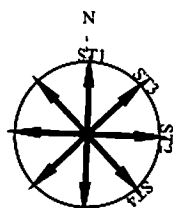
気象庁作成

浜松春野（はまつはるの） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

・特記事項なし。

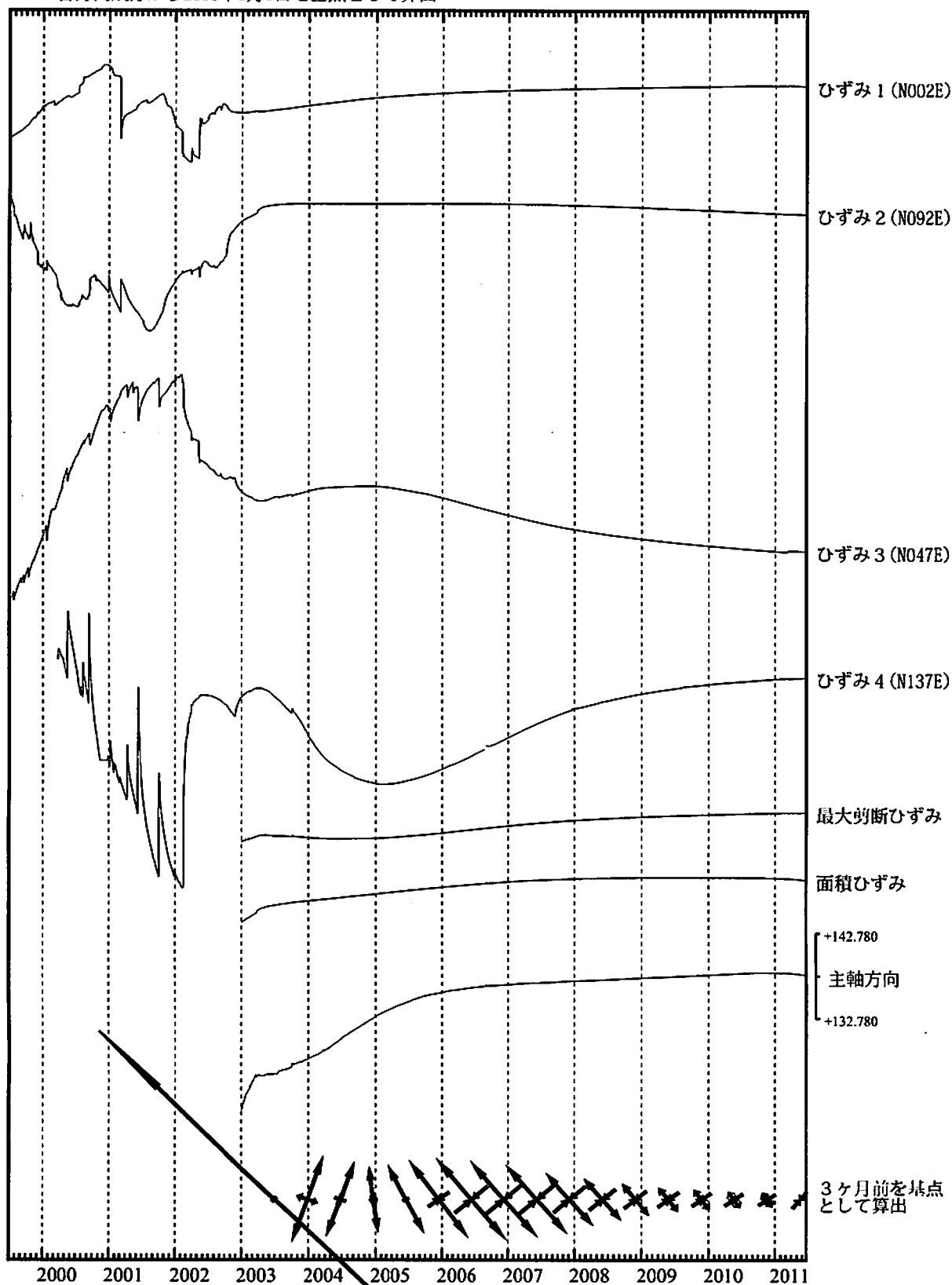


- C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

浜松春野ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から2003年1月1日を基点として算出

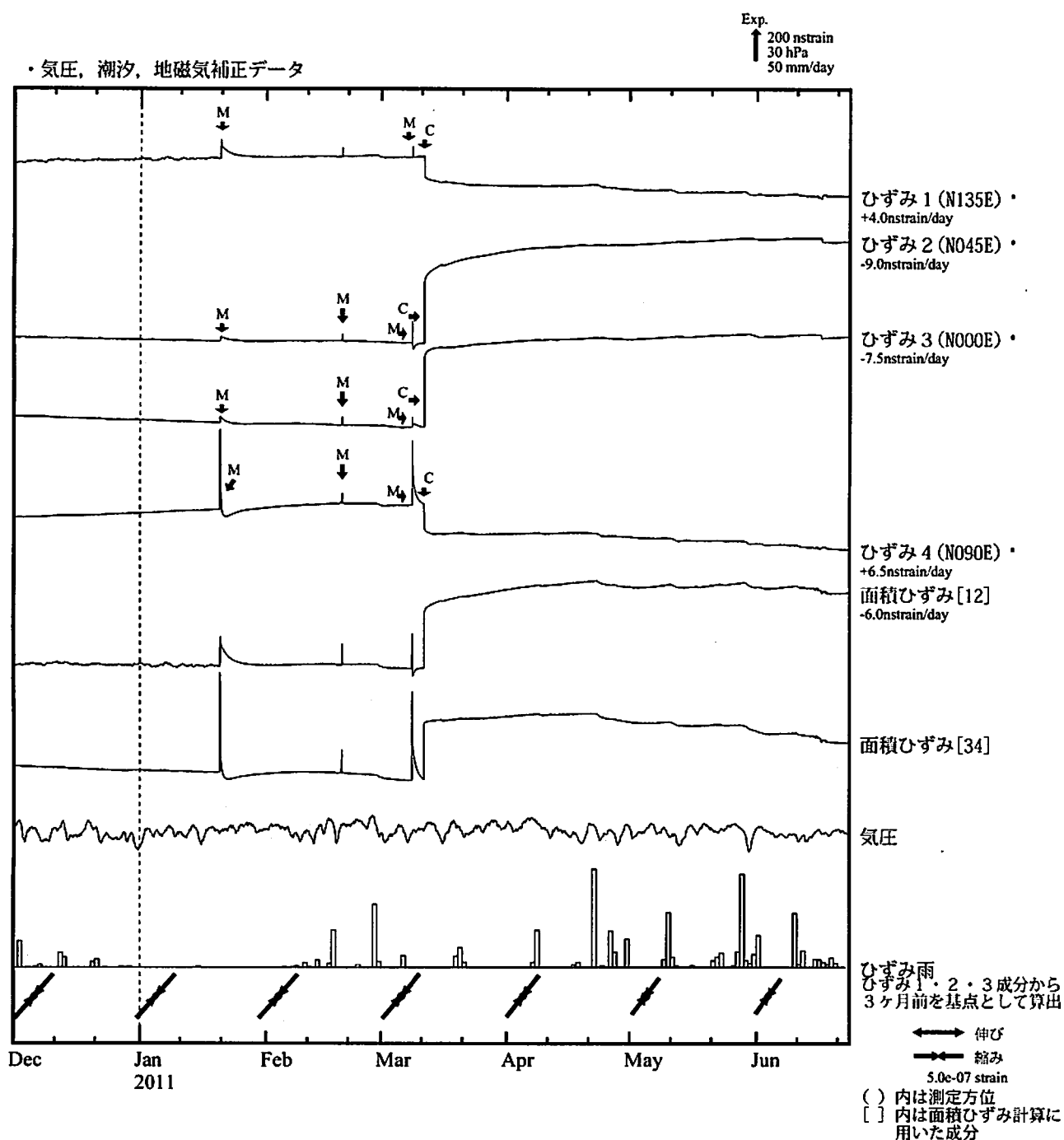
Exp.
↑ 20000 nstrain



*最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

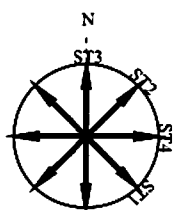
気象庁作成

浜松佐久間（はまつさくま）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

・特記事項なし。

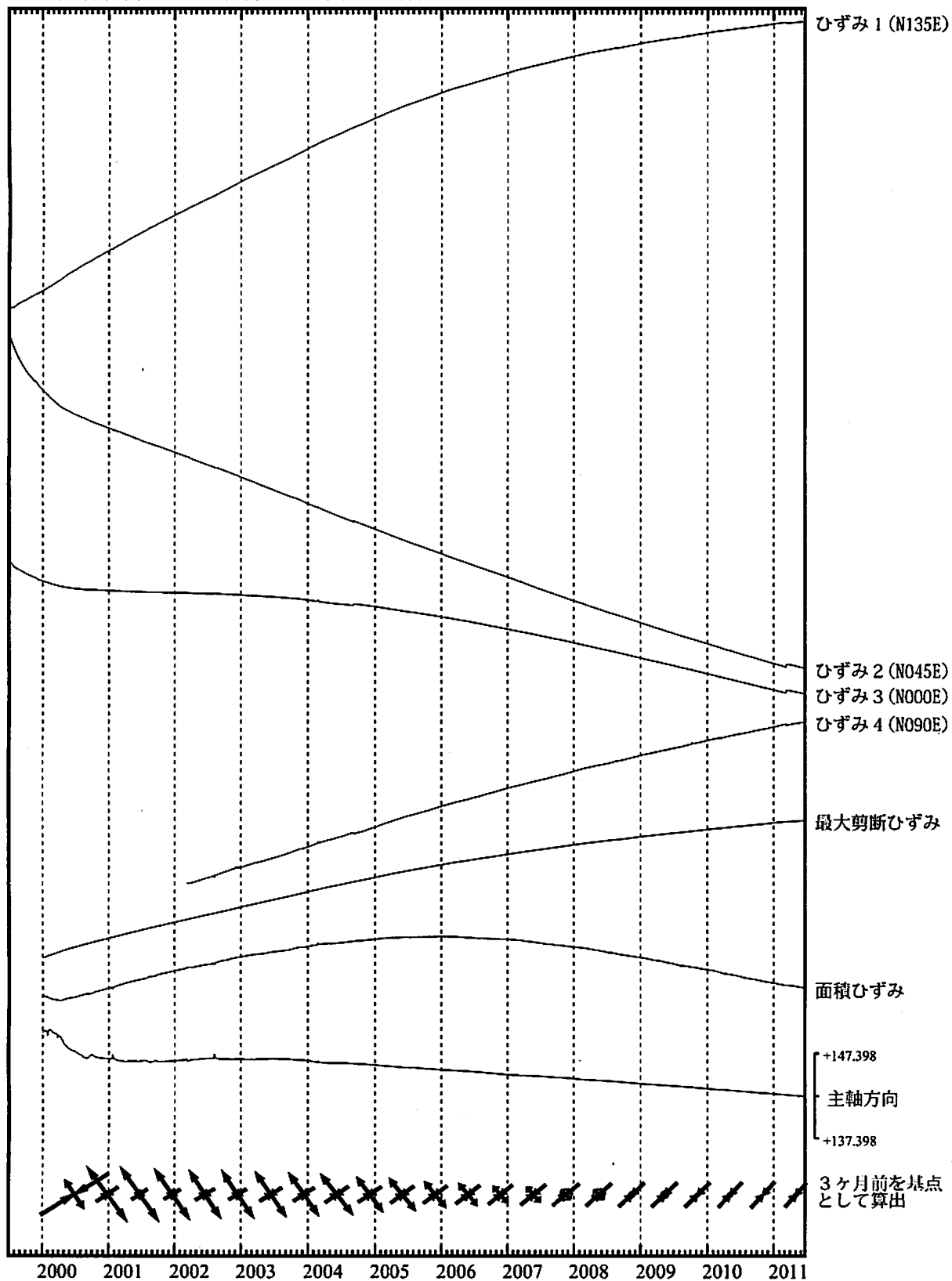


C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

浜松佐久間ひずみ変化（日値）

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

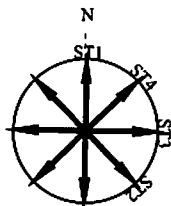
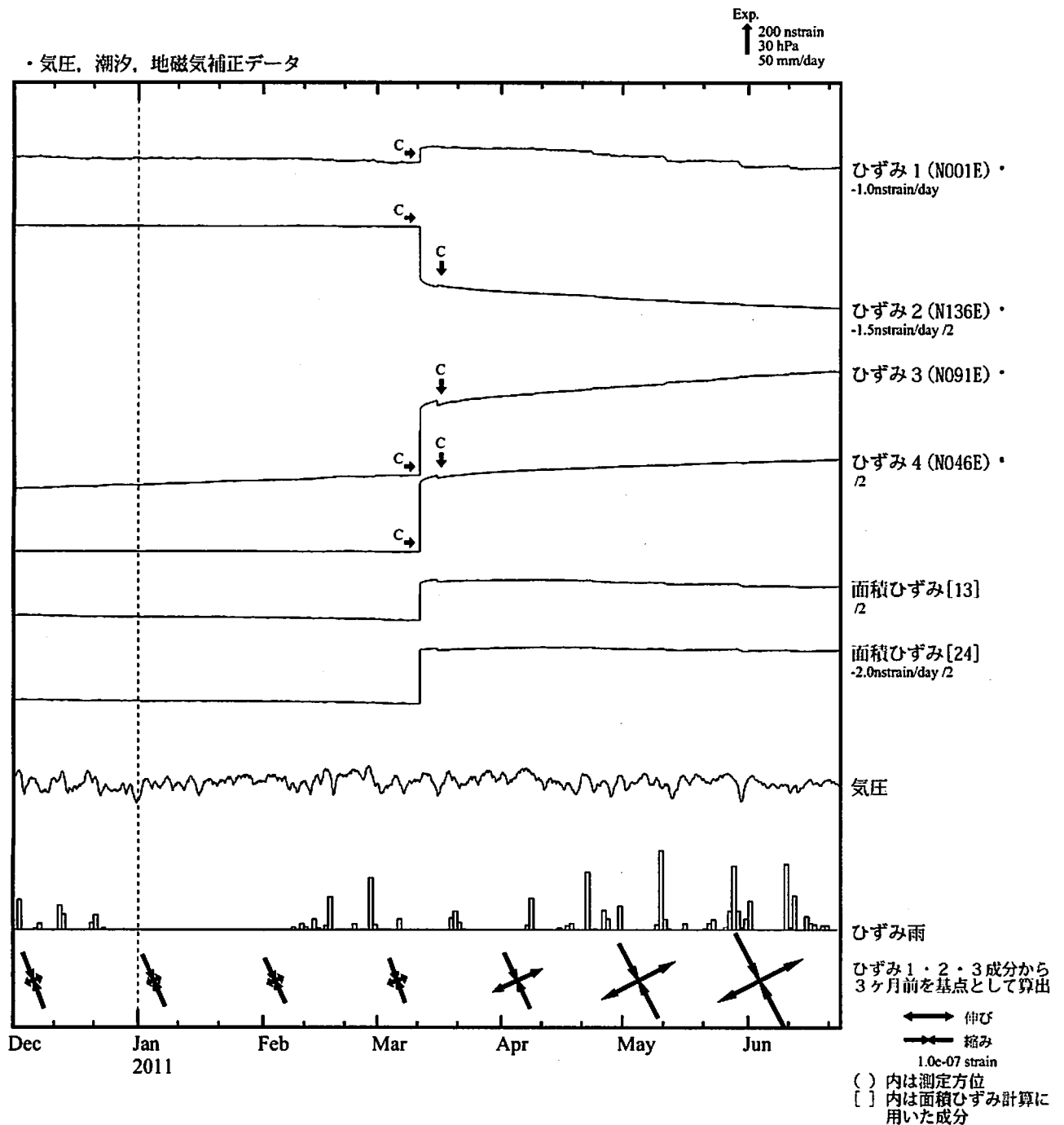
Exp.
↑ 5000 nstrain



*最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

気象庁作成

川根本町東藤川（かねほんちょうひがしふじかわ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

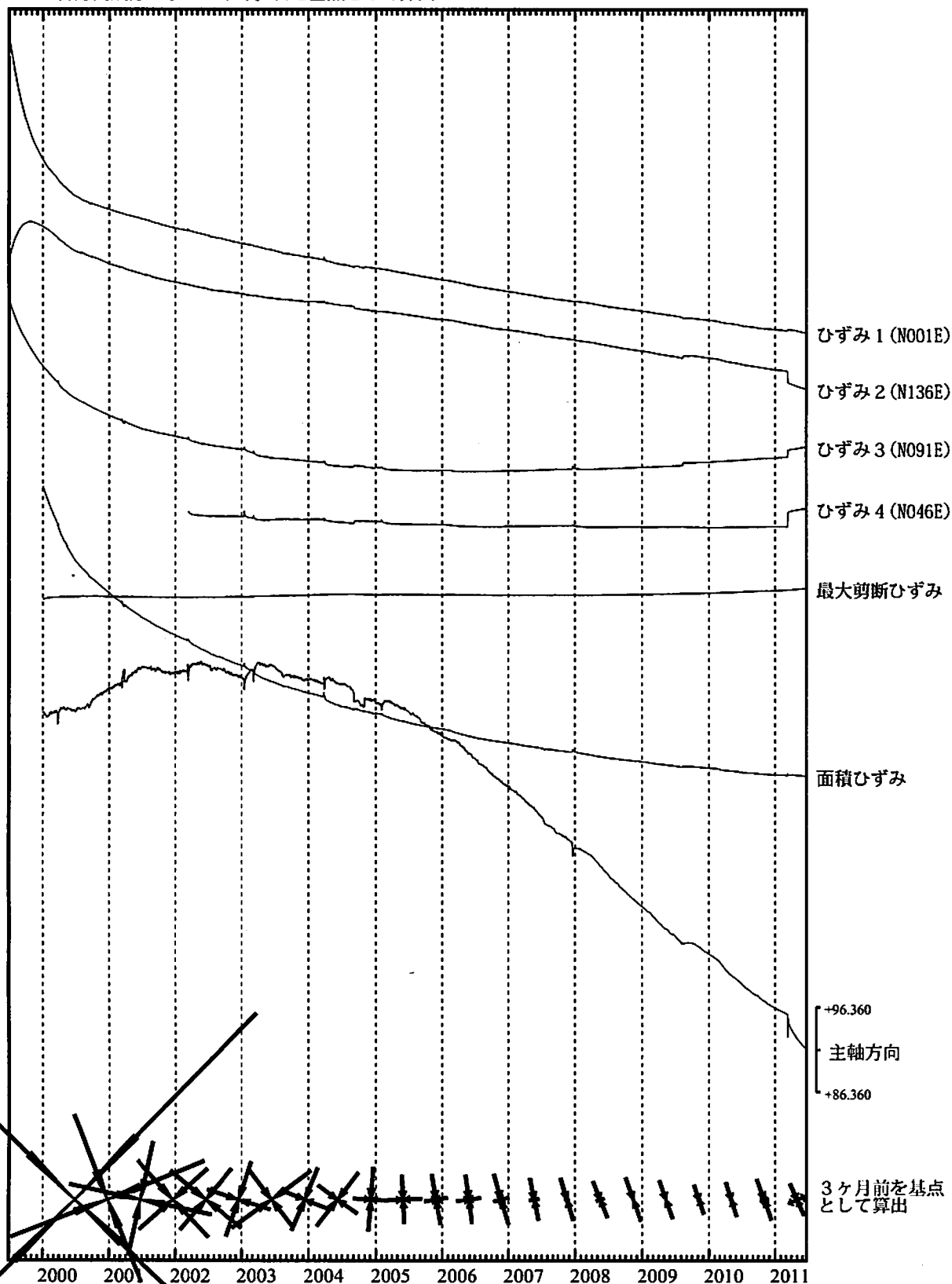
・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

川根本町東藤川ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみおよび面積ひずみはひずみ 1、2、3 の
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 2000 nstrain

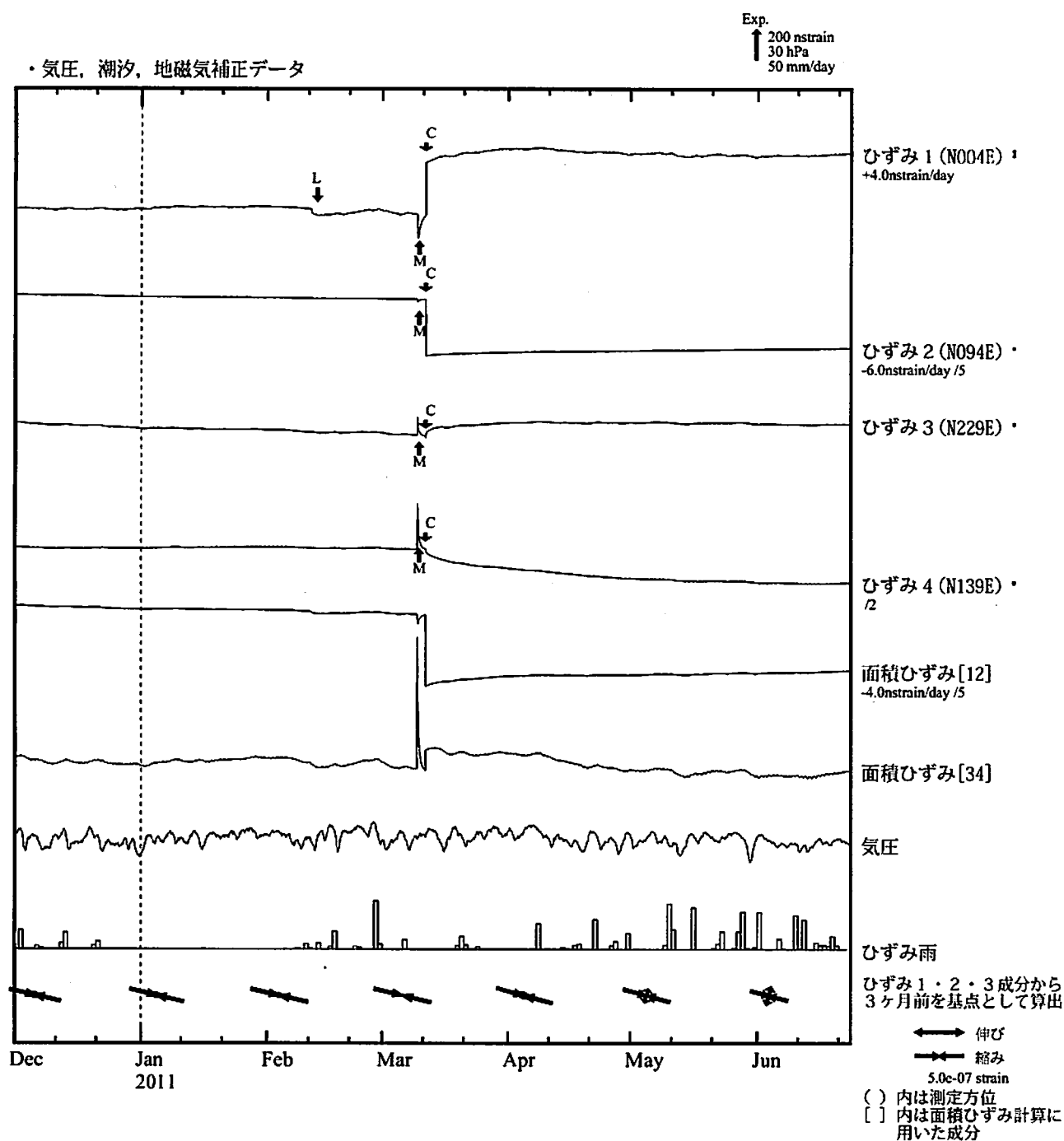


* 最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
2.0e-07 strain

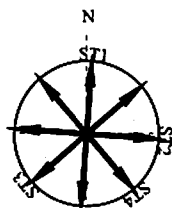
気象庁作成

浜松宮口（はまつみやぐち） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

・特記事項なし。

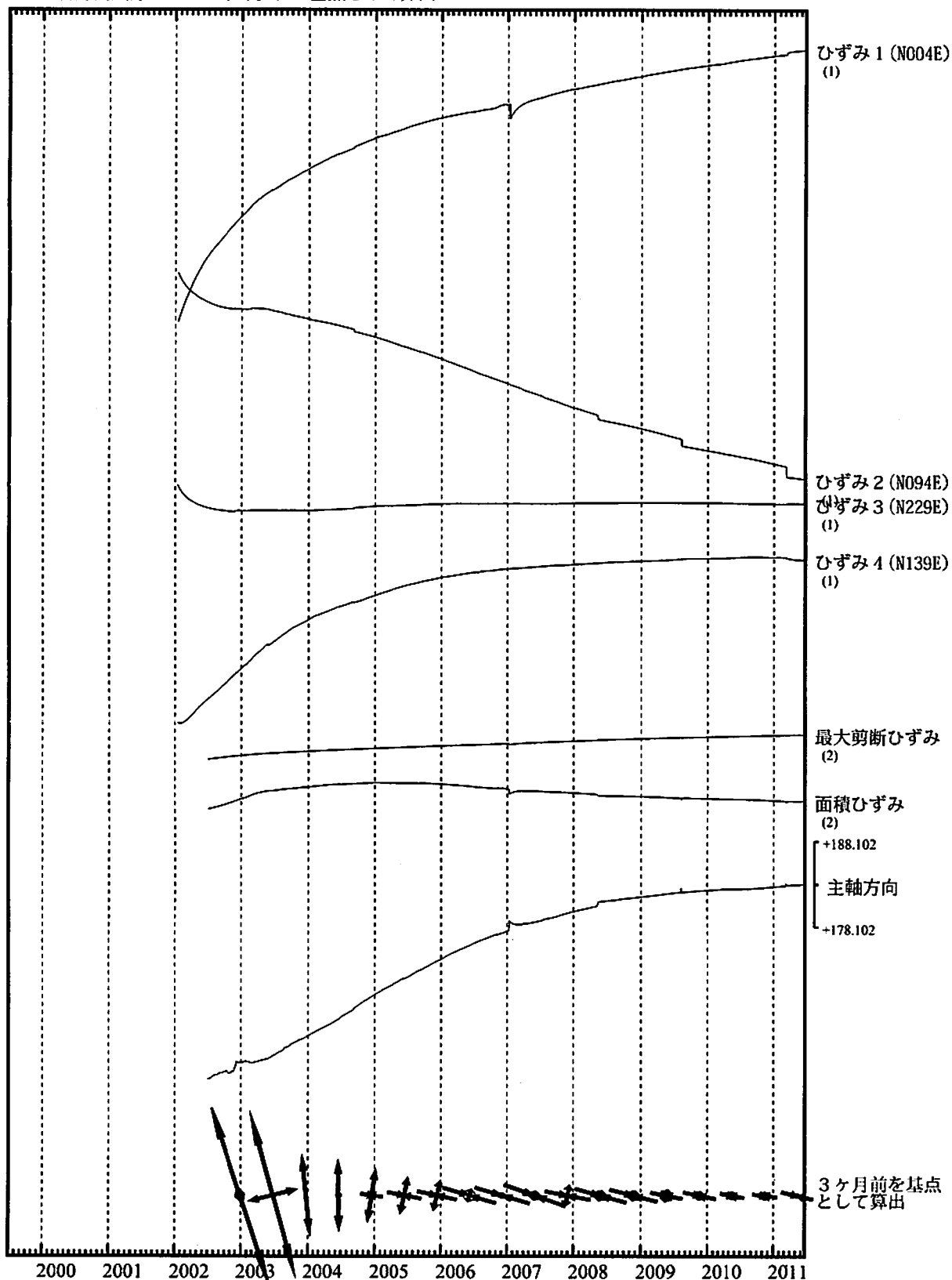


C : 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

浜松宮口ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ 1、2、3 の
各方向成分から2002年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain (1)
20000 nstrain (2)



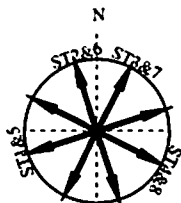
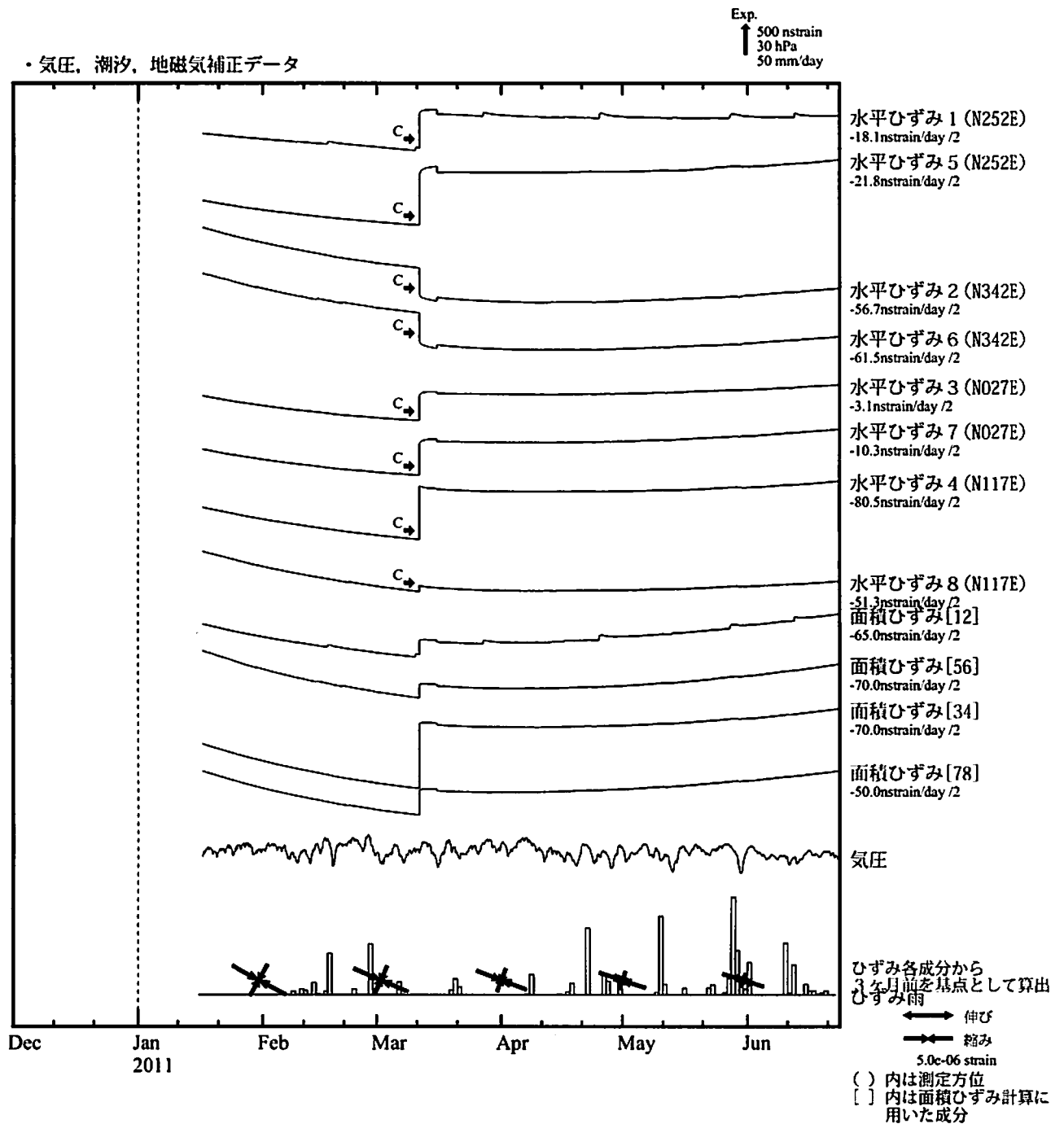
*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

*最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

伸び
縮み
1.0e-06 strain

気象庁作成

静岡落合（しずおかおちあい） ひずみ変化 時間値

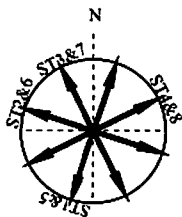
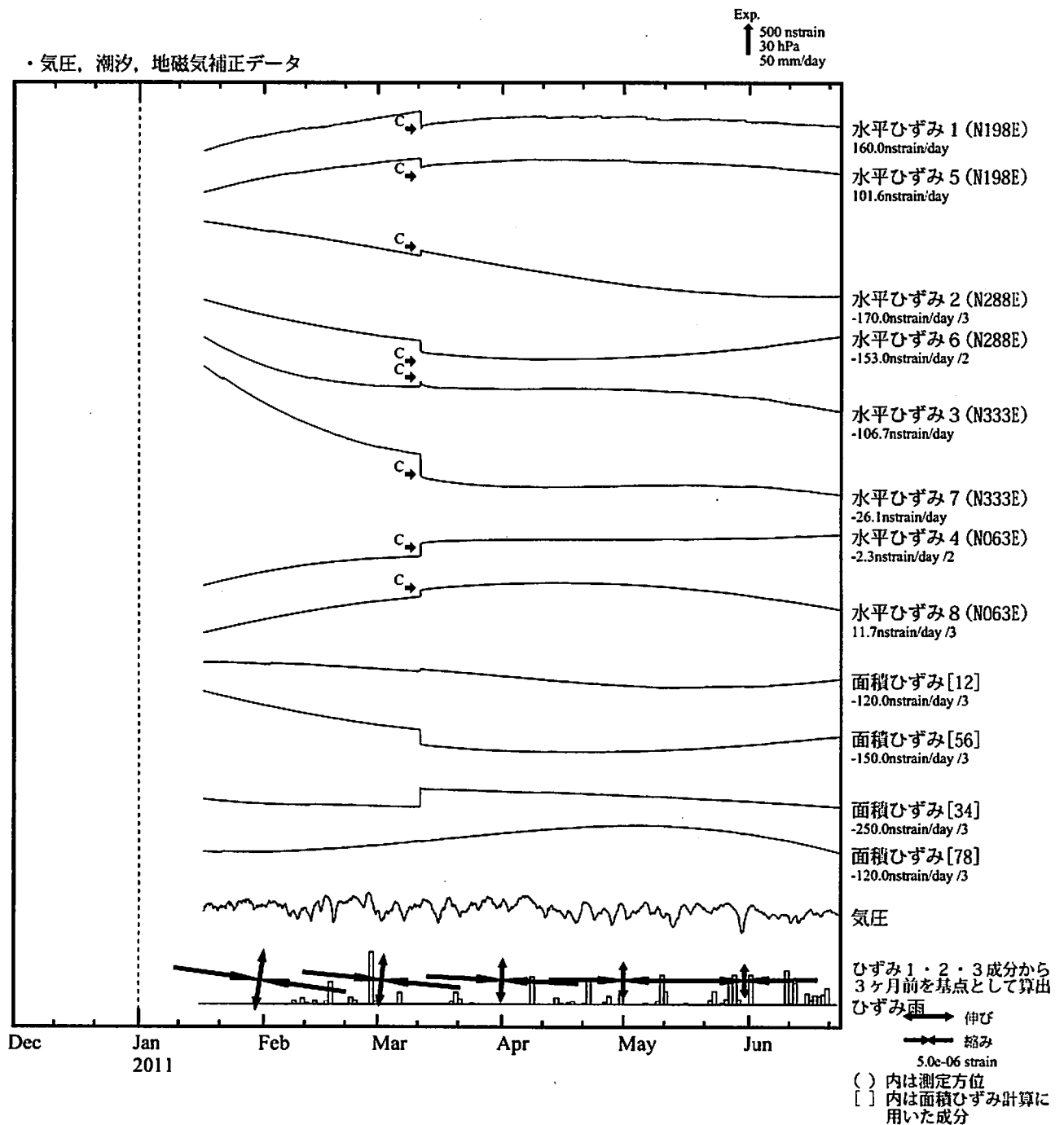


※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

掛川高天神（かけがわたかてんじん） ひずみ変化 時間値

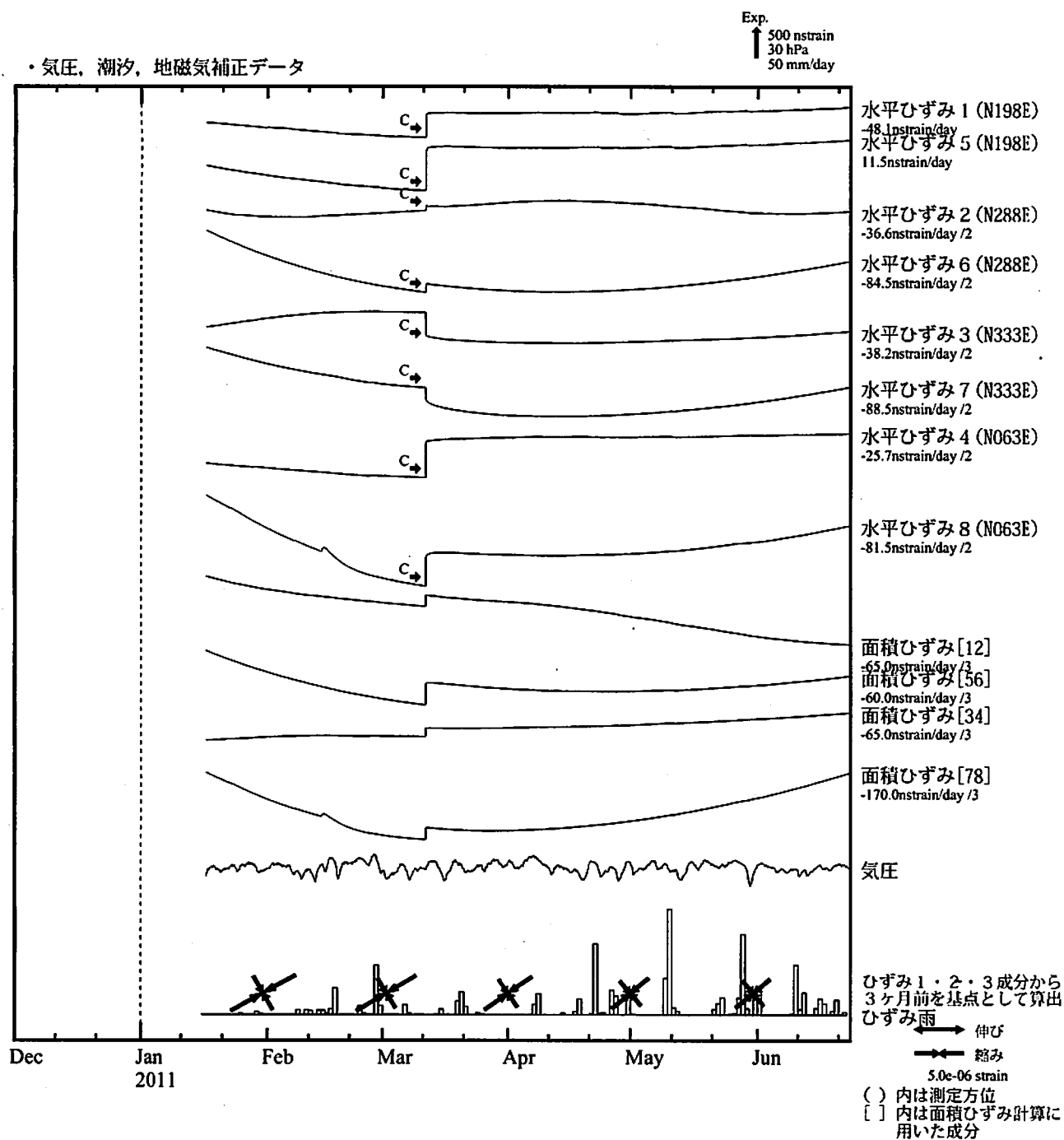


※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

売木岩倉（うるぎいわくら）ひずみ変化 時間値

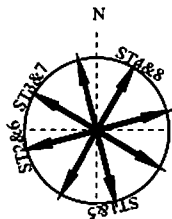
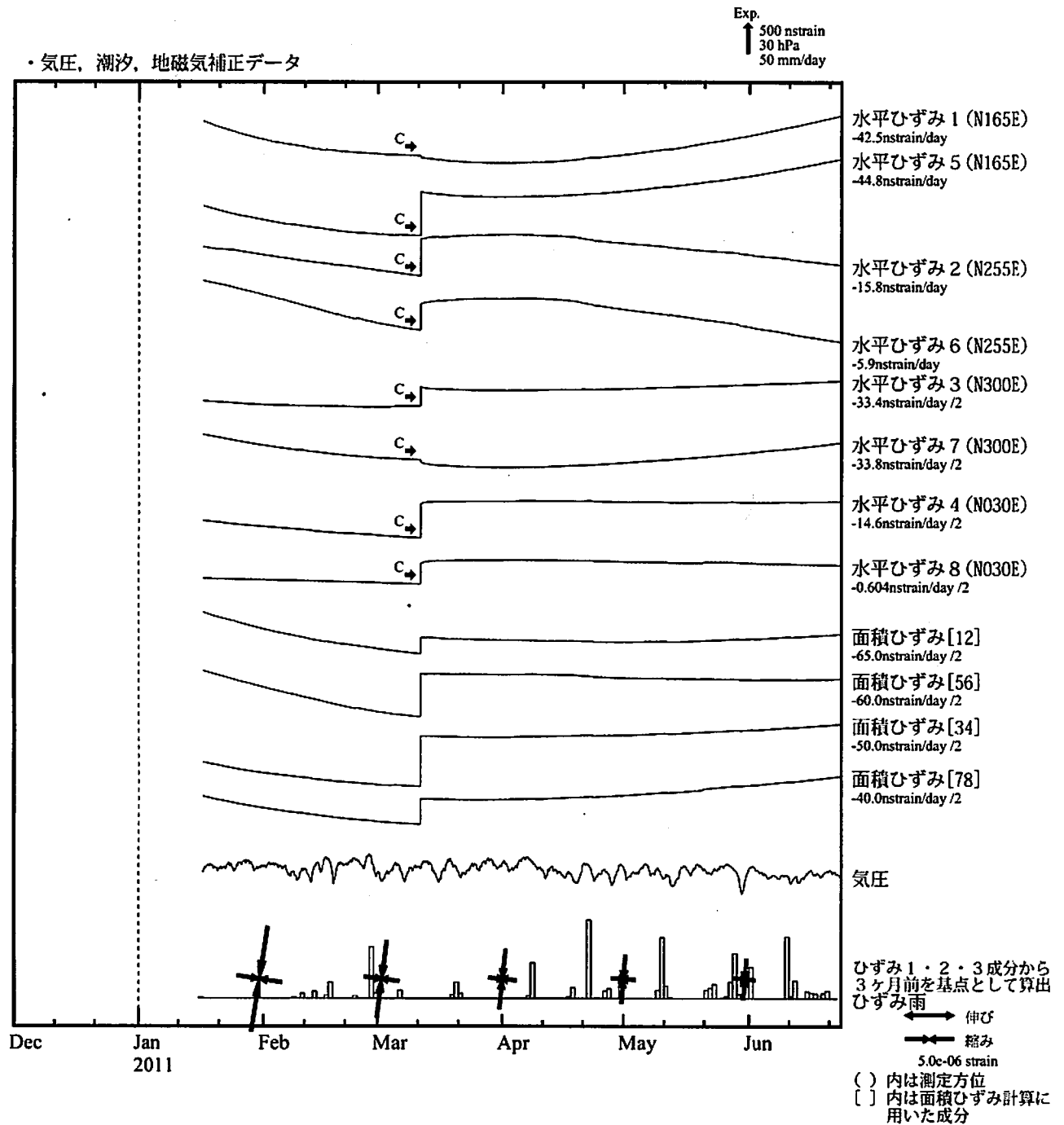


※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

・特記事項なし。

C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整

新城浅谷（しんしろあさや） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。
※主ひずみは、東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

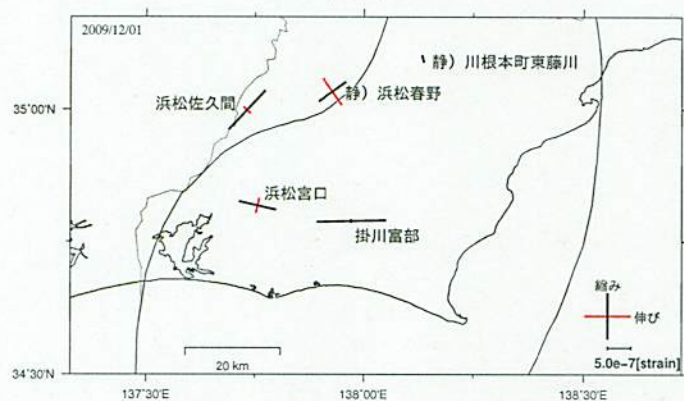
・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

多成分歪計データ(歪1・2・3成分から90日前を基準として算出)

2009.12.01～2011.06.23

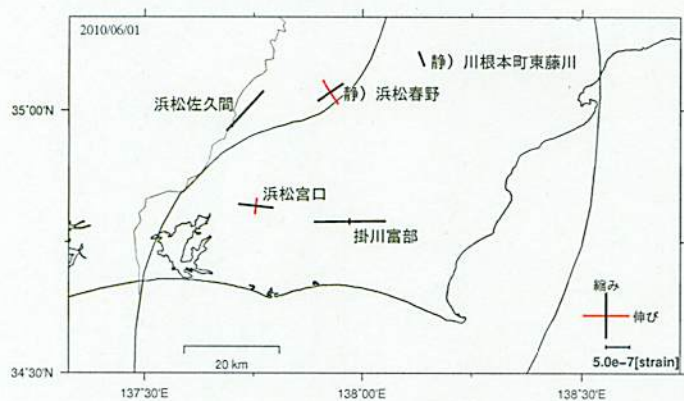
2009/12/01



2010/03/01



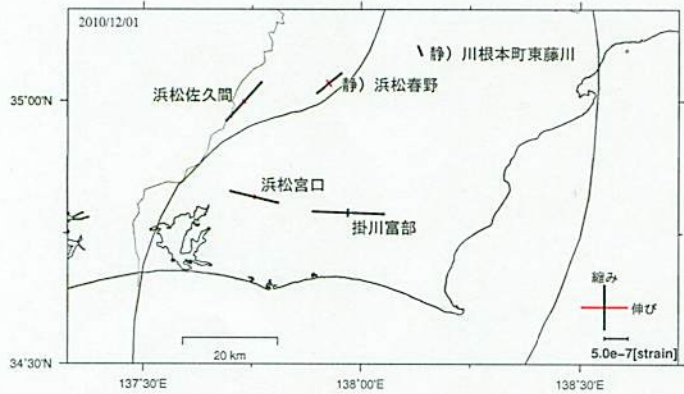
2010/06/01



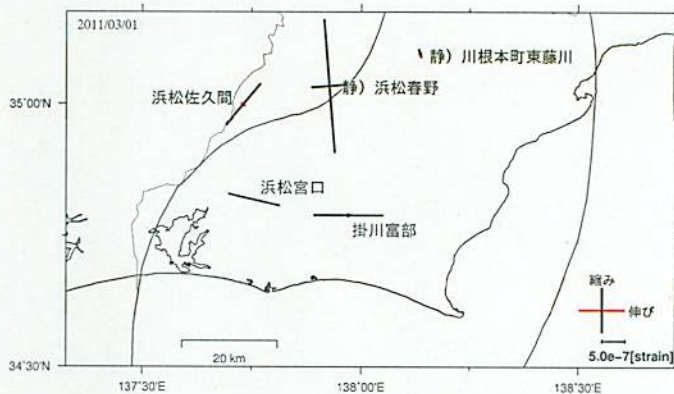
2010/09/01



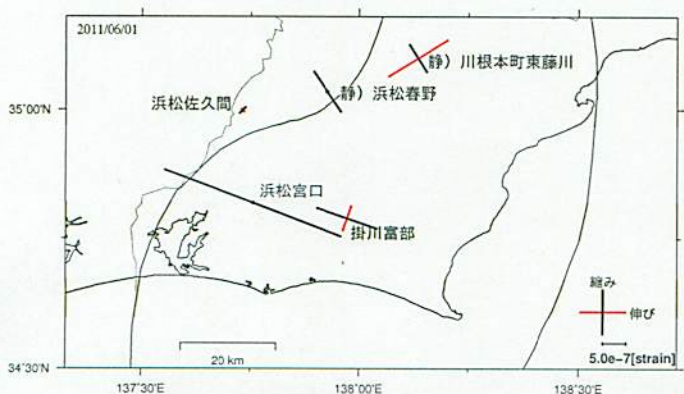
2010/12/01



2011/03/01



2011/06/01



2011/06/23



東海地域の短期的ゆっくりすべりの監視

2011. 04. 01~2011. 06. 22

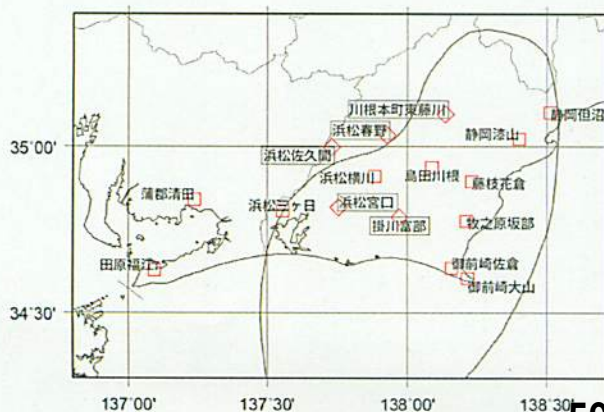
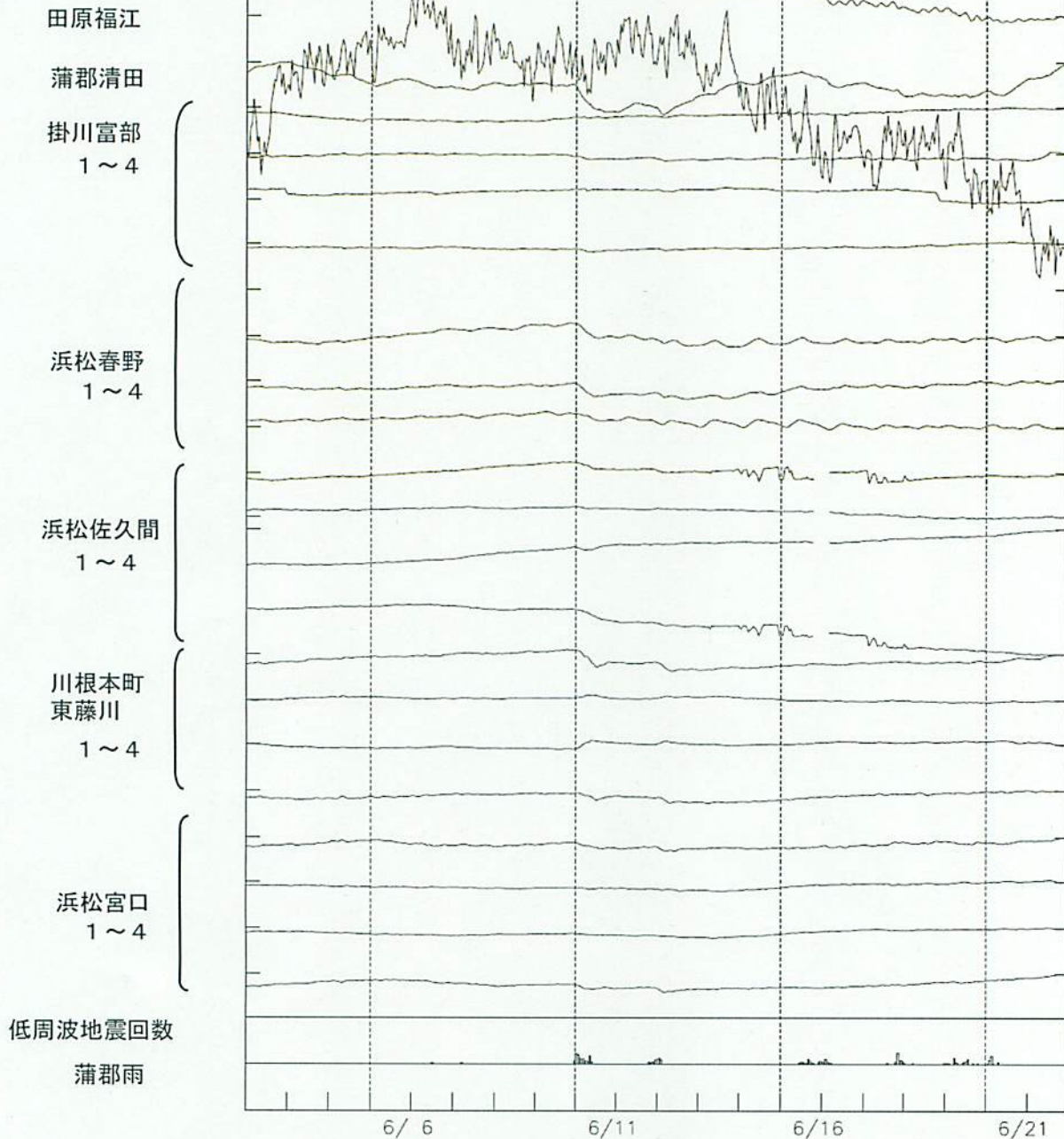
今期間、気象庁が監視している東海地方の各体積歪計、多成分歪計で短期的ゆっくりすべりが原因とみられる明瞭な変化は観測されていない。

東海周辺ひずみ変化

< 2011/ 6/ 3 0: 0 -- 2011/ 6/23 0: 0 >

1.0E-07 strain
60 mm/Hour
10 count/Hour

気圧、潮汐、降水（体積ひずみ）、磁気（多成分ひずみ）補正データ



- 体積歪観測点
- ◇ 多成分歪観測点

※浜松春野・川根本町東藤川は
静岡県整備

平成 23 年 6 月 27 日

判 定 会

気象研究所資料

天竜船明（ふなぎら）観測点におけるレーザー式変位計による地殻変動観測

気象研究所は、天竜船明観測点（静岡県浜松市）において、レーザー式変位計（南北方向、基線長 400m）による地殻変動観測を行っている。第 1 図に、天竜船明観測点および周辺に設置されている気象庁及び静岡県のボアホール型多成分ひずみ計の配置、第 2 図に船明トンネルと船明ダムの位置関係、第 3 図にトンネル内におけるレーザー式変位計の設置場所を示す。

第 4 図にレーザー式変位計におけるひずみ変化を示す。2010 年 11 月中～下旬の愛知県の低周波地震と同期した伸びのひずみ変化が見られる。また、2010 年 12 月 1 日～3 日頃の縮み変化は、船明トンネル近くの船明ダムの放流（国土交通省浜松河川国道事務所 Web ページの情報）、2011 年 3 月 5 日の伸び変化は、船明ダムの貯水（電源開発天竜事務所）によるものと考えられる。

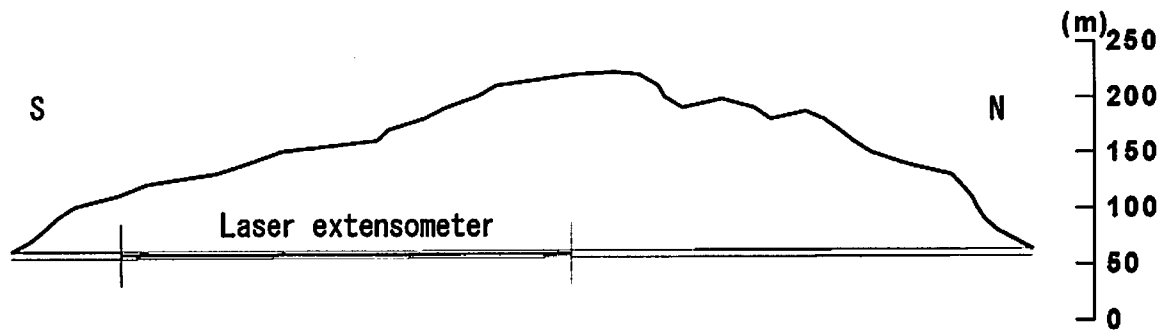
2011 年 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震では機器の特性上、地震によるステップは得られていない。この地震の後に、緩和的な縮み変化が観測されていた。大きな地震後の緩和的な変化は他のひずみ計でも見られる。



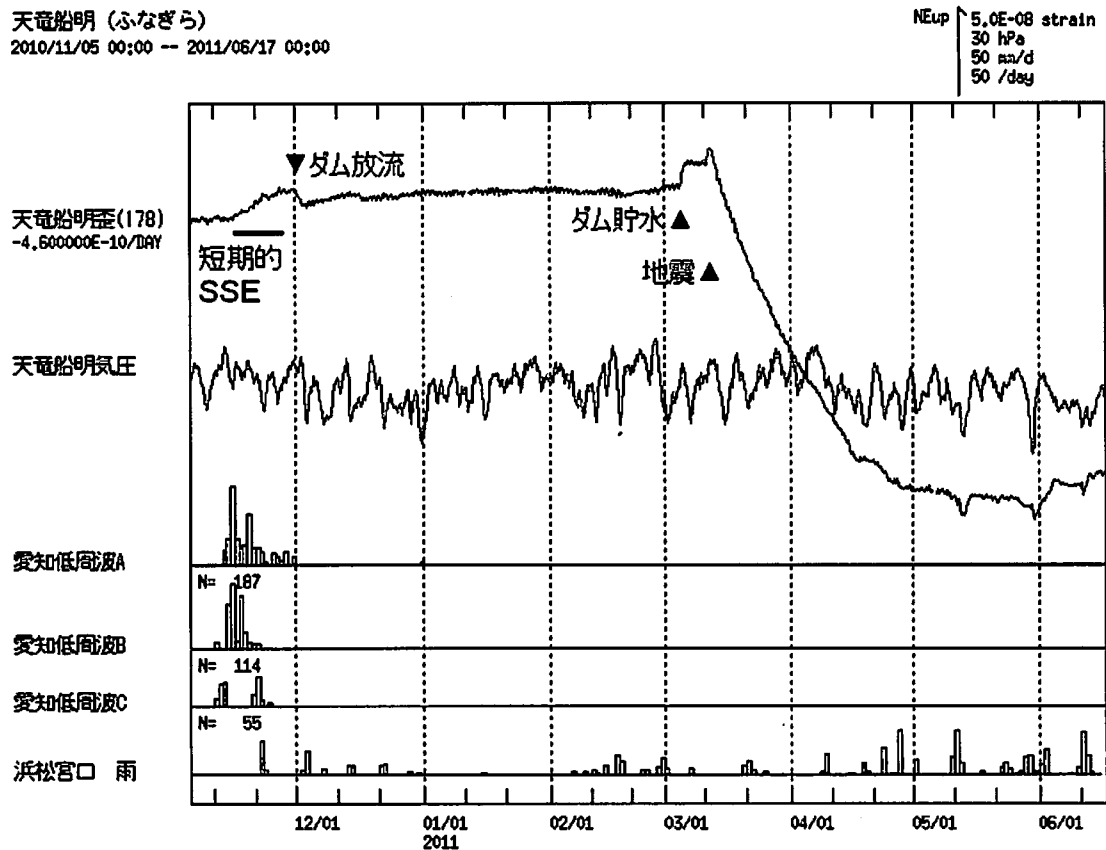
第 1 図 天竜船明（ふなぎら）観測点と多成分ひずみ計観測点の配置。



第 2 図 船明（ふなぎら）トンネルと船明ダムの位置図（国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図(二俣)に加筆)



第 3 図 トンネル内における設置場所。右のスケールは標高を表す。



第 4 図 天竜船明 (ふなぎら) 観測点のレーザー式変位計によるひずみ変化 (時間値 ; 2010 年 11 月 5 日 ~ 2011 年 6 月 16 日)。